

背中に尖った部分が多いポケモンは高確率で一番最強になるし殿堂
入りもする

黄雨

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

おれはオヤジに比べたらそこそこのニドラン使いだがある日見たことないポケモン使いに現実を突き付けられた

トキワの森でピカチュウ探検隊やっていると通りすがりのレッドキヤップ野郎と目と目があったので対戦することとなったので

あしらってやろうと思ってたが結論からいうと俺の手持ちのニドラン族はそのポケモンにストレートに惨敗してしまい、折角のおこづかい90円を奪われる結末となった。

強者の証・ジムリーダーバッジ集めの旅に出ようと思った（憤慨）
オリ主の手持ちのポケモンが増えたり進化したらタグが変化するかも知れないでしょう（リアル話）

追記・ところでブロント語って何？↓試しに検索↓知識が充実↓心が豊かなので性格も良い↓高レベル↓経験豊富↓頼りにされる↓彼女が出来る↓ケンカが強い↓すごいなーあこがれちゃうな↓確かに凄い男だが謙虚に謙遜して「それほどでもない」というらしい

目次

1.	言っておくけど俺は既に二ドラン2ひき持つてる	1
2.	まずは準備運動に軽くトキワジム挑戦	7
3.	ライバルがどんなヤツかはまあ分かった(予知夢)	12
4.	ダイヤモンド・パワーの精神力(はがねタイプ)	17
5.	お月見山タイマン前編	23
6.	お月見山タイマン後編	30
7.	遠慮は最強だと思った(リアル話)	35
8.	恥知らずな理科系の男とカイのカセキ	41
9.	期待のルーキー水棲ナイト	47
10.	残念な事に強力な追加効果はミスしてた	55
11.	メガトンキックって攻撃技はととても強い	64
12.	忍者は耐え忍ぶ者である。そして耐え忍ぶ者は辛い(忍者のシ ヘイ話)	71
13.	ポケモン大好きクラブの匿名希望がポケモン自慢をしかけて きた!	80
14.	ねっとうは流れる水の勢いに炎の熱が合わさるダブル属性と いったところかな	88
15.	対戦が強い上にオトコマエ(ジムリーダー)	94
16.	かなり人気だからさらに凄いことになる(リアル主義)	103
17.	レポートにしつかり書き残した(レア情報)	111
18.	……なんでお前泣いてんの?(名無しのナイン話)	118
19.	どちらかというクチバ・シテイが良いという意見(リーダー シップ)	127

20. 汚いな……これがポケモンジムでやることかよ…… | 135
21. ピッキーン！ 閃き発動（期待） | 142
22. イツシユ語で指示出すのはズルイ意味がわからない | 151
23. おめでとう！ オムナイトはゴルナイトに進化した！（勘違
い） | 158
24. リアルに目撃したという意味があった（有意） | 166
25. なんだ急に拗ねてきた〜ナツメ | 173
26. 前門のニドラン族前門のオムナイト族状態でなす術なし
180 |
27. 鎧が盾なら盾は剣の地位にあるだろ？ | 188
27. トゲ甲羅の炎熱ブレスパ | 196

1. 言っておくけど俺は既にニドラン2ひき持っている

おれはトキワのもり最強って言われてる

地元ポケモンマスターなんだが

やはりというかこのへんの生態系の頂点に立つべき

最強のぼけもんといったらニドラン族だな

トキワの森といえばよくpopするのはキャタピー族。

こいつはムシタイプのせいかな貧弱に弱弱しいので

どくのはりでなんかいかつくと簡単に倒された

たまに少しウザイのは突き攻撃に耐性あるビードル族。

こっちはニドラン族といえども毒の針ではたくさんつつかないと倒せない

逆にニドランの♂だけがもつ強じんな角でつつくと簡単に倒せる。

これって俺だけが知ってるひみつのとくせいだべ？

その二種類のむしぼけもんが進化したのがコクーンとトランセルというのだがどっちもまゆに籠る引きこもりタイプなので攻撃するのをためらう（心が広大）

おれはこの森でポケモン育てたベテランなんだが

ピカチュウ族を狙うハンターのように

トキワの森をぐるぐるぐる回る回っているが

残念がはつきりいつて今日まで見たことは一度もない。

地元の学校で稀にだがよくウワサになったこともあるけど

そろそろ結論を出すピカチュウ出るのはガセだな・

認めよう俺はこどもの噂に踊らされたアワレな小学生

こんなに頑張つて探してるのに出てこないということとは

もうピカチュウはトキワのもりには全滅にせいそくしてないの
しょう

それが最強のポケモン連れ歩いてると

全身からかもし出すエネルギー量が

オーラとして見えそうになってるのが恐いのか？

結局ピカチュウを見つけたことは出来なかったおれはいったん草むらからでて木陰にしゃがみこむとモンスターボールから飛び出してはぴよんぴよん頑張ってたニドラン二匹をナデナデするとそろってすり寄ってくる

かわいい奴だと思って油断するとどっかのトゲが刺さるのでご主人様といえども油断できない。

もしもだがペットに毒くらったりしたのを公共の国家権力とかにばれたら保健所に呼ばれて一環の終わり。

どくポケモンのどくを扱えないトレーナーにはどくタイプポケモンの育成は難しい。

おれはトレーナーだからよ。そういうふ手際で相棒をなくさないつもり。

ニドラン（♂）のニツクネームはリアオス

ニドラン（♀）のニツクネームはリアメス

こいつらはねーちゃんに捕まえてもらった。

ねーちゃんもまたニドラン族の♂♀二匹を率いてピカチュウゲツト目指してたが

社会の荒波にもまれてしまつてな。

今ではタマムシ大学の女子大生だべ。

いっぶくに休憩中なので今からおやつ時間

海外ではポケモン系フードというのがあるらしいが俺はにゆるルートもつてないので手作りゴハンだべ？

リュックからお手製の調理きのみを差し出してやると美味そうに食ってくれるのがホンワカして良い。

ニドラン族はオスもメスもだが背中に尖った部分が多くあの部分でさらに敵に致命的な致命傷を与えられる

♀のほうがちよつと僅かにトゲの数が少なめだが

どっちの色も紫っぽいのでパープルヘイズっぽいのが宿ってそう
で強い

ちなみにパープルヘイズっぽいのはどくタイプが持つと
光と闇が両方そなわり最強に見える

どくタイプ以外が持つと逆に頭がおかしくなって死ぬ

ついでにいうとパープルヘイズってのはエスパートレーナーマン
ガで架空の完全オリジナルポケモンばかりが登場するベストセラ―
『じよじよに奇妙な冒険』に出てくるどくポケモンだべな。

しばらくリアオス&リアメスと戯れていると学校では見たことな
い同い年か年下くらいのレッドキャップが通りすがろうとしていた

あの帽子は伝説の最年少チャンピオンのうちの一人のパクリのニ
セモノだな赤い帽子被っただけで強くなったと思う浅はかさは愚か
しい。

なんかたまたま目が合ったのでおれはそいつに歩み寄って言っ
てやった。

「おしい？」

このもりにやせいのピカチュウがいるらしいぞ？

おまえみかけたことあるかよ？」

問いかけつつおれはニドラン♂を繰り出す

トレーナーは目と目があつたらタイマンという暗黙の了解はあも
りにも有名。

ここでいうタイマンは神聖な喧嘩の意味だ。

レッドキャップは無言に首を振り、ベルトからモンスターボールを
取り出すとこの辺では見たことないポケモン繰り出してきた。見た
目はどちかというとひよろつとして女々しい感じなのだがしっぽに
炎が宿り強者のオーラが見えそうになってるヤツだった。

開幕から必殺のニドキック使うと読んでいたらしく足払いしてき
たりリアオスがバランス崩してダウンしたところにギロチンのひっか
くがきゆうしよにヒットしたのキャリアオスがあつという間にやられ
てしまった。

「なんだ今のは・・・」と言うがそいつは冷酷だったひんしのリアオス
引っ込めてリアメスをくり出すと返事の代わりに空中で爪を振りま
わさせてきたが上段ガードで防いだそのまま攻め込まれると思いき

て防いでやると思い

リアメスにガードさせてると突然火柱を上げながら物凄い勢いで突進してきたこれはまずいと情景反射でひっかかせるのと偶然にも前足が投げみたいに決まってダウンさせた。

次の瞬間レッドキャップの目つきが変わった「どうやら手加減の必要は無いようだな」と言うとその獲物を見据える目つきが俺を捉らえるただならぬ気配に思わず後退りするとリアメスにも動揺が伝わってしまったのかついげき前に立ち上がった炎のしっぽポケモンはその隙を見逃さなかった一気に駆け寄ると突然宙に舞いしっぽのひのこを散らす

目元が熱いのかリアメスがきゆうんと鳴いたところに鋭いつまきがヒット俺はもはや袋の中のコラツタ状態のリアメスから思わず目を反らす。リアメスは悲しい鳴き声をあげて倒れていた。

放心する俺にそいつは「相手が悪かった。しかし今まで闘ったトレーナーの中でももつとも強かった」と言い残し去っていった

ちよとSYレならんしょこれは・・・？

おれはこのシマでは結構有名で対戦でも負けることはまず無かったんだが生まれて始めて始めてほんの少しビビった。

悔しかった。

おれのシマじゃ今のノーカンだからという余地すらない完膚なきまでの完封に完敗だった。

その後トキワ・シティのポケモンセンターで回復してもらい夕方すぎに実家に戻った俺は両親に言った。

「明日から強者の証ジムリーダーバッチ集めの旅にでることにした」

「やっと思う気になったか息子よ」

「ピカチュウはもういいの？」

「ねーちゃんの代わりに捕まえてやろうと思ったが捕まえたという証拠を出せといわれても出せるわけがないと言う理屈で最初からピカチュウの捕獲率は0%だった」

おれが落ち込んでるように見えたのかテーブルの隣のニドラン専用りびんぐでできるみ飯食ってたオヤジのニドキングが立ち上がって

おれの頭を軽く撫でてくれた。

子供の頃から一緒だったやつだがおれはコイツの背中の中からのトゲから男らしさとは何ぞや、闘争心とはなんぞやと教えてくれた最強のポケモンそれがニドキング。

あのレッドキヤップはただのコスプレ野郎じゃなかったまさしく鬼の力を持ち主と言ったところかな

火炎をまとってジャンプにとぶポケモンはまさに強者の一文字につきる

しかし最強ポケモンじゃない最強ポケモンがニドキングなのは当然に決まっている。

その証拠のログを確保するためにおれはあの男に勝たなくっちゃいけない。

「よって弟よ。トキワの森で伝説になってるポケモン、ピカチュウ探検隊リーダーの地位はお前に譲ろうと思う頑張って捕まえろ?」

「にーちゃんでも無理なのに俺にできるわけがないよ」

「やはりお前は馬鹿だな、大切なのは捕まえようとする意思であつて結果は無関係。おれの探索では見つからなかったがお前のやり方なら見つかるかも知らない向かっていく限りいつかは捕まえられる? 捕まえようとしてるんだからな」

おれはジョジョに奇妙な冒険の名台詞をパクってそういうと弟は黙った。

例えばだが「兄より優れた弟など存在しねえ」と言った兄が弟に負けるシーンある胸に七つの傷をもつゴリキ一の旅を描いた格闘ポケモン漫画『北斗ばくれつ拳』に有名な名台詞だがおれはそうは思わないな。

その名台詞を言ったゴリキ一は弟に負けてる訳だし、こいつは俺よりポケモンレンジャー系の探索能力持つてるかもしれないしな対戦ゲームでは負けたことないけど

夕飯後、おれは弟を連れて夜の22番道路にでむきニドラン♂♀を捕まえてやった。

弟にニツクネームを決めさせそのままくれてやると飛び上がるほ

ど喜んだがこれで俺がいなくなっても寂しくないはず

これはもかしもかしのその昔、シンオウ地方から移住後に代々からニドラン族を愛好し子供の頃から親とか兄弟のニドランとともに育ってきたポケモン大好きくらぶの一級廃人、ブロンテ一家のニドラン継承法なのだよ

2. まずは準備運動に軽くトキワジム挑戦

まずは準備運動に軽くトキワジム挑戦。

トキワ・シテイは都会だべな

トレーナーの強さの力のレベルも高い

ジムリーダーは最年少チャンピオンのうちの2りのうちの1人と
いうだけあって

ポケモン番長の腕自慢が集うし結構エリートのエリートトレー
ナーが

ジムに挑戦に侵入するのも見かけたことがある

俺はリアオス・リアメス二匹とバッジ集めの旅に出ると決めた翌
日、朝イチでそんな出入り激しいトキワジムに入ろうとしたら開いて
なかったみたいで鍵かかった。

トキワジムはポケモンリーグ公認ジムリーダーが存在する八つの
ジムのうちの一つ。

このバッジ持つてると発言権強くなり就職にも有利。

更に全部集めると最終的に口答えできるポケモンいなくなるとい
う。

「ほう？ 俺に恐れをなして立てこもり作戦か？ 早く開けるべき死
にたくないならそうすべき」

すると後ろから不意だまに「どうしたアイアン？ 見学か？」と声
かけられたふりかえるとジムリーダーがちょうどポツポ族の最終進化
形態、ピジョットからおりるところみたいだった。

逆立った髪に小シャレた着こなしはクール系でイケメンの大人の
男。

こいつトキワジムリーダーのグリーンっていつて講習とかで稀に
だが学校に子供に教えに来てたこともある人で顔見知り。オーキ
ドっていう博士の有名な孫らしいが2りいる最年少チャンピオン
のうちの1りというくらいのことしか詳しくない

ちなみにおれの名前はアイアントっていうポケモンのように頑丈
で働き者になれという意味をこめてつけられた名前らしい学校の授

業の名前のゆらいで親に聞いたから間違いない。

「バッジ貰いにきたぞ。はやくあけるべき」

「お前旅に出てなかったよな、いまバッジ何個持ってる?」

「0か8かで言えばゼロでノーでナツシング」

「ははっ。ならおまえにやまだ早い」

どういふことかと聞くと「このジムはバッジ7つ集めてから挑む場所なんだよ。今のところはな」と言われた。

たまにいつも行っていた学校でも先生が言っていた気がするな……

「悪いな『ジム戦に出せるような、よく躰けた低レベルのポケモン』はまだ揃ってねーんだ。おじいちゃんの手伝いしてたころの名残りで数は揃ってるんだけどな」

ジムリーダーになるということは色々な人と戦うことになるということだから相手のレベルに合わせたチョイスができないとダメらしいグリーンはその辺がまだダメらしかった。

まあ誰にでもダメな時期はあるおれは広大な心で「許してやろう俺は優しいからな」というと何故か苦笑いされたがその後礼儀正しい大人の対応で「バッジ七つ集めたらまた来い。相手してやる」と闘争心に火をそそぐようなこと言われた

それが引く理由にはならないので「バッジ戦じゃなくてもいいぞ。おれはおれのポケモンたちと一緒に世界最高のレベルを体感したいだけなんだからな」というと怖いもの知らずの子供に恐れをなしたのか対戦してくれることとなった。

ジムの中は広くてがらんどろ。

まるで今まであったものを鬼の破壊活動で取り除いたみたいな空間であった

グリーンが対戦場のタイムンに移動するのを待ってやると合図がでたので

「いけー リアメスー!」

自慢じゃないが課外授業でトキワの森行っているとき「キャタピーキラーですね」と言われたこともあるうちの1匹をくりだすとグリーンはまったく俺が今までまったく見たことの無いポケモンを繰り出し

た、

「カツケエー！」

ついつい俺は興奮して叫んでしまったハガネカラーのかたいいしにゴツゴツとして尖った部分が多そうに見える背中は圧倒的強者の風格なのだが一本角は雄雄しく尖っていたおなかのシマシマ模様を見せる直立の姿はまさに岩タイプを削岩機！ おれが感動してるスキにグリーンはなんか指示してみたみたいでそいつはリアメスに踏みつけ攻撃しようとしてた。

「避けるべきー！」

リアメスはバックステップで距離をとりジャンプしたところがそれはただの踏みつけ攻撃じゃなかったグラグラと地面揺らすしんきやく攻撃で着地狩りの追加効果があるのか着地したと同時にシエイクされ揺れ方がやばいのかしぐダウンした。

直撃じゃないのにこのいりよくかよ……

「つよすぎる……」

「こいつはチャンピオンになった時に使ってる古株だよ。」

お前がバツジ戦じゃなくても良いってんで久々に出させてもらった。

ま、お前のポケモンがこいつに一発でも当てたらお前の勝ちで良いよ」

これが元カントーチャンピオンのポケモンって奴か……（遥か高み）

バツジ戦ではもうすこし大人しいヤツを使うらしい。

どっちにしてもかなりヤバイ。

おれはリアメスを引っ込めてリアオスを繰り出すと

リアメスがやられたことが分かったのかかなり張り切っていた

やはり分かっていたことだがあの炎のしっぽポケモンより断然強い。

だが相手が強ければ強いほど負けん気に反発精神が高まるのがリアオス

攻撃的な前傾姿勢でにらみつけているとグリーンのぽけもんはや

せいが刺激されるのかギロリとリアオスを睨み返していた。

「後ろに回りこむべき！」

指示出すとしゅんかんリアオスはカカツつと前ダツシユしサイドステツポで向きを変えると小柄の体軀をいかしたかく乱戦法を始めた獲物を狙うグラエナのようにぐるぐるぐるぐる回った。

いっぽうグリーンは指示を出さない。敵はリアオスを見失わないように体の向きを変えるがだんだん追いつかなくなってる

そろそろかな……俺はせんきようを見極めて「ニドキツク！」と指示を出すと果敢に飛び出し背後から襲い掛かった「しっぽをふれサイドン」ついにグリーンが指示を出したサイドンとか呼ばれた奴はバツクアタックをしっぽで迎撃するとリアオスは簡単に打ち落とされた。

「おいイ!? しっぽふりふりは攻撃わざじゃねーっよ！」
「じならし」

再びサイドンは踏みつけ攻撃みたいに足を振り上げたりリアオスは頑張つて立とうとしてるけど動けないみたいだった。

じならしのしんきやく震動を直撃したりリアオスは完全に力尽きてダウンした。

「ま、こんなもんだ。

おまえのニドラン♂、結構良い動きしてたぜ。

あとアイアン。対戦相手のポケモンがどんな動きしても動揺すんな。

お前の動揺は必ずポケモンに伝わって動きが悪くなる。

バトル中にそいつは致命的だぜ？」

言いたいことを言うとそのままグリーンはよく懐いたサイドンの相手はじめたのでおれはニドラン2匹つれて今日もポケモンセンターに回復させてもらいに行くハメになった。

ヒールマッシンで元気になったリアオスはボールの中で悔しそうにガタガタ暴れる

出してやるとかまってちゃんや俺がついうっかりカツケエと叫んでしまったサイドンに嫉妬してるのは見て取れるだった。

「よしよしお前が最終進化したらあいつよりカツコよくなれるから安

心して良いぞ」

おれはリアオスを撫でてなぐさめてやりながらオヤジのニドキングを思い浮かべていた闘争心溢れるナイスファイターでクチバのポケモン大好きくらぶ本部では「スゴいぞーカッコいいぞー」とよくやってたな……回想してるとリアメスもボールから出たそうにしてたので出してやるときゅーきゅー鳴いてリアオスを慰め始めた……

二匹がいちやいちゃし始めるとジム挑戦者っぽい通りすがりのエリートトレーナー（リア♀）が「リア獣が……」と挑発してきたが誰も聞いてなかった。

俺は二匹が満足するのを待ってから言った。

「いつかアレに勝つぞ。おまえらなら出来る手はず」

リアオス、リアメスは揃って元気良く鳴いたやはりこいつらは最高だな。オヤジのニドキングと同じくとうそうしん溢れるナイスファイターだと悟ったよ（核心）

3. ライバルがどんなヤツかはまあ分かってた（予知夢）

決意新たにそばやくバッチを集めるべく

俺は昼前には地元を出てニビシテイに急いだ

ところが勝手知ったるトキワの森に

見慣れないガキが調子に乗っていた。

ツレの虫取り少年が泣いてたんだが

俺が近くまで寄ると「あつ、アイアンくん」と言うので

手を挙げて答えると背中向けてたそいつも振り向いた。

この手の調子に乗ったバカが良くかぶる伝説の最年少チャンピオンの証レッドキャップ

それはもうオキマリのありきたりだからどうでもいいんだが

それに追加してなんでだか口元に黒いマスクしてた。

額宛っぽいのを斜めにして片目わざわざ隠してる。

これってゲッコウガその他忍者っぽいポケモンとリアルニンジャが登場するフィクション漫画『虎の印ぐるぐる』の師匠系キャラクターかかしのコスプレだべ？

年齢は多分だが俺と同じくらい

「お前絶対コスプレ忍者だろ……」

「んだテメエ？」

なんだ急に喧嘩売ってきたㄟチャンピオンと忍者のダブルのコスプレしたやつ

おれはモンスターボール片手に「そいつ俺のツレなんだわ……感謝料払ってもらおうか」というと「へっ。つまり雑魚か」ときた。格下に見られてムカついたので「俺はトキワの森のポケモン番町なんだがおまえ、ニドキックでぼこるは」と言うのと「オレは未来のニンジャマスター！ ニドキックだが何だかしらねーが、眠ってしまえば動けまい！」という返事。

ちよつと僅かにガン光を交差せる睨み合い。

俺達は同時にモンスターボールを投げた

「行け！ リアオス！ 不意だまニドキツクだ！」

「なにっ！」

モンスターボールから吹き出るフラッシュも収まらぬうちにリアオスはそばやく着地し力カツつと前ダツシユするとジャンプして後ろ足のキツクをダブルでいれた。

「テメエ卑怯だぞー！」

「何か問題でもあるのか？ オレは学校の先生から「出来もしないことを言うな」と言われたことはあるが反則だともヒキョウだとも言われたことはない」

一流のリアルモンクタイプのポケモントレーナーは独自のアタツチメント装備でモンスターボールから出現直後のポケモンの動きを補助するという逸話は噂に名高いだろ。

「だ、大丈夫だ、半減で受けれる！」

はたして忍者ごっこクンがくりだしたのはマダツボミの塔で有名なマダツボミ。

どうやら突然のニドキツクに動揺してるらしく目がバツテンになってた畳かけるなら今だべ

「つついてダウンさせるー！」「かわせマダツボミ！」

どうやら雑魚なのは忍者ごっこクンだったようだなビックリしてるときに急に命令されても動けるわけがないここは落ち着くまでじっとガードさせるべきだった。

動揺してるマダツボミはどっちにどうかわせばいいかひよろひよろするばかりで俺のリアオスのつつつき攻撃には全く対応できなくてアワレだった

すると顔面にクツテイカル（三倍攻撃）が入ったのかマダツボミは鳴き声をあげてダウンした。

「くっそー！ 後でポケモンセンターに行かなきゃなんねーじゃねーか！ 頼むぞコンパン！」

マダツボミ引っ込めて次に忍者ごっこクンがくりだしたのは全く見たことも無いポケモン

目元がキヤタピーに似てるから多分むしほけもん。

全体的にまるくてよく転がりそうなんだが額のアンテナっぽいのがぴくぴく動いてた。

するとリアオスは後ろから見ても分かるくらい露骨にやる気でないポーズになったので俺はタイムアウトの選手交代のスキを窺っていると汚い忍者は「ちようおんぱの術！」とか言っつて耳障りな音をリアオスに与えた

露骨に嫌そうな表情に近くなったので俺はリアオスを引つ込めるとリアメスを繰り出した。

不意だまニドキックはタイムマンの最初のバトルのあただが最も有効なので二回も三回も使わない。

「あーっ！　まただよ反則！」

「は？　ちよつと待てよ。何も反則してないが言いばかりつけるのはズルい。生意気なんだべ」

「オレがわざの指示出した後にポケモン入れ替えた！　ポケモン入れ替えはターンの最初にやんなきゃいけないんだからなーっ！」

「お前プロのトレーナー？　俺とスタジアム会場で公式戦でもしてるつもりかよ？」

いるんだよなー厳密に対戦ルール守らせようとして場を白けさせるヤツ

俺の学校のグループではそういう空気読めないヤツは完全にシャツタアウトされていた

まあそういうルール厨にはタイムマンで分かせれば良いだけ

ちらつとリアメスを見るとコンパンとか呼ばれたやつ見て闘争心をみなぎらせ、倒す気満満になってた

だが勝手に飛び出したりせず俺の指示を待ってるのは素直に好印象しつげが行き届いてる証拠

「よし、しっぽふりふり作戦で行くぞー！」

おれの命令を聞いたリアメスはコンパンに背を向けてしっぽふりふりしでした。

顔をくるんとコンパンとか忍者とか見てたが次の合図に備えてる

のが見て取れるだった。

「っは！ 対戦バトルでしっぽをふるなんて雑魚い技を使うとはな！

コンパン！ ねんりきで黙らせろ！」

やっぱりこいつ油断したな

しっぽを左右にかわいくふるというわざには相手の油断を誘う隠し効果がある。

ケモナー特効だとオヤジは言ってたがケモナーというのは意味が分からない。

おれはリアメスに「いけっ！」とだけ指示すると首向けてるほうにダツつとかけだし何か空気がもじもじしてる塊を回避した「なんだとっ!？」と忍者が驚くヒマあらばリアメスはびよんびよん頑張つて回り込み、接近したコンパンにどくばり〜にどげり〜ひっかくと流れるような連続技たつたきこんだ。

「あーっ！ 指示出してないのに何回も攻撃してる！ ずるいぞ！」

「見事なコンビネーションだとかん心はするがどこもおかしくはない。

お前は頭が悪すぎるな、俺が行けといったのはここまでの連続攻撃しろという意味」

コンパンは足元ふらふらでいつ倒れてもおかしくなかったが最後は「どくばり」と指示出してトドメ。

後にはプライドスタズタにされたコスプレ忍者の雑魚がいた。

俺はツレに「いくら取られた？」と聞いてその同額を差し出すように忍者にいうと

金だけだして「これで勝ったと思うなよ！」と泣きながら去っていった。

「コンパン持ってるんだ。いいなあ」

すると虫取り少年は憧憬の眼差しで去っていった忍者の背中見えたおれは

「おまえのトランセルのニックネーム、キャッピーだっけ？ そろそろ羽化すっぞ。

うらやむ時間があるならちゃんとかバタフリー用のエサ用意したほうが良い。

羨望の理由で自分のパートナーをないがしろにするな」と言っ
てさつき回収した金を渡すと俺もニビシティに急いだ。

さいわい忍者がダツシュしたのはトキワ・シティのほうだったので
ポケモンセンターで鉢合わせることはなかった

かるくパワー・ポイントを回復してもらってから

俺は待合室のいつかくの座れるところで二匹をボールからだすと

朝から良く頑張ったご褒美のおやつを食べさせ

なでなでしてやる「よく頑張ったな」と声をかけると

もつと褒めても良いぞと言わんばかりにきゅいきゅい鳴いた。

俺も腹減ってきたので回復待ちなのか近くで暇そうなおっさんに
「どっか飯くうところある?」と聞くと「このへんのことなら外に案内好
きのやつがいるぞ」と言っで自分では動きたくなさそうだったな・
まあいいが

暫く二匹を好きにさせてからボールに戻すとポケモンセンターか
ら出てしぐのところにいる大人に「どっか飯くうところある?」と聞くと
案内してくれた。

行き先は一目さんお断りっぽい店構えの建物『ニビラーメン』なる
B級グルメが出てきたが岩塩がガンガンに効いたそれは今まで食っ
てきた塩ラーメンとは一線を画する味わいではふはふしながら食べ
てるとパワーが湧いてくるみたいだった。

いっぱい750円なり。

………

昨日親に旅立つ宣言して良かったな。

そのときおこづかい貰ってなかったら足りてなかったぞ。

おれは飯代はらうと今度からポケセンの中にある旅のこともト
レーナーだったらタダで食べる飯のヤツですごそうと思った(リアル
事情)

4. ダイヤモンド・パワーの精神力（はがねタイプ）

夕暮れ前にニビジムの前についたので早速はいると

中はトキワジムと違ってかなりの岩石の改造が施されていた

「おーっす、未来のチャンピオン！」

景色に圧倒されてると入り口脇に実況が得意そうな衣装のおっさんが声かけてきた

「おれは既にトキワの森のポケモンマスターだべ？」と返すと「お、おう、そうか」とか言ったあとこっそり「変な子だなあ」と呟いたのを俺の地獄耳は聞き届けているぞ？

ま聞かなかったことにしてやる俺は優しいからな。

その後このジムはいわポケモンメインのジムだという情報もたらされた

いわタイプというのはぼうぎよが基本的に強い種族が多いというのが一般的に常識。

最強にまで育つてないニドラン族では苦戦が予想されるのだが

さいわい必殺のニドキックが対抗手段になるので後は精神力の対戦ということになる。

決まりごとだからとトレーナー手帳見せてくれと言われたので見せると

小声で「バッジ0個です」と通信っぽいのしてた

これがグリーンが言ってたやつかも

たぶんだが相手のバッジの数でだいたい使うぽけもん選んでるんだろうな。

まあいいがおれは意気揚揚と正面で待機してるジムリーダーに近づこうとしたところ

ヒキヨウにも岩の陰に隠れてたやつが「まちな！　こどもがなんのようだ！　タケシさんにちょうせんなんて10000こうねんはやいんだよ！」とバトルを挑んできた。

そういえばジムにはジムトレーナーがいるのが一般的だったなトキワジムにはいなかったけど

そいつが繰り出してきたのはデイグダの穴で有名なデイグダ
俺はリアメスを繰り出し応戦すると仁義なきひっかくファイトが
始まった。

まあとうそうしんの差で勝ったのはリアメスだったがな
続いてイシツブテ合戦で有名なイシツブテが出てきたが
リアメスが興味なさそうな表情なのでリアオスに入れ替えると
イシツブテは左右から飛び出してるウデのパワーで器用にたいあ
たり攻撃していたがニドキックで撃退。

自慢のガンじょうさもけりの威力には耐えられなかったみたいで
倒れた。

ヒキョウ者はなんか時間とか距離とか言ってたが素直に負けを認
めて賞金を支払ってさがつた。

するとリアオス・リアメスの様子がおかしい

ボールから出してやるとなんか背中がもこもこ膨れ上がってる

すわヤバイ病気かと恐ろしい未来を想像していると二匹は

ニドリーノとニドリーナに進化していた。

「おー。でつかくなつたなーおまえら」

おれは二匹をなでると声帯も育ってるのか頼もしそうな鳴き声を
あげていた。

ジムに挑戦しにきていることも忘れて戯れていると「そろそろジム閉
めたいんだが……」と言われたのでわれに返ると申し訳なきようなジ
ムリーダーの姿。

「おつとと感動しすぎた感。おれはいつでも挑戦を受け付けてるぞ
？」

「きみが挑戦しにきたんじゃないのかい？」

「そうともいう可能性もある」

ジムリーダーは糸目のまま苦笑いしたっぽいが気を取り直したの
か

ポケモンリーグ公認ジムリーダーの威厳漂うエックスの構えだし
た

「おれは ニビ ポケモン ジム リーダーの タケシ！

おれの かたい いしは おれの ポケモンにも あらわれる！
かたくて がまん づよい！

そう！ つかうのは いわ タイプ ばっかりだ！」

「そうか俺はダイヤモンド・パワーの精神力なのでいわタイプの攻撃
くらいでそう簡単にはくじけないだろうけど」

「……ごほん！」

ふはは！

まけると わかって たたかうか！

ポケモン トレーナーの さがだな

いいだろう！

かかって こい！」

なんか前もって決めてたセリフ言ってるみたいだに聞こえる

しかしそんなことはタイマンが始まったら関係ない

「いけっ！ イシツブテ！」 「頼むぞリアメス！」

タケシが繰り出したのはさっきのやつと同じくイシツブテ族だつた俺の先発はニドリーナになったリアメス。あんまりやる気なさそうな様子から相手が弱だということがわかった

まあニドキックで仕留められるでしょう

「リアメス！ にどげり！」 「イシツブテ！ まるくなれ！」

リアメスにやるきがないのでイシツブテが先にウデとか丸くして顔面ガードしたりリアメスのキックがダブルで決まるがやっつけるには足りてない

ま十分なダメージを与えたっぽいげきのニドキックで更にダメージは加速して倒れた。

「うむ。いわタイプはかくとうタイプに弱い！」

ちやんと勉強してるみたいだね」

「それほどでもない」

タケシはイシツブテを引っ込めて次に繰り出したのは今までまったく見たこともない巨大なポケモンだった。岩と岩がつらなりゴツゴツしてる超重量級のヘビィ・ハブネーク！ 鋭い牙はみあたらないが雄雄しい一本角が強者の風格をかもし出していた。

たぶんシユミでポケモンやってるやつはこの巨体だけみて「勝てるわけがない」と諦め表情になる

俺もその巨体の全長に圧倒されかけたがダイヤモンド・パワーの精神R.Y.く、つまり鋼のように硬い精神力でこらえる（はがねタイプはいわタイプにつよい）

リアメスは心配そうにこっち見てたがおれがメンタル持ち直すと安心したようにデカイのに向き直った。

「行くぞリアメス！ しっぽふりふり作戦だ！」

リアメスは育った体軀をしならせてしっぽを振り始めるとタケシは完全に視線がリアメスにしっぽに囚われていた。もし化してこれがケモノーってやつか？

しかしタケシは気を取り直して「イワーク！ がんせきふうじだ！」とさけぶとイワークと呼ばれたバカデカイ奴はうなり声をあげてのしかかるみたいに岩のボディを落とそうとしてくる「行けっ！」俺はとっさにダツシユさせたが時既に時間切れ。岩籠の鳥籠に捕まっ
てしまいだっしゅつすることはできなかつた

閉じ込められたリアメスが見えない！ 見えにくい！

だけど指示どおり頑張ってるのがガンガン岩蹴る音で聞こえていた「リアメス！ 良くやった！ 戻れ！」声を張り上げて引つ込める意思を示すとタケシはイワークを移動させたスキマを縫って俺はリアメスをモンスターボールに戻した。

「指示できない状態と悟るや手持ちに戻すか。」

うん。きみは筋が良いね」

「頼むぞリアオス！」

俺がリアオスを繰り出すとなんかいつも以上に張り切っていたイワークよりタケシに闘争心剥き出しでかなり頼もしく見えた。するとタケシは「たいあたりだ！」と指示するイワークはその巨体をいかしたフルパワーたいあたりを繰りだしてきたが何回かニドキツクしてるとイワークは倒された。

タケシは「良く頑張ったなイワーク」と労うとイワークをモンスターボールに戻していく。

「・・・(´)ほん！」

きみを みくびって いた ようだ

ぼくに かった あかしに

ポケモン リーグ こうにん グレー バッジを さげよう！

グレー バッジを つけてると

それだけで きみの ポケモンは つよくなる！」

「マジで？」

バッジのあるなしでポケモン強くなるとかズルイ」

「あつ、すまない。その効果は一昨年から無くなってるんだ。

たまにうつかり間違えちゃってね。聞かなかったことにしてくれ」

なんか締まらないオチだったけどもあれタケシからグレーバッジ

貰った。

これでバッジ0個のやつより発言権強くなるな素晴らしいバッジ

だすばらしい。

「きみのポケモンはきみによく懐いているし、淀みなく指示を受け入

れて行動していた。

ちやんとポケモンと向き合って、パートナーとして尊重してる証拠

だ。

きみにはこの『岩石封じの技マシン』をあげよう。

ニドキングやニドクインに進化すれば覚えられるようになるはず

だ」

「ほう、おれの将来性を買ってるのか？ タケシはなかなか分かって

いるな」

俺はジュースを奢る約束をしようとしたがワイロっぽくなるらし

く断られた。

もう日が暮れたので今日はもうポケセンで泊まってくと良いとオ

ススメされたおれはヒールマシンで回復してもらうに行くついで

にそうすることにした。

ちなみにポケセンの飯は食べたモンじゃないというレベルではな

いが幾らでも食べたいというレベルでは無かったタダ飯食って味に

文句つけようなんておこがましいから黙って食ってシャワー浴びて

クソして寝た。

5. お月見山タイマン前編

ニビ・シテイといったら何かと言われたら

やはり一番にあげられうるのが博物館なんだが

社会化見学でいったことあるからスルーして三番道路。

つぎのひの朝、ヒールマツシンで良く休んだ二ひきと一緒にあさごはん食べてからトキワ側じゃない東の出入り口からしっぱつした。

ここはニビ・シテイのポケモン自慢たちがたむろしてる三番どうろだという

朝からぼけもんと遊んでた奴らと対戦挑んだらそこそこ応じてくれたんだがポツポにコラツタ、キャタピー族にビードル族、あとたまたにオニスズメとかイシツブテ使ってるやついたがどれも俺のニドラン族には敵わないようだな。

リアオスもリアメスもどっちもだが身長・体重変わって動きに感覚が違うから破壊力バツ牛ンの指示がてきかくに出せてるは言いがたいが、シユミでポケモンバトルしてるやつらなら誤魔化せるラベル差だった。

リアオスは男子から尊敬の眼差しを、リアメスは女子からは羨望の眼差しで引き寄せていたらしいカッコいいカワイイとの言葉に得意げだった。

ちよつと進んだ先になんか2り組が見たことのないポケモン使ってきて即ひん死に瞬殺されたがそいつらポケモンに人生捧げてそうなおトナだった

これは明らかに今の実力の範囲外なのでノーカンのノーコンテスト。

こんなとこで何してるか聞くと外来種のせいでタイプが変わったっぽい野性のプリン生態調査してるプロフェツション研究員なんだ。

いったんポケセンに戻ってからその先に進むとそのうちお月見山のおふもとにつくんだがリアオスもリアメスも興味しんしんに歩きたそうにしてるのがボールガタガタさせて伝わってくる。

おれはテキトーな草むらに入って二匹ともボールから出してやった。

そしたら2ひきともくんくん匂いかいだりマーキングしたりするとそのうちやせいのぽけもんも近寄って出てくるんだがそいつらは見慣れないニドラン族に警戒してるのか鳴き声とかで威嚇っぽくナワバリ主張してきた

「あんまイジメすぎるなよ」とだけ言っついて自主性に任せたトレーニングさせてると

リアオスは立派になつた角を活かしたパワーファイトを、リアメスは鋭くなった爪を活かしたテクニカル技をよく使つてて対戦のタイマンでもそういう風にしてほしそうなのをけなげにアツピルしてくるのが伝わってくる

そいえばポケモンは戦うのが好きみたいだぞ？

ぜいんがそうというわけではないが好戦的で強くなりたがる

そのこんげんはやはりというか、野生の掟だからだよなあ．．

焼肉定食という名台詞を学校で教わったんだがこれはよわいままだどつよい炎ポケモンとかに

焼肉にされるのが嫌だから強くなりたいたいんだという意味の四字熟語だべ？

しばらく遊ばせてから褒めてやり、お手製のみフード食べさせてやるとからだのガタイのサイズに比べて量が少なく見えた。

やはり進化すると食い気も増すみたいでもっと欲しそうな鳴き声をあげますが

残念ながら配分的にここまで。

ぐつと我慢させてボールに戻した。

やれやれ、昨日ダチのきやつぴーがどうこう言つてたが俺のほうがダメみたいだな

いったんニビ・シティに戻つてフレンドリのショップで良さそうなフード探すんだが

残念がはつきり言つてどれもピントくるものはなかった

ボールの中の二匹に見せながらなんだがあんまり

良さそうなりアクションかえってこ無かったしな探してもムダ

そしたらニビジムリーダーのタケシが入ってきて俺に気付いたのか「やあ」と声かけてきた

「ジムはどうした？」と聞くと昼飯休憩なんだと。ニビラーメン食ってたらしい。

「きみはどうしたんだい？」

「昨日こいつら進化したからよ、今までの飯だと満足たらないみたいで

良さそうなの探してきたんだがタケシのオススメはありますか？」すると2ひきが好きな味聞かれたのでリアオスは辛いのが好きでリアメスはしぶいのが好きだと答えると「この辺がいいかもしれない」と意見もしっかりするブリーダーシップを取ってた

慣れた手つきに四つくらい市販ポケモンフード取り出すと「こっちがリアオスくん用。こっちがリアメスちゃん用。半々に分けて混ぜてあげるのさ」と言うさまはポケモン育てやさん顔負けの熟練っぷり。

おれはオススメされるがまま買う前に店員に味覚があうかポケモンに味見させて欲しいと言うと困った反応されたがそのうち店長でできて事務室につれてかれた

すると「ホントはダメなんだけど」と前置きしてから味見させてくれた二匹とも満足したみたいなのでおれはタケシのオススメポケモンフードを購入することに決めていした

やはりジムリーダーはやはり優秀だな……今回のことでそれがよく分かったよ∩タケシ感謝

値段は旅の子供のトレナー料金で四つ300円と傷薬程度の値段に安かった

かいもの後、店長とタケシに「ありがとうございました」とお礼すると

「今後ともフレンドリイショップをこ最真に！」「バッジ集め頑張れよー」とエールもらえたので今後ますますの健闘を期待するのだっ

た。

いったんポケセンで回復したり飯食ったりしてからまた三番道路を歩くんだが

再びおつきみやまのふもとについた頃には夕暮れの時が近づいてきていた。

こんな時間から山越えするのは危険が危ない。

というのも何年前前に土砂崩れなんか起こって

いちぢきは山の洞窟入り口にあったポケセンも閉鎖されてたらしい

今は復興してるがそんな危ないところ夜に踏み込むとか

間接的に言えば自殺と同等だろ……

とりあえずおつきみやま洞窟前の上り坂のぼって洞窟に入らないルートを探そうとしたがやはりというかかなりのやせい専用のケモノミチしかみえなかった

まだ日は沈んでないケドどうくつの道のりがどれくらい長いかと思うと気がひゅんひゅんいく

だが俺はちよっと思いついたことあってポケギアでかーちゃんに電話。

「あらアイアン。どうしたの?」

「いまお月見山の前まで来た。なあなあねーちゃんにピツピ捕まえたらよろこぶかよ?」

「あらいいじゃない。でも今はあなたの冒険中なんだから、あんまりお姉ちゃんのことばかり気にしてたらダメよ?」

ぶつつ。とロクに会話しないうちにあっさり電話きられた淡白の反応にむむむとなったが見かけたら捕まえてばそこん通信に転送してやることはけっしていしている。

お月見山のぴつぴといえはカントー地方ではけっこう有名で、もしもだがヤマブキ・シティとかの大都会でファッションのかわいさコンテスト会場あったらピカチュウ&ピツピで埋め尽くされそうなくらい!

そこにイーブイ派閥やらコアの人気をを誇るプリン派閥やらが参

戦するとなるともはやかわいさ激戦区なのだがどのポケモンもどちかというところかなり希少種

中でもイーブイは規制される前に乱獲された結果いまではほとんどやせいにいならしい。

そいえばテレビ番組でどこか地方だったかイーブイのたまごの繁殖頑張つてやせいに増やそうとしてるってニュースあったっけな。うろおぼえだからあんまり覚えてないけど。

ポケセン入るとちようど出ようとしてた山登り男っぽい大柄のオトナがあんのじよう「夜にお月見山に入るのは危ないよ?」と注意してきたそいつは洞窟の入り口にたむろしなんか調べてるんだが「ピッピゲツトしたいんだけど」と話かけてみたところ怪訝なか鬼なつた山のことは山男に聞くとというのは当たり前だろ?

分からなかったら人に聞けという名台詞はあもりにも有名。

すると山登り男は気分よくなったのか「ピッピは夜のほうが気持ち出やすいけど、周りが暗くてフラッシュってわざがないと真っ暗でなにも見えないよ」「満月の夜にはピッピが山の広場で踊っているけど、無粋だからやめた方がいい」「今夜は新月だから人の足じゃ入れないくらい洞窟の奥の方にいるかもなあ」等等という有力な情報を提供してくれた。

おれはお礼してからそのへんの段差に腰掛けると、冒険の経験のレポートに今のピッピ情報とかジム戦の出来事、ポケモンフードのこととか、とにかく思いつくまま書き残していると「あつ、てめーはー!」とはなしかけられたのでそつち見ると忍者がいた。

「おいイ? おまえストーリーカーかよなんでついでくる?」

「そりゃこつちの台詞だぜ。なんでここにいんだ」

これでは五十百歩だな俺はバッチ集めの旅だという集めた数聞かれたのでトレーナー手帳見せつけると「なんだ一個か。やっぱり雑魚だな」とか言ってきた「じゃあそういうお前は一個以上もってるのかよ?」と聞くと6個のバッジが輝くとれーなー手帳見せつけられた。

「前ので勘違いしてもらつちや困るぜ?」

俺が本気のPTだったらテメーなんか楽勝なんだからな」

「本気ポケモン連れ歩いてない時点で底の浅さが知れるな

おまえもし化して手持ちコロコロ変えますか？

ポケモン愛つてものがねーっのかよ」

「うるせー！　愛だけでバトルに勝てるか！

ポケモンバトルは遊びじゃねーんだよ！

勝負しろ！

もう一回勝負したら今度は絶対に俺が勝つんだからな！

実力差ってやつを分かせてやる！」

なんかガーディの遠吠えみたいにきやんきやん鳴くので「うるさい
気が散る。今レポート書いてるところだから」というと忍者は「あくし
ろよ」とだけ言って黙った。

おれはレポート書きながらもなんでマダツボミとコンパンだけ連
れて

こいつがトキワの森うろついてたかに想像の翼を羽ばたかせると
どうせピカチュウ目当てだなと踏んでいたんだがどうやらその通
りみたいで

忍者の師匠に修行の一環で捕まえて来いといわれたらしい。

それが三日と持たずこんなところでサボってると言うことは

もう駄目かなこの忍者は師匠にもあきれられて裏社会でひっそり
幕を閉じる

「いや、捕まえたから」

「は？」

「捕まえたから。ピカチュウ」

「嘘つけ俺が二年かけて一回も出てこなかったのにビギナんずラツク
するのはズルイ」

「二年ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

「・・・俺はこれで忍者きらいになったなあもりにもひきよう過ぎ
るでしょう？」

もう今後虎の印ぐるぐるとか烈火オーバーヒートの炎とかバシリスク（架空の非ポ
ケモン生物）忍法帳とか楽しんで読めない

おれは忍者というジョブに対して今まで中立の立場で見えてきたけ

どやはりウソとしか思えないな

こいつウソついてまでピカチュウ確保したと言い張るらしいがウソだと見抜かれてる事くらいいい加減気づけよ

「じゃあ証拠見せてみるよできないんなら俺のかち」

「なんでそうなるんだよwwwあ、もう師匠に渡してきたから持つてませんwwwなあ今どんな気持ちwwwどんな気持ちwww」

「くだらん煽りではなく論理的に反論してもらおうか

それが出来ないなら俺の勝ちだ」

「くやしい？wwwなあなあくやしい？wwwごめんなーお前が二年かけたのにオレは一日で捕まえちゃってwww」

「どうせピカチュウ捕まえてなくせに適当こくなよ

ただの僻みなのは見抜いてるぞ

捕まえたなら出せと言ってるのに出せないのが証拠。

まあ出せるわけがないがな。実は捕まえてないんだから」

すると言いつ返しなくなつてゴマカしたいのか

とにかく対戦対戦とやどりぎのたねみたいに粘着がウザイので

俺はレポートを書き終わると「もう勝負ついているから」とだけ行つて

ポケセン行つて部屋の確保しようとしたが「逃げるのかザコイキング？」と

しつような煽りに普段は確かに心優しく言葉使いも良いおれでも

あまりの粘着ぶりに完全な怒りとなった

仏の顔を三度までという名セリフを知らないのかよ

「ボコボコにされたいらしいな」俺はモンスターボールを握りしめてそう言う。「ボコボコにされんのはテーマだよ」と返されたおれはボールを投げつけた

6. お月見山タイマン後編

「いけー！ かげぶんしんの術ー！」

いまだに名前も知らない忍者ごっこクンとのタイマン戦

忍者はヒキヨウにもボールからポケモンくり出すと同時にかげぶんしんさせるといふ

汚い反則技を使ってきた（不意だま行動させるのは良いが攻撃しないのはヒキヨウ）

俺は正堂堂とリアメスを繰り出すとまずは誰が出てきたかみやぶった

そいつゴルバットっていう、ポケモン漫画でよくワル者の手持ちにやられ役で倒されたあくつぽいタイプのやつ。

たぶんだが間違はなく俺の身長よりデカくてそのうえ空中をパタパタ忙しく飛んでいるのが分身わざのせいでブレブレに見えた。

「ほう。ニドリーナに進化してるじゃねーか。月の石でも拾いにきたのか？

だが関係ねーなア！ かげぶんしんの術ー！」

同じ技ばかり使って雑魚丸出しだな、まあいいが

リアメスは残像が見えるほどのゴルバットの動きについていけないみたいで必死にきよきよしてた。逆に俺はどっしり構えて汚い戦法に対抗する作戦タイム中

しかしポケモンバトルはいつだってリアルタイム。こっちが動かないと見るや忍者は更にぶんしんさせてていた。

常にぱたぱた飛んでるポケモンをちじょうポケモンが物理的に捕らえるのは難しい

空中圏は完全に支配されてしまい基本的に圧倒的不利

しかしパタパタするのにエネルギーのパワーつかって飛び続ける持久力ないのでそのうちスタミナつかれて羽根休めに降りてきたところをマウンととって押さえ込みボコボコにすればよいというのがちじょうポケモンがひじょうポケモンの主な攻略法。

しかしヒキヨウにも分身してるとなるとスキだらけなのにスキだ

らけじゃない普通にこうげきやってもまず当たらないと言っていないでしょう

のんびり考えてる場合か？ 考える時間があったら攻撃！

とあわててけしかけるのはむしろ思うツボツボで

スタミナ失われる上にいくら攻撃しても当たらないフラストレーションに

ポケモンの怒りのボンテージがあがって、いつもなら当てれる状態でも当てられなくなっちゃえしまう……という逆効果の悪循環に陥ることになるやせいのバタフリーに痛い目にあつたから間違いない。

仕方ないので取っておきの切り札を出す

これ見たらこいつもブロンテ家の一子相伝の奥義に土下座で謝罪することになる（勝利）

「戻れリアメス！ 行けリアオス！ ガンガン行こうぜ！」

おれはリアメスをモンスターボールに戻さず手招きすると寄ってきた代わりにリアオスを繰り出し自主性に任せるとびよんぴよん頑張ってた。

とこと戻ってきたリアメス撫でながら俺は「おまえ電気びりびり覚えてるか？」とタイムマン中にあるまじき声かけにリアメスはきゅ？と首をかしげてる

「ハッ！ 勝負を捨てたか！ まだまだかげぶんしんのじゅつ！」

ちらつと見るとリアオスはイライラしながらジャンプ攻撃してたぜんえんん角攻撃当たらないのがムカついているのは確定的に明らか。だがチャンスはぶんしんばかりやってる今しかないおれのリアメスへの声かけは続く「かーちゃん、セイブクインが使ってたべ？ 溜め池のニヨロモやつつけてたべ？」と言うと悩ましげに体ゆすったりぐずるがあんまり覚えてなさそう

ちなみにセイブクインというのはかーちゃん手持ちのニドクインのネームだべ。

俺はリアメスの腹のほうに手え伸ばすと内臓刺激してやった。

「もつとかげぶんしんのじゅつだ！」

お前一生かげぶんしんだけやってろ

しばらく刺激してるとリアメスからビリつとくるのですぐ離れる
パリパリツつと目に見えるくらいの電気びりびりが全身に纏いだし
はじめた

ニドラン族は普段は使わないが内臓のいろんなどに特殊器官
もってる

これは野生に生きてるとき環境にてきおうして一部だけ目覚める
系のパワーなんだが

一生使わないワケじゃなく普段は別のことに使ってるらしい

これを技マシンとかで刺激すると目標の技しぐさま覚えられるワ
ケ

おれはオヤジからニドラン族の特殊器官活かしたわざ教え訓練を
受けてる

これはブロンテ家に代々受け継がれる秘伝技の門外不出だから詳
細はひみつ。

カントーで博士といったらオーキド博士だけどニドラン族に関し
てなら絶対ブロンテ家の方が専門家で詳しい

「はははははは！ もーつとかげぶんしんのじゅつだ！」気分良くり
アオス見て笑ってるムカつく奴がいたがもうこれ以上調子に乗らせ
ないここから勢い根こそぎひっくり返す「良くやったりリアオス戻れ！
行くぞリアメス！ でんげきハア！」「はあ？」

リアメスのまと絞らない全方位電気タイプのビリビリ攻撃がゴル
バットに当たった。

ぶんしんは範囲攻撃に弱いというのは忍者漫画では稀にだがよく
書かれる「どれが本体か分からないならすべて攻撃すればいい」とか
そんな台詞を言ったのはだれだったかな・・・とりあえず俺の勝ち
は決定した。

「ウソだろおい！ ご、ゴルバット！ き、きゆうけつしろきゆうけつ
！」

「ついできのでんげきハア！」

攻撃なんか当たるわけナイト思ってたんだろな、ゴルバットはまともに飛んでられないくらい動揺してるところに更なる電気ビリビリがきて、今にもノックアウトしそうになっていた。

それでもおやの言うこと聞いてリアメスにちゅーちゅーしようとしたせいしんりよくは認めるが時既に時間切れ。前半のムダを取り戻すことは出来なかった「でんげきハア！」ゴルバットは飛べなくなって倒れた。

「テメエ汚えぞ！ インチキだ！」

「ポケモンバトルは遊びじゃねーとか言った口が何をほざくやらアワレで仕方がない。」

もう一回勝負したら今度は絶対に俺が勝つ（苦笑）

「ちっ。遊びは終わりだ。行けヤドラン」

堪忍袋の尾が切れたのか逆に口数が減った忍者はヤドンの井戸で有名なヤドン族っぽいけどヤドンじゃない別の何かを繰り出した「サイコキネシス」忍者はマジ切れした声で言った俺は雷属性の衝撃波を再び撃たせたが

ヤドランとか呼ばれたやつの顔色一つ変えることはできなかった直後ニドリーナは空間がぐによぐによしてワケワカランなんかに捕らわれて苦しそうに倒れた。

リアルでサイコキネシス始めて見たこれが最強のエスパー技つてやつか・

「出せよニドリーノ。さっさと終わらせるぜ」

という忍者は容赦とか全くしそうになかった俺はリアメス引っ込めてリアオスだと再びサイコキネシスのパワーがくる「かわせリアオス！」多分当たったら即ひん死っぽいので空間ぐによぐによ避けさせるがヤドランは顔色一つかえさずサイコパワー操作してリアオスを捕らえる。

リアオスは必死にあばれて超パワーからのがれようとするがついには力尽きて倒れた。

「これがオレとお前の本当の実力差だ」

「……………」

おれはたっぷり沈黙してから「おれのシマじや、今のノーカンだから」と言つてやった。

成長差押し付けてパワープレイとかトレーナーの実力差じゃないからノーダメージだから

ただ一言いうと多分同レベル体だった最初の対戦ではおれが勝ちつてることだな

「負け惜しみ言いやがって。とにかく、オレの勝ちだよ！」

「おまえがそれでいいならそれでいいけど？」

それで勝つたことになるんならな」

おれは大人しく賞金くれてやつてすぐそのポケセン行こうとすると思者は立ちほだかった。

「なんだよジャマすんなよ俺は今からコイツラ回復させるだよ」

「お前、名前は？」

「アイアンだけど人に名前を聞く前に自分の名前って学校で教わらなかったか？」

「オレはセキチクのシヘイだ。」

テメー、さつさとバッチ集めやがれ。

お互い八個集めたら決着つけんぞ」

シヘイって名乗ったヤツは言いたいことだけ言うとお月見山洞窟に入つていった。

「……やれやれ。こうも敵視されてしまつてはのんびり旅もできにくい（呆れ）」

俺はポケセンに入つて2匹をヒールマツシンに預けるとレポートにさつきのタイマンの反省点ガリガリと書き込んだ。

7. 遠慮は最強だと思つた（リアル話）

その日の夜にムカつきで眠れないんだが
おれはポケセンのタコ部屋から起きると

そのまま外に出た。

2匹の入ったモンスターボールはヒールマツシンのとこだから無い。
い。

ポケモン連れ歩かないでやせいの近くウロウロは危険なんだが
しぐそこにポケセンあるからまず大丈夫の手はず

空は月明かりが無いので星明かりなんだが

それでも暗く、段差も見えにくかった。

そろりと洞窟ン中覗くと暗くてなんにもみえにい

おれはそのへん寝そべって夜空みあげてシハイとのタイマン思い
出してたあのヤドランというポケモンはたぶんヤドンの進化系だべ
？

しつぽにトゲトゲと尖つた部分が多くおそろくだがあの尻尾を振り
回す戦法

得意に見えるけど実際はエスパーの超能力技攻撃でやっつけられ
た。

ということはあるのしつぽはガード専門の盾の役割の可能性もある
尻尾切断耐性を備えてさらに最初からバックアタックに警戒する
とは用心深いポケモンだべな

正面ならびやしつぽでは防げないと突つ込んだところをトラップ
でサイキック発動に迎撃するのが隠された真の本当のタイマンスタ
イルとみた。

これ突破するとなるとステップ能力の更なる向上が必要エスパー
攻撃は連続ステップで回避（超反応）

あいつらも進化したことだし内臓器官の覚醒進めてもいいかもし
れない

だがオヤジは口をすつぱくして言つてたが『対戦中にポケモンに行
わせる作戦や技は数を絞れ』という縛りを俺は忘れてないぞ。

そもそもの大前提ポケモンバトルはトレーナーとポケモンのチームプレーだということ

トレーナーが戦況見る<考える<指示を出す<ポケモンが指示を聞く<指示を理解<指示に合わせた行動

とこのように見て考えて決めてからじつさい動くまで時間がかかるんだが、有利になるかもとたくさんのお戦やわざを仕込むのは逆効果。

なぜならばやポケモンが指示を聞いてから実際に動くまでに「どうやるんだっけ？」と考えてしまうから。いちおうパソコン通信の機会判定でレベルとかステータス見れるのだがそこには何故かかしこさのステータスないので大した精度じゃなさそうアテにならない。

実際にバトルしてるポケモンが考え込んで思考するのはどう考えても致命的にスキだらけ。

成長するに連れて感覚的に身につくヤツとか体動かす系はわりと本能的に出せるけど今回おれがやったみたたく人間側がポケモンに眠ってるポテツシヤル覚醒させるやつは下手すつとすぐ忘れるらしいからな。

指示してからすぐ繰り出せるようになるまで仕込みの訓練期間も必要だし

そういう考える行為やるのがトレーナーだべ？

そこで俺は考えるわけだが今のアイツらだったら『でんげきは』『みずのはどう』『ベノムシヨック』あたりならちゃんと思えられると予想

実際いちぶ予想通り、リアメスはちゃんとできてた。

『れいとうビーム』『10まんボルト』『アイアンテール』『どくどく』とかそのへんはもし覚えさせるとしてだがもつと強く成長してからのほうが良い急に覚醒させると内臓がビククリするから一気にやってしまうとカラダが故障に痛める原因になる

なやましい問題だ悩ましいと頭を回転させていると洞窟内からゆらゆらほのおが近づいてきた。

ヤバイポケモンかと思ひ俺はポケセンのほうに起き上がって走るんだが洞窟内から出てきたのは例のレッドキャップだった。その隣

で出歩かせてる炎のしっぽポケモンは前見た時と見た目が違ってス
タイリシユになつてた

「……………」

レッドキャツピは俺をちらつと見るだけで無言で通り過ぎポケセ
ンに入ろうとするんだがおれが「おいイ」と声かけると足が留まった。

「そいえば名前聞きたかつたんだがおれはアイアン。お前は？」

「……ああ、誰かと思えばトキワの森のニドラン使いか」

「思い出したようだな。で、お前の名前は？」

「ない」

「ナイン？」

「名無しだと言った」

「じゃナインで良いこの間は負けたが次は勝つから」

「……、……………、……………、……………、……………、……………、……………、……………、……………、……………、……………」

なんか相手されてないみたいでムカついたがどちかというと社交
系じゃない可能性もあるどっちにしても会話は終わられたナインは
ポケセンに入つていった。

おれも夜空みるセンチメータルの気分がなくなったので借りた部
屋戻つて寝ることにする。

つぎのひ。預けてたポケモン回収して飯食つてると

シヘイとかナインとかも食堂にいるんだが

別におれら仲よし子よしじゃないので

同じテーブル囲んだりしなかつたんだが

シヘイがチラチラ見てくるのが目に付いていた。

ムシして飯を食い終えるとまずは腹ごなしに外で軽く運動。

せっかくの坂道なので2匹とも出して坂道ダッシュのかけっこさ

せるんだが

リアメスはたまに勝手にバチバチ

電気系の制御ができてないっぽいな。

するとリアオスがぐるると恨めしそうに唸り声。

ストレス溜まつてるかよ？

昨日のシヘイとのタイマンでいいトコなしだったからだな

坂道の下にある草むらで野性のポケモン相手させてストレス発散させてやった。

けどイライラ理由はそれだけじゃないみたいでどうやらリアメスのでんげきは

羨ましがってるのが態度から伝わってきた。

おれはリアオスなだめるべくナデナデするとごろんと腹見せて「おれにもやれー」と態度から言葉が容易に伝わってくるくらい全力でアツピルしていた

昨日どうするか考えといて良かった俺は『みずのはどう』のパワーに目覚めるポイントのツボをぐりぐりしてやった

したら何でだか角の先つちよから氷出してきた「おいイ？ 間違ったかよ？」どうやら俺はアミバのニツクネームをもつドクロッグだったらしい

アミバってよ？

北斗ばくれつ拳に出てくる敵キャラクターだべ？

これじゃ俺わるものの悪タイプだべ？

困るべ？

おれ不良じゃねーしよ。

これじゃ不良だべ

おすとこ間違ってたのか、れいとうビームの氷属性の内臓器官刺激してたらしい

一度ポチツとなと押した以上もう元には戻せない！

その日はでんきビリビリさせてるリアメスと角の先つちよから氷出してるリアオスの属性慣らしに今日は山へのアツタクやめてにして慣らし運行することとなった

さいわいリアオスはビーム攻撃気にいったみたいで飛んでるポツポツ狙ってはビーム撃って外してすぐパワー切れしてた。ぽそこんの機械的判定ではれいとうビームの命中率100%らしいけどアレ偽情報だな

それかそら飛んでるぽけもんの回避率ってかげぶんしんどころじゃないくらい異常に高いのか？

するとリアオスは早くも息切れに呼吸が荒れていたやはりれいと
うビームはまだ早かったか。ステータス画面には乗っていないスタミ
ナ切れしてるのは火を煮るより明らか。

こういうのポケセンで回復させると息切れクセつくからよ、おれは
そのまま坂道歩きさせて鍛錬させてやった。

ま昼と夕方の飯時間にはポケセンのヒールマツシンの力を借りた
がな。

その日の夕飯の時の話。

なんか殊勝な態度でシヘイが寄ってきたんだが「おまえ技教えでき
んの？」と

きたので「ニドラン族だけな」と答えると「なんだ使えねー」とか
言つてすぐ席を離れた

ウザイなお前ケンカ売ってるのか？

ま勝てない勝負はしない墓穴を掘るシユミじゃないからな。

どうやらそのままポケセン出たっておつきみやま洞窟にアタック
するみたいなんだが

ちよつと前にナインもポケセンから出て行ってた

なんだあいつらピツピ狙いか？ まあいいが。

次の日も同じ予定で過ごした普段使わない属性にうごきに馴染ま
せながらわざの訓練で一日使う。

そんな訓練中の昼すぎに偶然にも草むらでプリンとエンカウント
いたんだが俺は調査員のこと思い出し、毒針でしつようにつついで
弱らせゲットしてやった。

そのままニビ・シテイのほうに三番道路歩くと調査員の研究員がい
たのでプリン入ったボール差し出すと喜ばれ、お礼に『エコーボイス
の技マシン』くれた

ちなみにねーちゃんはプリン派閥じゃないのでねーちゃんに送ろ
うとは思わなかったぞ？

このエコーボイスというのは連続攻撃させると威力があがる鳴き
声タイプの音属性わざらしい

音属性というのは優秀そうだな音波耐性があるとないとじゃ攻略

難易度変わるくらいムツカシイRPGゲームもあることだし貰ったものは使いたいというのが人のサガ。

しかしここはグツと我慢したなんでもかんでも教えるのはよくない

というのはいはあらかじめ思ってたしな。

色々教えさせたある日突然なにをポカンと忘れるかわかったもんじゃない

俺は「せっかくですが遠慮します」と『エコーボイスの技マシン』をつき返すと「それではこちらの気がすまない」と金一封(100000円)くれた。

遠慮は最強だと思った(リアル話)

8. 恥知らずな理科系の男とカイのカセキ

何日かしているとシハイもナインも

ポケセンに見かけなくなつてた

たぶんハナダ・シテイのほうとかその他に進んだんだろうな

こつちもリアオス、リアメスどつちもかなり準備万端に近いし

そろそろ行くか。

しかし洞窟というのはその響きだけで好奇心への刺激が強い（大胆不敵）

おれのふいんきが伝わるのか2ひきどつちもが興奮するのが分かった。

しゅっぱつに決めた日の朝、飯食つてポケセンから出たところ

「カセキヤッター！」とか言つてダツシユする白衣メガネくんが洞窟から出てきた。

まともに探検しようとしたところに水が差された感。

そいつあわててダツシユしてくんだがなんか途中で白衣のポケットからおとしものしてた

「おいイ」と声かけたときには坂道の下だった。

・・・たぶんだがニビかがくはくぶつかんまで行つたのかも。

おつきみやまでカセキといつたらはくぶつかん持つてくのがカントー流らしいべ？

社会科学見学で言つてた。

何回も三番どうろ往復するのしんどいんだが仕方がない俺もカカツとダツシユして再びニビ・シテイに戻り博物館のほう行くとあんのじよう「ない！ ない！ ナンデ!？」とアワレにも泣き叫んでいるたぶんさつきのメガネくんの声でした

俺は通りに歩み寄り「おとしものだぞ」と差し出すと「アーツ！

泥棒！」と言いがかりつけてきた騒ぎを聞きつけた警察が話しかけてくる

おれは客観的な第三者的立場からの事実を言つたがそれとは別に詳しく聞きたいらしくニビ署につれていかれた。

ま無罪なので冤罪になるわけがない

おれが冷静に話してたのと冤罪なすりつけ犯がパニックってたのが幸い

誤解は解けたんだがムカついたので返せ返せとくるメガネくんに俺は言った

「せっかくおとしもの届けてやったのにお前はわめいてばかり

そのうえ無罪のつみで人を陥れようとするやつに

親切にいられるほどおれはオトナじやない見ての通りコドモ

ムカついたから返してやらないんだからな

どうしても返して欲しかったら『拾ってくれてありがとう』くらい言うべき」

するとメガネくんはブチ切れ言葉にならない叫び、警察も困ってしまい警察官ポケモンのガーディもわんわん鳴くんだが一言いえばいいだけなのに、このメガネこつちがガキだと思ってナメてるのかわらくちばっかりいつてくるかなりの悪印象。

なんかもうコイツは話にならない俺は警察官に「そいえばこういうところではカツドン奢ってくれると俺は聞いた」というと「いいけど、出前取るから自腹になるよ?」と現実を突きつけられたじゃあいいです。

ポケモンポリスはまだ話を通じると思ったのか俺をなだめにきたが

「謝れ!・謝れ!・はやくあやまっテ!!」

とこつちも向こうのネガ発言に負けず

対抗しているといい加減にしてほしいんだろうな、

提案でカセキ所有権はポケモンバトルで決めたら良いというと

なぜかメガネのほうが俄然やる気になった

別におれはカセキ欲しいわけじやないんだが・・・まメガネが謝罪する気なさそうだし、なんの進展性もないままネガネガされると俺の怒りも溜まってしまう

おれらはニビ署前で向かい合い距離をとり、警察官立会いのもと夕イマンすることとなった

「頼むぞリアオス！」「いけ！ コイル！」

メガネが繰り出したのは名状しがたい空とぶ磁石アンドネジだった。その中心に位置する本体っぽい丸いものについて1つだけ目玉がジツとリアオスを見つめる。リアオスはやる気があるんだかないんだかの反応。どうやら♂でも♀でもないみたいだな。

だがそれよりもコイルとか呼ばれたそいつがどうやって浮いてるのか全く正体が掴めない！ 掴みにくい！

「コイル！ でんじは！」するとメガネは先に指示出したこちらも「リアオス！ れいとうビーム！」と対抗。

狙いをつける訓練は十分だったみたいでビームはしっかりとコイルにあたった・・・けどあんまり怯んでない。

機 hệ系統っぽいだけあってビーム耐性持ちかよ。

交差攻撃になったのかお返しの電気エネルギーのビリビリがリアオスを襲う

みたかんじ痛くないっぽいが目に見えて動きが鈍った

むむむ。

実際に見るのは始めてだがこれは・・・マヒ状態だべ？

むかし学校の授業でちゃんと習った。

動きが遅くなって、たまに痺れて動けなくなるべな？

開幕からこっちの戦闘力奪ってくるとはいやらしいやつ「リアオス！ ガンガン行くぞ！」おれは細かく指示するとかえって動きづらいと判断してある程度任せた「ヒヒッ！ コイル！ ソニックブーム！」コイルはメガネの指示で波動拳で有名なカラテ王対戦格闘ゲームに出てくる外人カラテ王の必殺技使ってきた。

ソニックブームは目に見える衝撃波エネルギーだからリアオスは左右にステップして避けてる。するとコイルは連続して何回もソニックブーム撃ってきた。たまに体が痺れて動きにくいのか当たってしまいうんだがリアオスは下がらずにちかずき間合いを詰めていく。

かなりのインファイト距離まで近づいたのでおれは「今だひっさつニドキック！」と指示するとリアオスは何日か前の対ひこうタイプとの雪辱を晴らすようにして飛び上がり必殺キックをたったきこんで

大ダメージ与えた

コイルの目がバツテンマークになつてケドけつとばしたから距離は離れてしまったんだがリアオスはガンガン攻めるため、その場で狙いつけて角のさきつちよから氷出してトドメ。

「クソー！ 行け！ ヤドン！」

するとメガネは忍者のシヘイ使つてたヤドランの進化前、ヤドンをくりだした

ヤドンにはヤドランと違って尻尾のトゲトゲの盾はないのでぼうぎよも低いはず「リアオス！ 角攻撃だ！」「ねんりきイ！」先に指示したのは俺なんだがリアオスは体が痺れて動けないっぽいところを超パワーが襲つたソニックで削られすぎてたのかりアオスは倒れた。

「よく頑張つたなりアオス。行くぞリアメス！」

おれはリアメスを繰り出すと「でんげきハア！」と雷属性中心に攻撃、ヤドンはねんりきうつてくるが「かわせ！」とサイドステツポで回避させると「なにイ！」とメガネは驚いていた「反則！」と警察官にリアルいちやもんつけだしたがどこが反則なんだ？

どうせネット上のマイナーな縛り多数のローカルルールしかやってこなかったんだらうなアワレでしかたがない。

俺は避け指示とでんげきハア！ の繰り返しで現実でリアルに痛い目みせてやると何回かうつてるとヤドンは倒された。

「よくやったリアメス！」おれはリアメスを褒めて撫でてやると笑顔でyろこびの鳴き声をあげたかわいいやつめ。リアオスもポケセンで回復したらうんと褒めてやるべきだな。

そしたらメガネくんは「アイエエエ！ 負けた！ 負けたナンデ！」と叫んでどっかに帰つていった警察かんは「きみポケモン強いねえ」と褒めてくれた。

その後ポケモンポリスから、カセキはくぶつかんに持つてくと復元させてくれるという有力な情報もたらされたので何年かぶりに博物館に行き、拾つてからロット勝ちしたカセキ渡すとわけわからんマッシーンに突っ込まれるその後色々動かしだすのだが、しばらくすると殻に籠るタイプ（巻貝）のポケモンが出てきた。

「このこはオムナイトっていつてね。起源は遡る事——なんか歴史の授業にでてきそうな眠い長話——なんだ。そんなポケモンが手に入るなんてやったね！ さあ、受け取ってくれ」

職員のセリフは話半分聞いてたがとりあえず古代からいるナイトだということは分かった。

しようじき言っておれは化石ポケモン欲しいからカセキもつてきたわけでも何でもなく、

ただポケモンポリスにオススメされたからもつてきただけなんだが

もし博物職員がほしがるならそのままあげても良いとすら思ってたが気が変わった。

古代からいるナイトというのは多分だけどおそらく絶対に強い。

甲殻率で一番最強になる。

もちろんニドラン族の次点に最強って意味だけど。

みたかんじ背中は殻に隠れて見えないんだがその神秘のベールに隠されたカーテンの幕を開けるまでもない絶対尖った部分がおおいはず少なくともしよくしゆはたくさんある。

このままおれの手持ちチームに入れてやっても良い。

そのためにも重要なニツクネームつける必要性を感じるな。

オムレツ……は俺がいま食べたいメシ。

ナイト……なかなか良い響きだな。

オムナ……サポナ……ホイミン……ツムリン……まきがい……

しよくしゆ……よし、決めたぞ。

「今日からお前はナイトと呼ばれることとなった覚えておくと良い」

おれはナイトを抱き上げて軽くゆすってやり、何度もナイトナイトと声かけしながらおやの主張するとナイトは目ん玉ぱちくりするのだがそのうち鳴き声あげると笑ったのでモンスターボールに入れてやった。

そこでおれは遅れながら気付いた

オムナイト族の育て方がまったく分からない！

分からなかったら人に聞くという名台詞に従い職員に聞いたが

ちゃんとした育て方までは知らないらしいが

なんでもタケシも復元して育てた実績があるというのでカカツつとジムにタケシに聞きにいくと

何匹か育てたことがあるらしく親身に教えてくれた。

タケシは賢い（核心）

どこの地方もだがトレーナーはみんな知つとけ？

シユミで飼ってるやつもホンキでポケモンリーグ目指してる奴にもおやくだち情報なんだが

ポケモンの育て方で困ったときは地元のジムリーダーに頼ると良い

飼い方から一般論の生態までなにかと教えてくれるし、もし知らなかったとしたらその道のエキスパートのれんらくもう使つて聞いてくれるという。

おれはタケシから話された情報をレポートにバツチリ記録してるともう夜に近いのでニビ・シテイのポケセンで寝泊りするのだった。

明日こそおつきみやま洞窟越えるぞ（決意表明）

9. 期待のルーキー水棲ナイト

「お前ら新入り入ったぞ。愛想よくしろよ」

このやりとりは、ハナダ・シティ前のみずべでやった

おつきみやま洞窟は短く、しぐ四番道路に出られて大した冒険にならなかつた（残念）

こんな狭い洞窟でピツピ見つけるとか実在するなら見つかりそうなものを

通りすぎるときにはぜんえん見えなかつたからすぐ諦めといった

ところでなんで仲間を紹介よりハナダ・シティに急いだかというところ新入りの古代からいるナイトは水性の存在だからそつちのが良いと思っただけ。

俺はもんすたーボールから3匹ともだして初顔合わせの顔見せやったところ

隠していたが2ひきも気付いてたか、

ぎやうぎやう鳴きながら興味しんしんだつたのだが

ナイトはド迫力のニドラン族にビツたのか殻に籠っていった。

顔の位置じめんに近いからなー下から見上げて恐いのも分かるがこれからはずつと一緒だべ？

するとリアオスは態度悪いナイトの不良っぷりに憤慨なのか

前足でまきがいペしペしする「脅したらビビるべ？」俺はナイトを抱き上げると

そろりと顔出して目ん玉ぱちくりしていた。

しばらく慣れさせる必要性を感じるな。

当たり前の話だが今まで1りと2匹でやってきたところに新しく1匹入ったらバランスが崩れる。

言っておくけどタイプ相性のことじゃないぞ仲間の生態系の序列とかのことだぞ。

トレーナーが新しい仲間なつたヤツに厚遇してると古参メンバーは面白くないし、かといつて古参優先してると新入りは自分の居場所無いみたいに感じる。

だからちゃんとポケモン同士で馴染ませないといけないワケ
たまにそれ見よがしにタイプバラバラのテンプレぱーちーってへ
んな紹介文書いてるネット文章あるけど実際に飼ったことない架空
の理論だろ嫉妬に狂ってるすがたが想像できないらしいちよつと見
ただけでもむっどもえの牽制合戦始まってもおかしくなさそう
なチームだから世話とか簡単じゃないに決まってるリアルだったらマ
トモに育てられるわけがない。

それこそ先駆者のグリーンとか、選ばれたポケモンマスタークラス
じゃないと簡単じゃない

俺は実際に飼ってる側からの意見からして

実際にポケモンの世話して面倒見る大変さ知ってれば

気軽にトレーナー制度の最大ポケモン携帯数六匹編成とか簡単に
出来ないとわかるはずだが……

おっとと脱線しすぎたかな

おれは抱えてたナイトをリアメスの顔の上あたりに差し出すと

リアメスはクンクンするんだが、しばらくすると匂いだけじゃ足ら
ないのか

後ろ足と尻尾で立ちおれのマネして前足でナイト抱えた

流石はリアメスといったところか、本能的に母性タイプの堂に入っ
た抱え方だった。

その姿をリアオスは面白くなさそうに見てる

「シットする時間があるならお前も触れ」おれはリアメスからナイト
受け取ると今度はリアオスの顔の上あたりにナイト差し出す。

そしたらリアオス不安が鬼なって

リアメスのマネしてしっぽと後ろ足で立ったは良いんだが

抱えるポーズが不慣れなのが分かりやすく手渡してやったあと

ナイトの触手がちよろちよろ動くたびにビクツとしてビビってた
べ？

その後ナイトをまた回収してやり三匹つれて散歩にかわぞい歩い
てると

なにを思ったのかナイトは水に入る気分良さそうに泳いでいた。

そのうちリアオスもリアメスも浅いところではしゃばしや水遊びに興じるんだが

ここは自然の川であって安全地帯じゃないナワバリ荒らされたやせいのポケモンが襲い掛かってきた

水の中は地上戦とは違ってが違うのでやりずらそうにしてると

ナイトが背後から敵に忍び寄りからみつくとおもむろに牙むいてかみついてやっつけた。

……ほう。

期待の水棲ナイトの面目躍如といったところかな。

おれがナイトの活躍に関心が鬼なっていると

「コラーツ！」

とモノすごい怒鳴り声が聞こえたそっち見ると

何故かビキニ装備（リア♀）がすごい剣幕で近づいてきた

「ちよつと！……どくタイプポケモンをハナダ川に入れないで！」

いま、野性にかえしたゼニガメの養殖をやっているのよ！」

とか言った俺はニドラン族2りをボールに戻した。

ビキニ装備（リア♀）はぶんぷんで怒りのパワーで俺を引っ張る

あわててナイトもボールに戻すおれだった

そのままハナダ・シテイまで引っ張られポケセン通り過ぎてジム内まで連れていかれた。

「ちよつとーカスミさーん！……この子どくタイプのポケモンハナダ川で泳がせてたんですけどー！」

ジム内は室内プールだった夕暮れ時がげんいんなのか一人だけ泳いでた。

……いや、泳いでるんじゃない泳がせてるのがトレーナー。

そいつ俺が全く見たこともないポケモンに乗ってたみたいで水上立ってるみたいになち上がった。

「ふーん？……種族は？……どくタイプの技は使ってた？」

「ニドラン族。どくわざは使っていない」俺は先回りしてすばやく答え

た
「ニドランなら大丈夫だわ。一応言っておくけどね、みずタイプのポ

ケモンは水質の変化に敏感なの。水中でどくどくだとか、毒撒き散らすようなマネはよしなさいよ。

ハナダ川でメノクラゲ大量発生なんてニュースになったら、とつちめてやるんだから」

「わかった気をつける」

言いたいこと言ったっぽいカスミって呼ばれたやつはプールサイドに出るとタオル使っていたビキニ装備（リア♀）から「そんな軽くすませないでくださいよー」と言われたが「神経質になりすぎよユカリ」と一蹴してた。

「あんた見ない顔ね。バッジ集め？」

「そうだぞ。ここのジムリーダーにも勝つ。」

おれは既にバッチひひとつ持つてるから戦ったら俺が勝つ」

「あつそ。いつやるの？ 今から？」

「今は新入りのナイト……オムナイト族とニドラン族たちの仲良し作戦なので後回し。」

それ終わったら倒してやるから顔を洗って待っているって伝えとけ」

「顔を洗って、って……ふふっ。ええ、待ってるわ」

カスミはにこりと笑って手を振った俺はジムから出ていった

今日の冒険はこれでおしまい。

隣のポケモンセンターで夕飯食ってシャワー浴びて糞して寝ることとなった。

それから何日か3匹仲良くなつかせるべく、バトルより散歩メインで歩いてると

地元の連中だろう者にバトル挑まれることもあった水系のシティだけあって水棲ポケモン使いそれなりにいた。

おれの手持ちでマトモに水中戦できるのでナイトだけだからよそれどころか陸地でも戦えるから水陸両用ポケモンとも言えるぞ残念ながらナイトは地上ではかなりスピード下がってしまうんだが

トサキントとか、完全に水中専門ポケモンより活動の自由度高かつ

た。

「ナイト！ からみつけー！」「ぴちぴち！ つのでついてー！」
ミニスカート女子とのタイムマン戦、ハナダ川にポケモン出してのバトルなんだが

正直行つて戦況がどうなつてるかわかりにくい
水面ユラユラするだけで何がどうなつてるかわけわかんねえんだよ

しかしあつちは何が見えるのか「かわして！」と言うので戦況わかつてるみたいだった。

どうやらトレーナーの俺側に水中戦の適正ないらしいかなり不可能に近い。

よつて100%中の100%わかりやすい戦法つかった。

まずはからみつく攻撃でナイトと敵を状態をミツチャコの完全ゼロ距離に確保だろ？

ちよつと僅かにでもからみつけたの見えたら「かみつき攻撃だべー！」ナイトが普段は謙虚に謙遜して隠している牙剥いてかみつかせる作戦

しばらくすると水面上にナイト浮いてくる

触手には弱つたトサキントがいた。

「俺の勝ちだな」

「アタシのぴちぴち、負けちゃったあ。

キミのポケモン、強いね！ はい。120円」

ほらこんなもんだから定番戦法として繰り返しやらして熟練度確保。

そればつかりだと新参臍肩になつちえしまうのももちろん地上戦もする。

話によると24、5番道路とかそつちのほうこうはハナダのトレーナーの溜まり場なんだがシュミレベルのトレーナーには楽勝

しかし四、五人くらいの地元民のオトナが進化ポケモン使いでこいつらが結構つよく、勝つたり負けたりだったな少なくとも三連戦以上では勝てなかった「僕も昔はカントーチャンプを目指していたが、自

尊心をへし折られてしまつてね……」というそのうちの一人の台詞がやけに印象だった

草むらには地元のトキワじゃないだけあつて見慣れないポケモン多いんだがニドラン族のパワーファイトには敵わないようだな。

中には一目さんに逃げるヤツさえいた。

このことから見てもやはりニドラン族こそ最強ぽけもんなのが分かる。

ナイトも地上戦ではみずでっぽうブレス吐いて頑張つてたがくさのタイプにはとてもとても弱いという意外な弱点が判明した完全にナゾノクサの養分になつてた。

俺はその日までナゾノクサというポケモンを名前を全く知らなかったが

二撃確殺なみの高火力でナイトをダウンさせたポケモンとして注目

地元のヤツにあの黒っぽいフサフサ雑草へアーが何者か聞いて教えてもらった

「やせいのポケモンが一撃使うなよ……」と思つたが逆にニドラン族だと楽勝だし

特にリアオスのれいとうビームだと逆にこつちが一撃なので

なんでだかと記憶を遡つたところ、一つの仮説が思い浮かんだ

「みずタイプはくさタイプに弱いだろ、

で、いわタイプもくさタイプに弱い。

ということはナイトは始めからくさタイプにととてもとても弱かつたのか」

タケシのオムナイト族講座と合わせて照合すると驚くべき新事実が浮かび上がった忘れないうちにレポートにしっかり書き残したが多分致命的な致命傷になつてる。

だが硬い貝殻の盾でおおわれた防御力はニドラン族たちも一目置くほどで最初のうちは「俺の方が強い！ すごい！」というアツピルを怠らなかつたりアオスも少しずつだがその防御力をみる機会のたび後輩とか格下とかじゃない対等の仲間として認めはじめてるのが

いままで飼ってきた経験でわかる・・・これはかなり悪くない状況。

そいえば俺がハナダ来てから散歩コースにしてるところは

その昔ゴールドデンブリツヂと呼ばれたらしい

ゴールドデンブリツヂの死闘といえはハナダでは結構有名イベントで

挑戦者はなんと五人のトレーナーと連続でタイマンしないといけなかったらしい

ん？ ゴールドボールだったかよ？ まあいいべ（余裕）

そのイベント成功したら結構賞金貰えたって話だから

俺は散歩してる人の1りにもうやってないのかと聞いてみたところ

いちぢきロケット団っていう悪い組織のスカウト目的に悪用されたらしく

自主規制してもうやってないんだと

ちなみにロケット団というのは俺が小学生低学年のころには 完

全崩壊した組織

詳しくは知らないし興味もないおれの人生で知る必要もないと思う

だってもう実在しないんだし

それから飯の話なんだがどうしてもポケセンのタダ飯以外のが食いたくなって

ハナダで美味しいモンのオススメ何人かに聞いてみたところ

女子の言うハナダデラックスパフェと男子が言うスタミナにんにくラーメンとで意見が分かれた

別に俺はラーメン大好きラーメンマンというわけではないが

スタミナにんにくという響きにつられてしまい

ラーメン屋の方にいったがその正体はこってり系のミソラーメン。かなりのポリウムで味も濃くむせるくらいだったがそこでお冷で流し込むことになるのだがこの水が滅茶苦茶美味い！スタミナにんにくラーメンの味は引き立て役で

水のまちのおいしいみずが実は一番美味かった

一杯600円なり。

…頭が完全にフレンドリのショップに支配されてたらラーメン一杯||スーパースポールになるんだらうなと思ったよ。

10. 残念な事に強力な追加効果はミスしてた

四番道路の草むらでの出来事

リアオスとリアメスが後ろ足としっぽで立って
サッカーみたくボールつぽいのをパスに蹴りあっていた。
ナイトはそのボールつぽいのにみずでっぼうブレス当てようとし
てるが

転がるボールにはうまく当てれないみたいだった。
どうしてこうなったんですかねえ・・

たぶんいつもより寝坊した時間に起きたのが原因

おそい朝食食つてるとき食堂のテレビについてた『雷速サッカー列
伝ーマルマインイレブナー』見たのが原因なのは確定的に明らか。

まさかあのタイミングでマルマインが 大 爆 発 するところで
ヒキとはな……次回が気になって仕方がないケドいまはバツチ集め
に集中なのでアニメは引退中。

「おはいー！ そのへんにしとくべきー！」

2ひきが蹴ってたのは実はただのボールじゃなく

丸くなるタイプのポケモンであった

ちなみにマルマインじゃないぞ

そうだったらとつくに引つ込めてる。

その証拠に俺の声かけに蹴りあうのやめるとそいつ

丸くなるのやめて草むらに逃げていった。

リアメスは名残惜しそうにボールだったの見送って、そしたら急に
リアメスのヤツしっぽふりふりしながら鳴き声あげて哀れみを誘う
んだがオネダリしても何も出ないぞモンスターボールは有料なので
(苦笑)

トレーナーのタシナミとして1D確保してるけどそんなポンポン
投げるモンじゃないしな捕まえたのに世話できないからと野生にか
えすどころか個人のパソコンボックスで永久保存殺しかどう考え
てもかわいそうとしか思えないんだが……

放置美

あそび切り上げて今度はおさんぽコース歩きにいくオムナイト族の地上での遅さには2ひきは慣れたのかりラックスしてるな

こいつらもだいたい馴染んできたと思うそろそろジム戦に行くか？

考えながら歩いてるとハナダミサキにある一軒家から「やってもらー!？」と叫びに助けを求めてるっぽいのがきこえたここ何度も通り過ぎてるけどこんな初めてなので玄関前から「どうすた!」と声かけすると「なんでもないわ!」「なんでもあらへん!」という返事。ジョウト弁なのは気になるが何でもないって言ってるのに

関わるのは無粋にすぐるのでそのまま通り過ぎといた。

昼過ぎの時間、おれはジムに挑むべく扉を開けたところが今日は週に一度の市民プールに開放してる日とのことでスイミング連中が多数対戦できる状況じゃなかった。

すると場違いのおれを見かねたのかカスミが寄ってきて言う

「あんだ、準備はできたってワケ?」

「俺の準備できたがジムの準備はできなかつたみたいだな」

「あのねえ、情報掲示板に書いてあることなんだから旅のトレーナーならちゃんと読んどきなさいよ」

「この曜日しか対戦しに来れないヤツもしいたらとしたらどうすんだよ俺は違うけど」

「事前に連絡があつたら別館開放してるわよ。」

けど当日に急に言われてもねえ……ま、夜ならみんな帰ってると思うから対戦できるわ」

なるほど全く対戦が不可能というわけでもないらしい

おれはカスミに夜に対戦しに来る予約をいれると受け入れられた。

事前予約でタイムマン予定確保

あとは夜まで待つてるだけ

時間つぶしに町中ぶらついてると自転車屋さんという

トキワのオウフロードだとあまり縁にない店あったバイクの見た目がスタイリッシュなので

みせ入って見ると「乗せたり売ったりしないけど好きなだけ見てってよ」という

店長っぽいオッサンの声に俺は遠慮なくバイク見てた。

懐かせるため、背中のリュックから肩にかけて抱きつかせてたナイトが

しよくしゆ伸ばしてバイク触ろうとしてたがそれはダメ

ペしつとはたくと縮こまったがズぶとい性格なのかしばらくするとまたしよくしゆ伸ばしてた

全国展開してるフレンドリのショップにも寄りひじょうようのキズくすりとか、

ポケモンフード関連とか補充のついでに遊び用の蹴れるボールも買うことにする。

ナイトは色々食わせた結果すっぱいのが好きっぽいのが味の好みが分かってきて、

こないだマヒさせらえrたし状態異常回復系アイテムも各種こずつだけ買ってやった。

するとフトコロ寂しくなるので金策必須なんだが

タイマンの格付けすんだのでタイマン相手してくれるヤツだれもいなくなってた

自分のポケモンの実力が怖い（畏怖）

ま、なんだかんだでそのうち良い時間になったのでポケセンで飯食ってからのジム戦しに行った。

扉の先にはこないだのビキニ装備（リア○）とカイパン野郎、それにカスミがプルサイドに待機

ジムは室内プールに丸太縛った船っぽい橋モドキとかで足場ができていた

水専門ポケモンじゃなくても戦える準備してあるらしい

タイマンはあの橋モドキの上にトレーナーも立ってやるんだと。

「よお少年。ハナダジムにようこそ、つてな。

まずは俺と戦って実力見せてもらおうか！」

とカイパン野郎は結構攻撃的でさっそくタイマンしたがってたそこに「待て待て、順番守れよ」と割り込みに実況が得意そうな衣装のおっさん

そいつ「おーっす、未来のチャンピオン！」という台詞からこのジムが水系のジムだという見たら分かる当たり前のこと言ってきた。

でトレーナー手帳見せろっていうから見せてやったら

他の3りも覗きこむ「12歳でバッジ1つか……ハズレかな」と

カスミは無礼な態度だったが実際に戦ったらハズレかどうか分かると思うが？

少なくともジムトレーナーっていう前座で戦うこととなった2りはリアメスのでんげきはで余裕の楽勝勝利(対戦シーンはオールカット)

残りカスミなんだが手早く片付けてジムリーダーに挑もうと思っただら

カスミが実はジムリーダーだという衝撃の事実が開かされた。

こほんと咳払いしてから

「あのね きみ！

ポケモン そだてる にも なにを するにも

ポリシーが ある やつ だけが プロに なるの！

あなたは ポケモン つかまえて そだてる とき

なにを かんがえてる？」

「もちろん死ぬまで面倒見ること考えてるに決まってるしそう考えないヤツにポケモン捕まえる資格ナイト思うけど？」

「へえ。小生意気にも良いこと言うじゃない。

だったら証明しなさいよ！」

ハナダジムリーダー、カスミが勝負を挑んできた！

「行きなさいスターミー！」「行くべ！ リアメス！」

おれは開幕「でんげきハア！」とさつきまでの二戦と同じように何か背中が回転してる星型にライディングクラスの雷攻撃うちこむと「弾きなさいな」と言うど高速回転スピンのパライで逸らされてしまった

流星ジムリーダーといったところか無差別電撃いなせるポケモンとは中々やる「サイコキネシス！」するとカスミが指示で強力なサイキックこうげき出させた「かわせ！」俺はぐによくによ空間ステップ回避させるとそのスキにスターミーとかよばれたやつはプールに

潜ってしまった。

「その動き！ 遠征で使ってるスターミーじゃないですか！」

「バッチーつもち相手につかうポケモンじゃないですよ！」

「うっさいわね！ 私はジムリーダーとして、コイツのトレーナーの資質を見極めるのに適切なポケモン選んでるわ！」

外野がうるさいので「うるさい気が散る！ 一瞬の油断が命取り」というと2りのギャラリーは黙った。

カスミは言った「二匹よ。このスターミーを倒したらあなたの勝ち」と宣言スツと腕動かしたら水面に水しぶきが浮き足場のまわりぐるぐるまわってた。洗濯物の気分を味わわされてるのかりアメスは水しぶき反応して頭も体もむけてるがそれより足場がグラグラでそつちに気が散ってるみたい

おれは指揮官の立場でうしろの引いた位置からリアメス代わりに戦況見極めないといけない。

いま水の中テキストにでんげきハア！ と撃ったらそのスキ狙われてると予想するのは簡単

出てきたところを狙うかそれとも……と頭を回転させると「サイコネシス！」ときたマジかよ「飛べっ！」おれがさけぶとリアメスは前ジャンプして遠隔攻撃を逃れた

「下がれリアメス！ いくぞナイト！」

水タイプリーダー相手に水中戦は圧倒的不利それでもおれはナイトをプールに繰り出すと潜水状態バトルが始まる……と、思ったか？

思ってくれたらいい俺はそう願う。

「スターミー！ あがって！ 10万ボルトよ！」

どうやらスターミーはそうとうのスピードアタッカーらしくしかも水陸両用なのかカスミに従い一気に空中にとんだんだけどその直後電気ビリビリ攻撃プールにたったきこんだ「ナイト！ 戻れ！」俺は電導の前にナイトをプールに戻した次に繰り出すポケモン？ もう場に出ているが？

「今だリアメス！ でんげきハア！」

実はボールに戻してないリアメスは準備万端に待機していたのだ

よ

渾身のでんき攻撃がスターミーにちよくげきした「いまだ！ どくづき！」追い討ちの追加攻撃ってヤツだ

リアメスはフィールドに戻ってきたスターミーにコンボ決めれると思ったのか、みだれひつかきどくづきという連続攻撃でスターミーを襲った毒突き教えたことはないんだが旅前の進化前のころから『ホウエンわざわい浪漫るろうにアブソル』の kantong 地方放送に出ってくる敵キャラの突き技見てこっそり練習してたのをおれは知っているぞ？

「サイコキネシス！」俺は完全に決まっただと思ってたんだがカスミは違ったスターミーはまだ生きてて三度目を正直とばかりに放たれたサイコ攻撃はリアメスを一撃でノックアウトにもっていくほどの超能力！「最強コンボが完全に入ったのに……」思わず口から漏れた勝てるわけがないという諦めが鬼……いや、まだだ！

「よくやったリアメス！ もうちよつとだ！ 頑張れナイト！」
「くさむすび」

リアメス引っ込めてナイトくりだしたらズベツとくさにしよくしゅ絡みつかれて倒れた。

「お、おお、おしいいイイイイイイイイイイイイ!!」

ちよとこれ sYレならんしよ・・

ごくりと息を飲みナイトをひっこめた最後のーびき「お前がエースだぞ！ 決めろリアオス！」スターミー！ じこさいせい！」リアメスが与えた最強コンボのダメージがみるみる治っていく

……

……

……

……

いや、まだだ。

頭ンなか真っ白になりかけた危ないあぶない

だがまだだ！ まだ終わってないんだが！

「リアオス！ れいとうビーム！」

「はい、合格！」

はあ？

スターミーは避けもせず、リアオスのれいとうビーム受けていた見た感じ大したダメージじゃなさそうだったし

残念な事に強力な追加効果はミスしてたみたいだが

それなのに合格？

わけわからんね。

笑う坪どこ？

するとカスミは語った

「そこそこジムリーダーやってて分ってきたんだけどね。」

十歳から冒険の旅に出たとして、二年かけてバッジ1つのヤツってたいてい惰性でやってるのよ。

そういうヤツは『勝てない』って思ったら即降参するわけ。

『このジムじゃ勝てない、まだ行つてない、勝てるジムを探しに行こう』みたいな？

だから私はアンタの根性を試してみたの。

途中で諦めるかどうか試してみた。

私の見立てだと、スターミーがじこさいせいしたときアンタ諦めた顔してたわ。

でもそこで踏ん張って持ちなおした。

最後まで諦めなかった。

それどころかちやんと勝ち筋も残してたもの。

惰性でやってるわけじゃないって分つたから合格」

カスミはスターミーに乗ってこっちまでくると理解不能状態＜理解のためにせいりせいとん中のおれに「はい、私が認めたって証拠にブルーバッジあげる」と手渡してくる。

思わず受け取ってしまったがだんだん意味が追いついてきたので

俺は

「はっ？ ちょっと待てよ。」

そういう理由なら受け取れない返す。

おれがバッチ集め始めたの今月からだしな

カスミの独自理論には当てはまらないと思う」

おれはカスミの手にバッチ返した。

なのにそのまま仕舞えばいいものを改めて俺の手に押し付けてきた。

「はー？ それだと私がトレーナーの見る目無いジムリーダーになっちゃうじゃない。

あげるって言うてるんだから素直に受け取りなさいよ」

「自分のミス棚上げて足を出したな。

根性認めたのは受け取るがバッチは受け取らないこれで良いか以後揚げ足取り禁止」

うぎぎぎぎ

グラグラ足場で押し合いへしあいなんだが

これ以上付き合ってらんないなのでしようがなく受け取ってやった

「さいしょっから黙って受け取ればいいのよ頑固モノ！」と言われたが俺はこう返した

「明日このジムバッチの返却をかけて勝負しろよ

今度は正堂堂戦うべきだろうな・・・悪評が広まるのが怖いのか？」

というとなんか面白いのか笑いながら「じゃあもうそれで良いわよ」という返事。

その日の夜は不完全燃焼の感覚で終わった

俺は忘れないうちにスターミーの動き思い出してレポートに対策練るのだった。

次やったら絶対俺が勝つ。

翌日の再戦はヒトデマンっていう

スターミーの進化前とスターミーの二匹編成だったが

昨日のタイマンがウソみたいにあっさり勝った。

「わざと負けるのは反則行為に近いと思う」

「実はこれが適正レベルなのよねえ……」

その対戦ではナイトが汚名献上とばかりにかみつき攻撃で活躍したんだがカスミはナイトみて「あのオムナイトに使うてあげて」といって『ねつとうの技マシン』をくれた。

水のエキスパートから水ポケモンに向かつてオススメされたので今晚寝る前にでも使ってみようと思った

11. メガトンキックって攻撃技はととてもとても強い

ゴールデンブリッジの先の広場、

おれはサッカーできるボール渡したんだが

リアメスはこのやわらかいふにやふにやのじや

満足できないみたいだった

すると四番道路のほう指差して愛くるしく鳴くので

「今日が最後だぞ」といってそっちに行ってやった

クールダウンに遊ばせたらハナダのバッチ手に入れたので隣の大都市ヤマブキ・シティ行く手はず

そこで草むらで丸くなるポケモンしぐ見つけたのか

リアオスとリアメスでパス出しに蹴りあうんだが

蹴り心地が良いのか俺が買ってやったボールのときより楽しそう

イキイキしてた

「ナイトこれいる？」おれは悲しみを背負ったやわらかいボール
ナイトに転がしてやると、しよくしゅでぶにぶに遊んでた。

するとかみついたがボールはびによくんと伸びるばかりで壊れる
ことはなかった

その後ちよつとしてから上に乗ろうとして失敗

いきおい転がっていくボールをトコトコ追いかけるんだが

俺にも少しづつオムナイト族のかわいさがわかってきた。

そのうちボール諦めたのか殻に籠りだす「どうした？」と思つたら
転がってボールのとこまで行つてた「ほう？」鈍い地上の機動力を
ごろごろで補う方法を思いついたようだなナイトは賢い。INT
200はあるぞ。

そんなステータスはパソコンに読み込ませても出てこないがな。

さてそろそろか「もう行くぞー」と3びきをボールに戻そうとした
が

リアメスはモンスターボール出戻りビームをサイドステツポでか

わした

「おいイ？」リアメスはまるくなるポケモン抱え、

後ろ足で頑張つてこつちに歩いてぎゅるる鳴く

このポケモンの蹴り味が忘れられないみたいだった（未練）

「だめだ。野生にかえしてくるべき」俺は正論言うのだが

目がうるるのリアメスの初めてのワガママに対応に困ってしまい

そのうちまるくなるポケモンはボール状態やめて

バタバタ逃げ出そうとしたが姿勢が悪いのかリアメスからのげら

れない

「おまえ分つてんのか？

ソイツつれてくつてことは仲間になるんだぞ？

もしお前が仲間に笑顔でキックしたがるようなヤツなら

想像を絶する悲しみがおれを襲うことになる」

というリアメスはハツと気がついたみたいで

抱きかかえるパワー緩んだのか

丸くなるポケモンはリアメスのフトコロから一目さんに逃げ出し

た

俺はというともうあのポケモンがリアメスの餌食にならなければ

ばよいのだが、

と平和を願っていた

よほど思い入れがない限りいつかポカンと忘れるでしょうねそれ

がお互いのため

リアメスは最後に草むらに目を向けると別れの鳴き声っぽいので

げていた俺はリアメスをボールに戻した。

なんかしんみりしてしまつたが気を取り直して次の町

俺のポケナビに入つてるカントー地方情報によると

ハナダ・シテイを南に行けばカントーナンバーワンの大都市ヤマブ

キ・シテイ

ニビからハナダに行くときみたいだにダンジョンは無いから今から

行つても余裕でつく

おれはいつたんハナダ・シテイに戻り

自転車屋さんのあたりから南に行くと5番道路

こっちはあんまり人いないが

トレーナーと社会人の棲み分けでしょう

朝と夕方に都会に行く人の出入りがあるからだろうな

バトル中「ちよつと失礼」とかりーマン通りすがられたら困るし

おれが気にしてもしょうがないそのまま南に歩くと

草むら隅っこのほうにしか無いちゃんと整備されたアスフォルト

道が続く

とちゆうとてもカツコイイ自転車に乗った1りが物凄い速度で爆走していた

マツグの道に枝分かれ道あったので行ってみると

その先にポケモン育て屋という看板ある建物

「僕はポケモン育て屋さん

もしきみが僕にポケモンを預けてくれるなら、

きみの代わりに育ててあげよう。

2ひきまで預かることができるよ」

「せっかくですが遠慮します」

奥に牧場っぽいスペースあったがほかには気になるもの何も無かった。

もとの道に戻るとかなりイカしてる自転車に乗った1りが物凄い速度で爆走していた

たぶんこいつらプロのロードれんサーかカントー版ポケスロン参加者だろうな

そうとでも考えない限りこのみち自転車で رفتり来たりするのは意味がわからない

おれは自転車乗りの邪魔にならないように道の隅っこ歩いてやった。

そのうちゲートの建物までたどり着いたので中に入ると警備員

「お、旅のトレーナーくんかな？」

ヤマブキに入るのかい？

トレーナー手帳見せてくれるかな？」

という俺は手帳を見せると

「うん。ありがとう。行っていいよ」

と言われたのでそのまま通った。

ゲートの先は想像を遥かに大都会でビル見上げて圧倒されていた
あれがシルフカンパニーってやつかー

凄いなーあこがれちゃな

右を見ればリニア乗り場、左を見ればポケモンジム。

まずは挨拶代わりに外からジム見ようとしたところ、なんでだかジム2つあった

「なんだこれは？」

「お、きみ、バッジ集めのトレーナーかい」

ゲートに近いジム前に胴着キャラのおにいさんがいるので聞いてみると

ヤマブキシティはジムの激戦区で2つのジムが

毎年公認ジム決めの対決が繰り広げられているらしい

「こつちが今年のカントーリーグ公認ポケモンジム。

そつちは今年、ヤマブキエスパ道場なのさ」

「ほう？」

「おれたちは、かくとうタイプが エスパタイプに かつために

しんの カラテの ちからに めぎめたのさ！」

胴着キャラのおにいさんは誇らしげに胸をはった

一筋縄のジムじゃなさそうっぽいのが

このひとのふいんきから伝わってくる

俺は今日に行かないがそのうち挑戦することを伝えると

「いつでもかかってきなさい！」と言うのだった。

隣のエスパ道場だって聞いた建物前にはヤドランと並んでボケつと座ってる、ヘンなかつこしたおにいさんがいた

「どうした？」悲しい顔をしたそのおにいさんが「ぼくは三ヶ月前、エスパタイプ対かくとうタイプでカントーリーグ公認ジムの権利を巡って団体戦に参加した中堅なんです」「ほう？」

「全部裏目でした自信なくなっちゃいましたよ。はは」「そうか」俺は

なに言っていていいか分からなかった彼は空元気で笑ってるのが一目瞭然で

「残念だったな」と言ったら「残念じゃないんです」とヤドランを見ながら言う「見えている手札に読み合いで負けたのが悔しいんです」

ヤドランはぼやんとしていたしつぽの巻貝がうぞうぞと動いていた「悔しい？ほう？」「僕らサイキツカーが絶対負けはないはずの領域で負けたんです」なぜだと聞く前にかれは続けて言う「あっちのカラテ王たちは、そのポケモンも含めてどんなに不利であろうと絶対に勝つ、という気迫で通じ合っていた。気圧されたぼくの動揺がヤドランに伝わったんだと思います」

おれはグリーンの話を思い出したトレーナの気持ちはポケモンに通じているのだ結構のんきにマイペースっぽい見た目のヤドランでも影響があるというのは貴重な体験談

楽勝とかタカくくってこの結果だよメンタルズタズタなのは間違いないでしょう

なんということだこのひとポケモンバトルに心がへし折れてる公認ジム決定バトルは敗北に終わったエスパ―道場にはかなしみとかなだけが残ってたちなみにこの話は実際にあった内容で英語でいうとノンフィクション

おれは忘れちゃいけない大事な話だと思ってレポートにしつかり書き残した

記録美

おれの記憶によるとリアルモンクのかくとうタイプはエスパ―タイプによわい、ということになっている。

これはどくタイプも同じ。

おれは対策の回答にエスパ―攻撃の指示受けたポケモンのこうげき当たる前に「かわせ！」で避ければ良いと結論づけたが今年のヤマブキジムだつていうかくとう系ジムも同じか？

それはまだ分からない

俺はまだみぬ強敵の悪寒にうちふるえているとシハイが歩いてた「あつ」「あつ」

どうやら目当てはヤマブキジムのようで

こいつはこのジムバッジ持ってないみたいだった

「ヤマブキにいるってことあ、ハナダジムバッジは貰ったってところか？」

「ここは止めとけ。おれが勝てねーのにおまえが勝てるわけねーだろ」

という俺はこいつがやられるところ見たくなかったので今からヤマブキジム見学希望

さっきの胴着キャラのおにいさんにそういうと自動ドア入り口とは別口から案内された

中はシンプルに畳部屋でけっこう広かったんだが

シヘイはジムトレーナー戦とかなくジムリーダーのおっさんと

タイマンすることとなっていた

「行け！ ゴルバット！」 「行くぞサワムラー！」

二人は同時に畳フィールドにポケモン出す「かげぶんしん！」と先手とつたのはシヘイで汚い戦法で勝とうとしてるのだが「サワムラー。メガトンキック」とジムリーダーがいうと膝から先伸びるケリ・キックが当たり前みたいでゴルバットに当たったゴルバットは倒れた

「は？ うそだろ？」

「エスパータイプのわざ、テレポートは全く別の場所に転移する。」

その場で多少ブレる影分身など動いていないも同然！

シヘイにぼやきにジムリーダーは答えた（律儀）

なんて強いキックなんだ、とそう思っている間にもタイマンは続くシヘイはゴルバッドひっこめてヤドラン出した「ヤドラン！ てっぺき！」シヘイがそう言うのとヤドラン前にサイキックな壁がぼうぎよに展開された「サワムラー。感覚をとぎすませ」その指示の意味は俺には分からなかったがシヘイは焦ったのか「くっ、サイコキネシス！」と攻撃させる「メガトンキック！」指示は2りほぼ同時だったが圧倒的にサワムラーのキックが速かったその蹴りはてっぺきに当たらないで曲がるとヤドランのきゅうしよに突き刺さっていたヤドランは

倒れた

「くっそく……行け、ゴースト！」

どうやらシヘイには俺がまだ見ぬ手持ちがいたらしい何かトゲトゲした黒っぽいもやもや何だがゲンガーというポケモンと似ているな。進化関係あるのか？

「サワムラー。こころのめ」「なんでそんなクソ技覚えさせてんだ！」

ゴースト！　さいみんじゅつだ！」「シヘイが指示したのはポケモンを問答無用のねむり状態異常にする強力なヒキョウわざであった果たしてサワムラーは……目を、瞑っている！　さいみんじゅつなんてアウトオブ眼中の外側だ！」

「メガトンキック！」

眠らなかつたサワムラーのメガトンキックがゴーストって呼ばれたポケモンに当たったゴーストは倒れた

シヘイはガクツと膝ついて悔しがった

「対策、したのに、クソ、なんで、こんな」

「オヌシの対策は間違っておらん。ただ、対策の対策を打ち破る策がなかつただけのことよ。対策の対策の対策を考えるか、我がエビワラー、サワムラーを正面から打ち破ったときこそ、このゴールドバッジを授ける。少年よ、精進せよ！」

途中ワケワカラン指示もあつたが確かに分かつたことはひとつ。

メガトンキックって攻撃はととても強いつてことだ。

12. 忍者は耐え忍ぶ者である。そして耐え忍ぶ者は辛い（忍者のシヘイ話）

シヘイはそうとうくやしかったのか

賞金払うと泣きながらジム出て帰っていった

しようじき言っておれ（調子に乗ってるからそうやって痛い目にあう）とか、

そういう系の上から目線にスカッと爽快な気分なると思ってたのにシヘイの様子に

むしろ真逆に胸糞悪くなった「きぶんわるいので帰ります」おれは案内人に

そういうと心配されたが構わず出ていった。

オモテの通りに出るとシヘイはジムの出入り口横で体育座りしてうずくまっていた

横に並んで体育ずわりしてやったが無反応たぶん本気で泣いている

「惜しかったな」というとガバツと顔おこした「3タテのどこに惜しいところがあるんだよ……」と怒りをこめて言い放ち、続けて「笑えよコノヤロウ！ どーせオレは大口叩いてもあの程度だよ！」と怒鳴ったネガネガして怒れるならまだマシ本気で落ち込んでる人なら挑発されても無反応だからな

おれは客観的な立場からの第三者的な意見を言った。

「俺が惜しかったと言っているのはヤドランが鉄壁のバリヤー張ったところ。」

てっぺきという技はパソコン表示のぼうぎよ力で換算するとおよそ二倍近くまで跳ね上がるというポケモンわざ研究博士の結果発表もある超強力なブロックわざ。

このわざ使ったとき戦況は完全にオマエ有利だった。

だがお前は焦って攻撃したのでせっかくのぼうぎよが水の泡になっただけ」

俺が理論的にまっとうな意見言つてやるとシヘイはポカンとした

それからクソデカいため息ついて、ちよつとは落ち着いたのか喋り始める。

「あのなあ。バカなお前は知らねーんだろうが、

あのときサワムラーは『とぎすます』っつー準備技使ってたんだよ。こいつは『次の攻撃をきゆうしよに狙って当てる』っつーモンだ。

あんなパワーファイターの大技が急所に当たっちまえば防御力なんて関係ねーんだよ馬鹿」

「人をバカにしたほうがバカなんだぞこのバカが。

だがなるほど研ぎ澄ましはそういう効果なのか・
だったらなおさらあの場面はガードするべきではないのか？

そしたらきゆうしよに大ダメージ防いで鉄壁のバリヤーが残る公算大のでやっぱりお前有利だった」

「ガード？ 『まもる』か？ んなもんその場しのぎだろ」
「お前あたまた悪いな。

サワムラーは研ぎ澄ましとかいう一撃準備してからの強力なメガトンキック狙い。

おまえは逆転の防御体勢整えて、メガトンキックはガード狙い。

戦況はどんどんお前有利になっていくだろうが」

「あつ」

その発想はなかったのかシヘイは呆けたか鬼なった

気付いてなかったのかアフレでしかたがない。

ガードつまり『まもる』というわざは大抵のポケモンが本能的に使える最強技のひとつなんだがな

トレーナーにもポケモンにも集中力いるしタイミングもギリギリ要求する上級者向けわざそれが『まもる』なんだが攻撃の未練がなくり捨てて防御に十割意識配分することで被ダメ99%以上カットしてるかもしれないという研究成果もあるという

疲れるから安易な多様は厳禁なんだがあの時みたくどっしり構える立ち合いで攻撃待ちだったらそこまで難しくないはずだがな

「で、でも、守ってるだけじゃ勝てねーだろ。それに、また別のわざ使ってきたらどーすんだよ」

「てっぺきのまもり整えたらあの強力なキックの魔獣といえどもこわくない

あとは落ち着いて強力なサイキック攻撃したらサワムラーは倒せてた。

おれはリアルでエビワラーというポケモンを見たことがないから北斗ばくれつ拳の情報だけだから

リアルで何すっかわかんねーのでそっちはアドバイス知らん。じゃあな」

おれは言いたいことだけいって立ち上がり、さてポケモンセンターはどこかなと歩きだすと元気になったのかシヘイは回り込んで立ちはだかつてきた俺は「どけよ俺はポケセン探して部屋を取るだよ」というと「なんで、お前、オレにアドバイスなんかしてんだよ」ときたおれは言った「あのジムリーダーがけちで何もやらなかったからこういう結果をもたらした」というが「あ？」とポケた呟きにピントきてないのは明瞭に明白「ジムリーダーの義務はジムリーダーのプレッシャーとなって襲いかかってくる。公認ジムは挑戦者のトレーナーの資質見るのが役割のはずなのにリーダーのアイツ勝つか負けるかしか見てなさそうだったから勝手に口が動いてしまったというだけ」と続けた

最後のアドバイスっぽいのは対策の対策の対策とかだが

実質なにも言っていないも同然だしな

裏の裏はオモテということも知らないのかよ、と聞いた瞬間思ったが黙っていた。

ま、大のオトナがこの理屈くらい知らないはずないから擁護してやるとひさびさの公認ジムでこいのぼりに舞い上がってる可能性もある

ちなみにこいのぼりに舞い上がるというのは滝登りコイキングの竜の舞ともいうな突然変異の出来事に調子コイてるっていう名台詞だべ？

するとシヘイは「ポケモンセンターは南ゲートまで進んでから西の大通り歩けばすぐ見つかる。これで貸し借り無しだ」といって走り

去っていった。

忍者はムシしてたまに話かけると勝手におれのライバルになる。

お前を倒すのは俺なんだから

ジムリーダー戦負けたくらいで心折れるのはやめるべき

あとから知ったんだがこのときエスパ―道場の屋上からおれのことを三回連続で見つめていた存在がいたらしいもちろん気付かなかった。

◆◆ここから忍者のシヘイ側の視点◆◆

(注目) ここから下はライバル忍者の裏話なので

アイアン・ブロンテというオリキャラの視点ではないが

神の視点の描写でもブロント語なのはもはや決定している(神域)(八卦用意) だが神の視点と言ってしまった事で微妙な誤字も許されない緊張感が生まれた

これは対等な誓いなので守られなければならない(ミステリー)

◆◆いまから忍者のシヘイ系の視点◆◆

(岡目八目ってコトワザもあるが……悔しいがポケモントレーナーとしてのセンスは完全にアイツのほうが上!)

シヘイはわざわざ隣町のタمامシシティにあるポケモンセンターまでダツシユすると

そこで回復マシンのパワーでひんし状態の手持ちを回復してもらい、

すぐさまゴルバットに乗り地元のセキチクまで飛んでいった。

ひんしのポケモンでもそらをとぶできる?!

寝ぼけんなよ?

じゃあそういうお前は瀕死の時10キロマラソンできるのかよ?

みる。見事なカウンターで返した。

(認めなきやなんねえ……オツキミヤマで俺がアイツに勝てたのは、ヤドランのレベルがアイツのポケモンより圧倒的に上回っていたから。それだけにすぎねえ。このままじゃ、対等な条件じゃ勝てねえ

……っ！)

空は夕方でアカネ色なんだがゴルバットには余裕で飛べる空の環境だった。

シヘイはゴルバットが運悪く一撃でキツクの餌食になった瞬間を思い出す。

(あのときだ！ オレはサワムラーの気迫に完全に吞まれていた！

いや、それどころか、初めて敗北したときから、対策してる時から吞まれたままだったんだ！

ヤドランがやられた時も、最初は用意してた対策ができたのに、きゆうしよ狙いされて無駄になったと思つたとたん、早く楽になりたくて安易な弱点攻撃をしたくなつたんだ！

自分つてモノを貫けなかった！ あの対策の中に、オレに貫くべきポリシーが無かつた！)

ネガネガしてるとゴルバットの飛び方がフラフラなんだが

それは珍しくないことなのでシヘイは気にしなかつた。

だがそれは大いなる見落としで今のフラフラ飛行は

ゴルバットがおやのシヘイを心配して慰めたくてやったと見るべき

その後も反省してるんだか自責の自傷に酔つてるのかしらないがシヘイなりに色々考えてたがそのやりかたは出口のない袋小路でほとんど意味が無い考えばかり

その後日が完全に沈んで夜になってからゴルバットはセキチクのポケセン近くにたどりついたシヘイは近くのセキチクジムの

『関係者以外立ち入り禁止』の裏口に入っていく。

危険な忍者トラップをひゅんひゅん避けて進むと

とある部屋のフスマの前でやおらドゲザした。

「師匠！ どうか俺に更なるインストラクションを与えてください！
もう、自分では何も分からないんです！

対戦相手の対策すればするほど、底の無い沼に沈んでいくようで

……

自分なりにもがいてみても、良いも悪いも分からないんです！」

「あたいはなんべんも言ったはずだよシヘイクン。

忍者は耐え忍ぶ者。そして耐え忍ぶ者は辛い、って」

フスマの先にいるやつ……一体何者なんだ？

という次回へのヒキをするほど隠す必要は無いのでバラすとセキチクジムリーダーのアンズ。

忍者の彼女は地元の特レーナーとか忍者に憧れる外国人とかからすると

四天王のキョウと併せて羨望の的らしい

最初はじめてシヘイから師匠呼ばわりされて困惑していたが
門前払いとかしても粘着してくるさまに

いまだき本気で忍者を目指す骨のある若者だと思い

今では修行させながらアドバイスしてららしい

「そうそう。ピカチュウとピッピありがとね。

友達が可愛い可愛いって言うから見てみたくて、

修行の一環で捕まえてもらったんだけど。

人から隠れようとするポケモンの気配の探り方はわかったか？」

「ハイ。勉強になりました。

二匹とも、気に入りましたか？」

「ゼー……んぜん。

クロちゃん達みたいな魅力感じないのよねー。

もうやせいに返しちやった。別に飼いたかったわけじゃないし
ねー。

トキワの森とおつきみやまであつてるよね？」

「アツハイ」

「んー、しっかしなー。この口伝で伝わらないとなると……うーん。

自分で考えさせずに教えずぎると忍者じゃなくて指示待ち人間になつちやうしなー。

ポケモンに指示する側のトレーナーが指示待ち人間って、それどうなのさ」

「出来が悪くてすみません」

アンズは二年以上このシヘイというポケモントレーナーの面倒見

てるが

忍者としては才能があっても（勿論あたいよりも下だがねという自負はあるがね）

トレーナーとしての資質は悪そうだな、と判断していた。

ポケモンを目的達成の……忍者になるための……道具として見ているフシがあり

悪しき心に墜ちるか大成しないかのどちらかだろうと見ていたのである。

もちろんジムリーダーとして矯正しようとしたが筋金入りであった（頑固）

しかたがなく闇系の方向にいかないよう、見栄えや響きの良い、見た感じがいかにも忍者っぽい、いわゆる忍者ごっこ系のうわつらの忍者テクは教えてたが本当の忍者の秘伝とかは絶対教えなかったんだが今日は一味違った。

（なーんか今までのシヘイクんの雰囲気と違うんだよねー。

忍者の真似事希望じゃなくて、一本芯が入ろうとしてる。今まさに。

いまなら、あの修行しても大丈夫なのかも）

「しようがないなあ、いいよ。弟分の頼みだし。

今までよりもう一步踏み込んだ、ポケモンバトルに関する修行方法を教えてあげるよ」

と言われるとシヘイは喜びをかみしめた

（ずっと前からそういうのが欲しかったんだ！）

と今までの苦勞が報われる気持ちになったんだが

今までの苦勞なんか天国だと言わんばかりの地獄が待ちうけている

修行のことがシヘイはわかってなかった。

「一回だけじゃ意味わかんないかもしれないけど、よく聞いてね！」

「ハイー！」

そこでアンズはワザと長いタメを作り、

こうすると威厳があるっぽいかなー、と内心ふふつと笑った後

おもむろにフスマをドンツと両開きすると声色を変えてキツめに言つといた。

「これより一ヶ月。ポケモンバトルにおいて一切の攻撃技の指示を禁ずる」

シヘイは予告されたにも関わらずどんな修行にも耐えてみせる！
と思つてたにも関わらず、完全に理解不能だった。その言葉は予想外にもほどがある。

（一切の攻撃技禁止？

それで、どうやって戦えばいいんだ？）

「忍者は耐え忍ぶ者である。

そして耐え忍ぶ者は辛い。

ポケモンバトルにおいて一切の攻撃技の指示を禁ずる。

あとは……分かるよね？」

「いやわからねえよ」

シヘイは師弟間の言葉遣いも忘れてツツコミ入れたが「これでも教えすぎてるくらいだよ」。

あたいは11歳の頃に一度やってるし。いま12歳のシヘイくんはできないの？」と言われると「うっ！」と言葉に詰まった必死に頭を回転させたがこれ以上言い返す言葉は出なかった。

だがシヘイは覚悟を決めていた「やってみせます！」と啖呵きるとすばやく実家に帰り、飯食ったり飼つてる連中にフード食わせたりと

やることやってから改めて一切の攻撃技を行わずにポケモンバトルに勝つ方法

について考えをまとめていくのだった。

でもすぐ音を上げてた

「わからない！ わからない！ アーッ！」

タタミとふとんのあいだごろごろ転がるシヘイを机の上の鉢植えの寝床でみてたマダツボミは

たぶんだが（がんばれがんばれ）と声ならぬ鳴き声で応援するの
だった。

13. ポケモン大好きクラブの匿名希望がポケモン
自慢をしかけてきた！

ヤマブキのポケモンセンターは

都会のセンターだけあってたてもレベル高い。

他のところのポケセンに上乗せしてエレベータで

上の方いくとバトルしない派閥の

ふれあい広場かんせいしているらしい

オシャレ装備に着飾ったポケモンがいるんだと

いっぽうお洒落のコンテスト会場は無いので

ヤマブキは早く流行の最先端ステージ作成を急いだほうが良いと
思う（推薦）

忍者のシヘイが場所教えてくれたから

ポケセンつけたくら迷子ならないで良かった

でふれあい広場いってみると

そこはコンクリートじゃない人工公園で

いろんなオシャレ装備ポケモンが思い思いのエリアで戯れていた

おやの持ち主はどいつも上流階級属性のオーラが見えそうになっ
てる。

俺はそのうちのうんどうエリアに三匹とも出すと

ふれあい広場にちよつとした緊張だった

勝手に警戒されてしまい困ったんだが

気にせずみんな順番にナデナデしたり

やわらかボール遊びして戯れてるとホツとしだした

「こんにちはー。」

おつきいポケモンですなー」

すると手提げかばん持ち主婦が着飾ったイーブイひきつれて世間
話にくる

すかさずコーディネートみるとミニサイズのむぎわら帽子装備だ
けか。

甘いな。

帽子の選択は大きいので、そこに耳用の穴あけ目ぶかに被らせて上目遣いが通だぞ？

去年会ったポケモン大好きクラブのイーブイマニアが言ってたから間違いない

そこからおやに向かつて『あまえる』『ほしがる』とくりださせるのが去年の最新流行

これが通の嗜み方。

しかしこれ通報されるとポケモン保健所からマークされるという危険も伴う諸刃の刀。

素人にはお薦め出来ない。

まあ公共の場では、普通に帽子かぶせてなさいってこった。

もつともイーブイ初心者にイーブイマニア道が分かるはずもないがな。

俺もイーブイマニアじゃないからイマイチわからなかった。

おつとと脱線しすぎた感、

この人おれが旅のトレーナー定番のリュック装備が気になるんだろうな、

おれとかリアオスのこと三回連続まばたきで見つめていた

「見たことのないやつポケモンだから気になるのは分かるケド躰は行き届いているので」と言ったが笑顔のまま「あらあらおほほ」というあんまり信用してない

ドレスコードがいるなら着飾ってやるが？

おれはリアオスには向かってお座り、ぐるぐるおまわり、ジャンプ、ちんちんと次々としつけの言葉を出すと当然のようにやってのけた。

ここまではただの低レベルアピール

すかさずアクセサリ入れのこものいれ取り出し、ポケモン大好きクラブ限定アクセサリでコーディネートすると主婦の顔色が変わった。

これだけでも十分なのだが更におれの躰はつづく

今度はリュックから三ひきのごはんのフード取りだし

マイお皿x3に注いでいく「待て」というと

食べたそうにするまま我慢するのだが

俺が「リアオス、よし！」って言ったら

ちやんとリアオスだけ食べて残りは待っていた（優秀）

じゅんぼんにリアメス、ナイトと待て解除してよしすると

みんなちやんと言うこと聞いて行動、少しだけ待ってやり

「ぜいんがまん！」と言ったら

食べるの止めてお座りになったので

コソコソ様子見てきたギャラリーは拍手しだした。

「ごめんなさいね、きみ。」

ジムバッチ集めしてる、戦うトレーナーさんに見えたから、

野蛮な方にここは場違いよ、って言おうと思ってたの」

どうやら主婦はこの広場のボス格らしく

ポケモン大好きクラブの会員だという。

「実はおれもクラブ会員」すかさずリュックのだいじなものいれから

トレーナー手帳じゃないポケモン大好きクラブ会員証見せると

「やっぱりー」という声とともにもう遠慮する必要ないとばかりに

イーブイラヴのかわいさトークが始まったがこっちは園児の頃から

クラブ会員だった俺に隙はなかった。

さいしよは泳がせて大人しくあいづちとかだが息継ぎの呼吸読んで反撃逆におれがニドリーナかわいいトーク繰り出してやると想像して圧倒されたのか固まって動いてなかったのでリアルにリアメスにお尻向けしつぽふりふりさせてトドメ。

ポケモン大好きクラブ会員は顔真つ赤にして帰っていった

このポケモン自慢はおれの勝ちのようだな。

ポケモン自慢はトレーナーが喋ると同時にリアルでもポケモン動いてもらってアツピールしないとトークに引き込めないぞ？

行動美

その後「おまえら残り食っていいぞ！ よし！」といって三匹に残りのごはん食べさせると「やっ」と許しが出たか！」「封印が解けられた！」という思いが聞こえそうな勢いで根こそぎごはん食べてた片付けて帰ったがヤマブキポケモンセンターふれあい広場では伝説になっ

てる。

そんなに自慢したつもりはなかったのだが思いのほか時間たつてたらしく、いつの間にやら都会探検の時間は失われていた。おそとは夜なつてたので寝る前に技マシン使うことにした。

ポケセン内には誰でもいつでも使えるこうきょうのぼそこんがある。

手始めに液晶画面さわるとピーピーとアクセス音。トレーナー手帳読み込ませたりパスワード入力したりして個人画面呼び出すと色々あるがボツスにポケモン預けるを選ぶ、すると画面下のモンスターボール置くとが開いた

ポケモンはパソコンの中にはいれる生物というのはせいかつとかどうとくの授業の一般教養で誰もが知る事実だが

残念ながら人間は入れないようだがどういうリクツかは大学のポケモン学クラスで簡単じゃないという姉情報があるので理解不要。

開いたところにナイト入ったボールおくとガシチャン閉まったばそこんの中に入ったナイトは無機質にも『オムナイト・♂・タイプ1いわ・タイプ2みずく以下どこまで信用できたか分かつたもんじやないステータス画面く』という文字表示にされていた

分かつていたことだがぼうぎよがいちばん高いな。

次にえんかく攻撃とかする属性攻撃の意味のとくこうという項目が高い。

意外にもパワーの力強さを現すこうげきは低い

しめつけてかみついている時はかなりのホールド力なんだがな。

やっぱりこのステータス画面うさんくさいな、信用に値しない

技マシンってこの状態で使つてるところは地元とかで見たことがあるが

実際にやったことないのでパソコン横のびよんびよんするグルグル巻きに繋がってまとめられてる「つかいかた」の説明のまとめ読みながらやった。

まずは『ねつとうの技マシン』をパソコンに読みこませる。

するとパソコン画面に「この技マシンには『ねつとう』の情報が入っ

ています。覚えさせるポケモンを選んでください」と出るので俺はナイトをえらぶ

そしたら「オムナイトにねつとうを覚えさせています。絶対に技マシンを抜き差ししたり、ポケモンを引き出そうとしないでください」と出て、ちよつと僅かに待つてると最後に「オムナイトはねつとうを覚えました」と表示されていた。

ホントに大丈夫なワケ？

俺はしぐにオムナイトをばそこんから引き出し

更にボールからも出して様子見るのだが

当たり前だがおかしなトコない

まんまるおめめぱちくりさせて触手伸ばしてきたので

掴んでやりせつせつせーのよいよいよいとやると楽しそうに笑つてた。

ホントにねつとう覚えてるか試してみたかったが

ポケセン内でやっていいことじゃないので

俺はナイトをボールに戻すと試すのは明日にして

いつもどおりヒールマツシンに預かってもらうのだった。

糞してシャワー浴びて後は寝るだけというところでおれが借りたタコ部屋に電話連絡がきたんだがどうやら俺に客が来ているらしい。

旅の身なのに客というのはおかしい知り合いだったらポケギア電話だろ。

心当たりなかったから面倒だったので知らないで断ったら乗り込んできた

「お休み中のところ失礼します。

国際警察のアンドリューと申します。

アイアン・ブロンテさん。ご同行願えますか？」

ポケモン情報のウソツキの詐欺罪で逮捕

……ということはなく、ただ俺から話しききたいだけみたいだった。

ただのお巡りさんクラスの警察じゃないワールドワイドクラスの警察の登場に心底ビビったが「寝る前だったのにゴメンね」と先に

謝ってくれたので許してやったおれは優しいからな

タコ部屋だと他の寝る人に迷惑なのでポケセン入り口に広がる待合所に座って話すこととなった。

「いま私はある人物を追っていてね。」

順をおって調べていたら、もしかしたらキミが

その人物に会っているかもしれないと分かったんだ」

アンドリユーって名乗った人は一枚の似顔絵写真を出す

「あつ。ナインじゃん」

「名前を知ってるのかい？」

「聞いたけどナイとか言ってたから俺がアダナつけてやった」

「へえ！ そうなのか！」

ちなみに わたしの ニックネームは せかいの へいわを まもるため

そらを かける いちじんの あおい かぜ —ブルーゲイル—
というんだ

きみも そうよんで くれたまえ」

「カツケエー！」

「おお！ わかってくれるか！」

ブルーゲイルというアダナの格好良いオトナの男は「そんなきみにはあめちゃんをあげよう」と飴玉くれたので貰った。サイコソーダ味のベロパチパチしてくる面白い味わいだった

「じゃあ、そのナインのことを詳しく教えてくれるかな？」

おれは何週間か前にトキワの森でエンカウトしたこと、炎のしっぽポケモンと戦ったこと、対戦結果かなりの実力者であること、その後おつきみやま前のポケセンで見かけたこと、炎のしっぽポケモンは多分だが進化してたこと、その時名前聞いたこと……

それから他になんかあったかなーと振り返り、二日三日おなじおつきみやまポケセンの食堂で見かけたことも後出しに追加すると

「炎のしっぽポケモンというのは最初はヒトカゲ、次にあったときはリザードだった、ってことで良いかな？」

「ヒトカゲとリザードというポケモンが分からない」

「そうなの？ 有名なのに」

「でもその名前はリザードンに似てるな。炎のしっぽポケモンとは似ても似つかないがな」

なんといつても大空を翼がない背中を見た目がぜんえん違うだろうが

「あー……いや、まあそういう子もいるか。

説明しよう！ ヒトカゲはリザードに、リザードはリザードンに進化するのさ！」

そんなはずあるか何かの間違いではないのか？

それが事実だとするとあの炎のしっぽポケモンのスタイリッシュ姿からよきによき羽はえてきて体系もゴツくなり後ろに伸びる角の位置も数も変わるじゃん！

俺が納得しないでいるとブルーゲイルさんはポケモン図鑑とりだし「このポケモンだよね？」という画面表示のポケモンでだいたいあつてた。

しかもわざわざ順番にヒトカゲ<リザード<リザードンの並びも見せてくれた

進化つてすごい。おれはあらたまてそう思った（ビックリ）

にしてもポケモン図鑑うらやましいなー

まあ無くてもいいけど俺にはレポート図鑑あるし

「だがマズいな。もうリザードに進化させているのか……」

俺が感心しきりにしていると独り言呟いたが誰も聞いてなかった。

そしたら神妙の顔つきになり、ブルーゲイルさんはこう言った。

「とても重要なことを確認させてほしい。

ナインがつれていたリザード尻尾の炎は、青かったかい？」

「二回会ったどっちともずっと青かったぞ？」

「ずっとか。そうか……いや、本当にありがとうアイアンくん！ 凄く参考になったよ！」

ブルーゲイルさんは「よし！」と立ち上がりポケセンからでようとしたが

俺は聞く権利あると思うことがあつた

「ワザワザ国際警察クラスが追いかけてるってことはナインはわるいやつなのかよ？」

「……あの子は悪い子じゃないよ。だけど、保護しなくちゃいけない」とんちかよ？

俺とんち嫌い意味不明。

するとブルーゲイルさんはあらためて「協力ありがとう！ バッジ集めの旅頑張つてね！」と言ってポケセン出てったトンチの答えだけ知りたかったので追いかけたところあのリアル伝説と噂に名高いワタルも使ってるカイリユに乗って飛び去って行った。

国際警察、すげー。しかもブルーゲイルなんて格好良いニツクネームだよなー。

おれも更なるカツコイイあだなつけて欲しいけど中々大変だぜ。

こういうのは自分で自分につけるのは違うとおもうし

だって自分で自分にあだなつけるとかダサくて恥かしいな

いみょうというものはスゴさに尊敬して自然につくべき

トキワの森のポケモンマスターというのもよいがやはり次の上のランクにカントー中に轟くあだなが良いナ

その後タコ部屋戻ると「キミ逮捕されたんちゃうん？」とまだ起きてた同室のジョウト弁のヤツからかつてきたが「目撃情報答えただけ」とだけいってそのまま寝た。

どうでもいいが縁もゆかりもない集まりをタコ部屋というタコの由来はオクタンってポケモンをボール入れないで詰め込んだタコ壺からきた意味なんだってよ（トリビアン智識）

でもオクタンがタコというのは意味がわからない（リアル話）

14. ねっとうは流れる水の勢いに炎の熱が合わさるダブル属性と行ったところかな

おれはナイトを使い手なんだが「さあ明日に向かってねっとう！」と指示すると「なにいきなり話しかけてきてるわけ？」と言われた。

夢かなこれは対戦相手はほのおの尻尾ふりまわして相手をなぎ倒し鋭いツメでズタズタにひきさいてしまうポケモンことリザードなんだが「お前のねっとう見せてみる！」というところ「おまえ頭だいじょうぶか？」という返事、リザードはハリボテみたいに動いてないがまさかとは思う俺はおかしくないつもり。

今すぐねっとう見てみたいので「いいからねっとうしろ！」と叫ぶと「おまえそれでいいのか？」ということ聞かない

ついには呆れが鬼なってこっち向いたナイトは急にひかった。したらニョキニョキ胴体とか手足はえてきてシエルアーマーのエーリアンナイトに進化

俺より身長でかくなつたナイトはズンズン歩みより、おれの肩に触手おいていさめてきた

「おまえの人生はおねしよするような人生ではないでしょう？」

おいイ？

俺はオトナのオトコの小学生だしおねしよとかするわけ……！

うっわ畜生おれは馬鹿だ！

「オウワツつぶぬえー！」

ガバツつと跳ね起きて布団まくりあげたおまたきゅつとするとギリギリ最悪の事態は免れた。

ここポケセンのタコ部屋なんだが二段ベッドx4の八人部屋なのに大惨事やらかしてたら俺なら恥かしくてそろりと生きるな……いまの必死の声でなんにんかモゾモゾしだした

寝タコ起こすな眠らせろという暗幕の了解もある俺はひややせかきながらも静かに急いでもじもじ素早く猛烈な駆け足でトイレに乗

り込んだらなんとか間に合った「助かった、終わったかと思ったよ」おれは思わず防いでくれてた夢のナイトに感謝を捧げていた……

なんとか絶望が鬼ならずにすんだところだがもう一度おなじところで寝る勇氣はない（恐怖）

俺はそろりと手荷物回収してもう出てくことにするとまだたいよう起きてないみたいでしんやの夜。

いつでも受付にいる参勤交代っぽいひとから「おはようございます。目覚めが良いですね」と言われつつポケモン返してもらい、エレベーターでふれあい広場いった。

ふれあい広場はポケセンと同じく夜でも開いてる施設。

しんやなので誰もいないと思っていたが

いがいにも何人かがポケモンと戯れていた

昼とは違い旅のトレーナーっぽいやつらとか

スーツ装備の大人とかなのだった

ま昼間は上昇階級にこの場所支配してるんだろ

シユミレーションしてみたところ当たあらずとも遠くないよう思えた

そいつらお互い交流じゃなく、自分のポケモンに構ってリフレッシュなのでおれも空いてるスペースで3びき出してそうしたぞ

リアオスはまだ眠そうでもまばたき多いこしよぐつてるとイヤイヤするこれがまたかわいいのだがやりすぎると嫌われるのでぼんぼん叩いて「まだ寝てていいぞ」というと素直におねむのポーズ

リアメスはそんなリアオスにぐるりと歩み寄ると接近にミツチャコして寝ようとするのだが、自宅でボールフリーに寝かしてたときみたいにしたがったがカラダでかくなつたから難しいみたいだった。

リアメスがもしもじしているとリアオスかためでちらり見るとフトコロに招き入れ、2匹でミツチャコして二度寝した寄り添うとお互い鳴き声でむにやむにやいつた。

ナイトが入り込むスペース開いてないので俺が相手してやる「おまえもいつか進化するんだな」と声かけながら触手むにむにしてやったが目ン玉ぱちくりばかりで良くわかってなさそう

まあ俺は分かったた（予知夢）

今は頭だけだがいずれ首から下がニヤキつと立ち上がることが判明したので今から楽しみで仕方がない（成人）

流石に夢見すぎカモだがリザードってやつに羽によきによきはえてリザードンならオムナイトも胴体によきによきはえてもおかしくはないはず。

するとナイトはやわかいボールが気になるみたいなので眠くなきそうなのでやわらかのボールでパス回しに遊んでやった。

ふれあい広場に一人だけど独りじゃない、
ぽけもんいっぱいだけどバトルじゃない、

穏やかなの平和時間の経過

安息美

しばらくするとポケモンたちボールに戻してちよこちよこエレベータで帰るひといるのでポケギア見ると公共の食堂開きそうな時間だった。

おれも腹へつたしみんなそうだと思うナイト先にボール戻して「起きろー。いくぞ」と声かけたすると2ひきともぐにーつと伸びして鳴き声なので大丈夫みたいだな、ボールに戻してエレベーター降りていった。

食堂で朝メシ食つてるとなんかたまたま目に付いたんだが、おれより年上っぽい同じテーブル囲んだ連中が朝から対戦しようよとかいよいよとかだが楽しそうに話してるのを見かけた。

わざわざ朝のポケセン食堂だからバッチ集め同士のともだちかもな、と思いつつヤマブキのトレーナーがどこで集まって対戦するか見てみるのも悪くはないと思ひ偶然をよそって後つけると、もよりの南ゲートから街から出ずだからってジム方面でもなく歩いていく。

街中で対戦は迷惑だから怪しんだがすると『真剣ゼミ』とデカデカと書かれたビルに入っていた。

なんだポケ塾生か。

ポケ塾ってポケモンバトルのこと教えてもらう専門学校

ついついバカかと思ってしまふのは小学校でおれがシャツタアウ

トしてた塾通いのやつ1りいたからだろうな。ま、あんなやつのはどうでもよい興味もない。

ロクでもない塾はきほんが弱いポケモン使わず強いポケモン使いましようとかだからな……あのときは今にもアイツを殺してしまいたいような殺意を向けてしまったがこの話題ははやくも終了ですな。

ここはどうか知らないけどどうせヘリクツの巣くつだろそんな頭でっかちにプライド高そうな強ポケモンがなびくとは思えないがな

ま、塾通いにはポケモンが数字扱いにぬるネット対戦世界がお似合

い
俺はリアルが充実してるから関係ないけどおまえら将来はネット番長にでもなるんだな。

おれはストーカーではないのでなにくわぬ顔で通りすぎてやった。そしたら位置的にタمامシ・シテイ側だろう西ゲート見えたのでそこから出ると、タمامシからヤマブキに出退勤サラリーマンの邪魔にならない道路のはしっこでたむろしてた奴らいたのでストーリートフアイトに連載。

どいつもこいつもまあまあ強かったが交通のべんでジム巡りの中心地、ヤマブキと住宅街中心のタمامシ間の隣接道路だからだろうな。トツポバッターに繰り出してたナイトは最終的にやられてしまったんだがきのう覚えさせたねつとうは、強力な追加効果を秘めたわざらしい

効果分かったのは対ラツタとのタイマン中のできごと。

「ラツタッター！ ひっさつまえば！」「ナイト！ ねつとうブレスー」デカイくちいっぱいに開いて飛びかかってきたラツタの口にナイトは見た感じみずでっぽうと同じタイプの勢いぶつける

するとラツタは「ぢゅー！」と熱いのか苦しい鳴き声あげ、それでもおやにちゆうじつなのか噛みついてきたが硬いからで防いでしまいうナイト。するとそこからガジガジせずラツタは身悶えした持ち主のミニスカートは「あー火傷してるうー！」と言ってたから間違いない。

その後ミニスカートはまえば攻撃させず、からげんきというわざで戦ってきたがナイトの防御りよくには敵わないようだな

ねっとうブレス見た感じみずでっぽうブレスと同じなのだが水なのにほのおタイプの状態異常であるやけどのパワーが宿っているらしい。

ということは流れる水の勢いに炎の熱が合わさるダブル属性とあったところかな

ぽこもんのタイプだって複合に二つあるということはわざのタイプも融合属性あるだろうしな

その証拠にくさタイプだろうクサイハナという名前らしいポケモンにも

ねっとうブレスあてたら熱くて水から逃げたそうにしていた。

水鉄砲なら勢いにおされるだけでほとんど意味がなく、むしろ気持ち良さそうにしてただろうがな。

まあねっとうで与えたダメージはギガドレインという吸収技で取り返されてしまったがな。

このやけどという状態異常とナイトの組み合わせはぼうぎよの輝きが増すので好相性といえる。何故かというど火傷したらじわじわ痛くて力込めるともつと痛くなるのでとっさのパワーが半減するのだ！

だからポケモンのやけどには気をつけようって学校の授業で習った。

流星はジムリーダーのオススメといったところかナイトにピツタリだと悟ったよ〽️カスミ感謝

こうなるとタケシがオススメにくれた岩石封じにも期待が持てるというもの

残りの連中はリアオスが片付けた。

やはりというか相変わらず額の角の攻撃力がやはり最強なのだが地面をしつかりひみしめての勢い乗せた突き強攻撃が猛威を振るう。

残念ながらサイドンの進化前っぽいやつのとっしん突きには体重差でパワー負けしそうになってたがパワーで勝てないなら勝てるトコで勝たせてやればよい「れいとうビーム！」よどみなく俺の指示にあわせて角全体から冷距離光線出してるので0か100かで言えば

100%パワーの力を引き出せるようになっててサイドン進化前
やっつけた

「氷タイプでもないのに良いれいとうビーム打つじゃねーかよ！

だが悪いな！　ここまでだ！　頼むぜスリりん！」

ボーイスカウトがラストにくりだしたのは二本足で立つきいろい
やつ「スリりん！　サイケこうせん！」すると出端からエスパータイ
プのビーム攻撃「かわせ！」リアオスはサイドステップじゃない斜め
前ジャンプで回避、

「そのまま突っ込んでつのでついてやれ！」「やらせるな！　さいみん
じゅつ！」おれは力カツつとダツシユさせ角攻撃の指示したところ、
そいつ紐とコインくくつたのでゆらゆらさせたが

もし闘争心あふれてなかったら気がそれてたかもだが相手倒す気
いっぱいリアオスには催眠術すら効きにくい（頑固）

角で突っ込んだ位置がきゆうしよなかきいろいろいやつ足プルプル
させてスキだらけだったので連続攻撃のさみだれづきでトドメ。

おれはラストに戦った人から賞金もらおうとその人「おまえとニド
リーノ息ピツタシじゃん。いまバッジ何個？」「二個だけど？」「マジ
かよオレ三個だぜ!!　お前なら今すぐでも三つ目すぐ取れるってー」
「ほう？」等等対戦後の情報交換に積極的にニビジムとかトキワジムの
こと聞かれたので知ってること教えてやった。

おれもヤマブキのオススメ観光ポイントとかジムのこととか教え
てもらい、レポートに書き残したのだが

「今年のヤマブキジムはヤバいぜー」。

おれヤマブキ地元だからさ、毎年ヤマブキの公認ジム決定戦見てる
けど

今年のタケノリさんの仕上がりはヤバいよ。

ゴールドバッジも自分に勝った相手にしか渡してないらしいし。
勝てそうになかったら後回しにするのもありかもな」

という言葉が印象的だった

15. 対戦が強い上にオトコマエ（ジムリーダー）

「なんだかんだ一週間かけてヤマブキ・シティの都会ジャングル探検とか、

いろいろあったが一番のどつきりイベントといたらチート洗濯機だべな

おれは旅人だけあつて着替え着まわして当然洗い物してるんだが何日まえの夜だったかな……ワンコインのランドリーいくとふよふよしたのがいた。

そいつ洗濯機のなか入るとチートかバグなのか100円いれないまでも

オートで電源オンにゴウンゴウン動き出す不具合が発生した

最初見たときポケモンがせんたくくに巻き込まれた！ と思ってしまう「おいイ！ 大丈夫か！」と強制停止にフタあけようとしたところ腕にビリつときてしかもランドリー急に停電

さつきまで明るかったところがまっ暗くなるのでその心中は察してもらえるとと思う。

おれは中がぐるぐるで目エ回してそうな、さつきビリツときた洗濯機開けたら……なかには何もいなかった（リアルホラー）

俺は力も強いしとっさの機転もきく勇気のゆうかんものなので悲鳴はあげなかったがものすごく洗濯し辛くなった事実。

この恐怖体験を次の昼間のふれあい広場で話したところ
はっ隠したのだがロトムっていうイタズラぽけもんだったことが判明した

ちなみに数分程度の停電は偶然のたまたまだったらしくロトムとは無関係

会ったのはその後一回だけだが洗濯機入る前だったので「あんまイタズラしちやいけないぞ？」というと

こっそりしてるつもりだったのか声かけにビクつとしておくびよるのかとんずらして逃げていった

カントーナンバーワンの都会には稀にだがよく草むらじやないポ

ケモンがいる

路地裏のニヤースとか夕焼け空のヤミカラスとかだが

ロトムもそのうちの1匹きだったという話です

こいつらおそいかかってよりむしろ人間から逃げてるけどざんぱんつけねらってるらしいアワレな生態に見えるが野生本能が選んだ生活のチエなら文句つけようもないでしょう？

ポケモン保健所の魔の手がのぶてきて人工的に淘汰されるのは目に見えないとこでやってるでしょうたくましく生きていけば、と他人ごとのようにおもうしかできない(苦汗の選択)

良いも悪いもあつたが都会のふいんきに慣れてきたのでそろそろジム戦。

おれは満を持してポケセンからヤマブキジム目指して歩いたところろが

途中こないだヤドランと座ってたむ気力人が「ナツメさん！ 帰ってきたんですね！」と声かけしてるところに遭遇した。

ナツメと言うと元・ヤマブキジムリーダーの名前。

どんなやつかと思つて見ると旅行カバンのところろ引つ張つてるモテカワメイクのお洒落ガンバリストがいた。

なんか聞いてたイメージと違うな

特長的なストレートロングのクールビューティって聞いたが

外ハネしてるし笑顔に明るくて積極的のキャラクターに見える

ま友達でもないのにじろじろ見るは無い「ポケウツドつてやつ面白かったわー、はいおみやげ」とか言つてる後ろ通り過ぎて俺は現役ヤマブキジムに入つていくのだった。

「おーっすー！ 未来のチャンピオン！」

どこにジムにも一人はいるらしい実況属性の人の話によるとかくとうタイプのうんちくだが、けいかいしてる他のトレーナーに散々聞いたので放置。

その後トレーナー手帳でバッチの数見せるとその数に合わせて

まずはジムトレーナー相手に実力をみせることになるのだが

いずれも北斗ばくれつ拳に登場しているポケモンなので

闘争心に合わせたリアオス・リアメスくりだし、読み勝てばわりと楽勝だった

するとあっさりジムリーダーの出番なのだが「バッジの数に見合わぬその実力！ オヌシ、良いトレーナーであるな！」と褒めてくれたその後ごほんとか払いしこう言った。

「ヤマブキ ジムリーダー ふっかつツツ！」

ヤマブキ ジムリーダー ふっかつツツ！

ヤマブキ ジムリーダー ふっかつツツ！

……………

……………

…………… オスツ！

わしは ヤマブキシティ ジムリーダー カラテだいおう タケノリ である！」

「知ってる。みんなお前をうわさ話で称えてるんだよ」

「てれっ……ゴホン！」

わしの つかう ポケモンは みーんな かくとうタイプ！

どっちが つよいか しりたがる バトルずき ばかりだ！

それは わしも おなじきもち！

こぞう！ おぬしの つよさ わしに みせてみよ！

トウリヤー！」

ジムリーダーってよ

みんな始めて挑戦のトレーナーにセリフ決めてるのかよ？

いっしゅん疑問だがさっそくバトルなのでこれ以上考えないでボール投げた

「ゆけい！ バルキー！」 「いけっ！ リアメス！」

おれたち同時にポケモンくりだすのだがリアメスにやる気がないのでアイツは♂ということになる。このジムのポケモン♂か♀かでいえば♂ポケモン多く、先発させたがすぐ引っ込めるってこと何回かやってたから体力ありあまつてるこのまま行くか。

このバルキーというポケモンは忍者戦では使ってなかったし使うとも言っていない。

ということとは低バツジ数トレーナー相手のポケモンなのは火を煮るより明らか

おれが考えてると「バルキー！　ねこだまし！」と速攻きた開幕にいつぱつお見舞いされるとリアメスびつくりしてたぶん今なに指示してもひるんで動けないので落ち着くの待つとく。

するとバルキーは距離をとり、こつちが落ち着くまで攻撃しないみたいだった。

紳士的だな、と思っていたら「バルキー！　ビルドアップ！」ときた。

ビルドアップはパワーアップ系の筋トレわざで、かくとうタイプのサポートわざとして有名。筋トレしているとパワーが溜まってくるのでスキだらけなのだが鍛えれば鍛えるほど瞬発力パワーアップするし筋肉の盾でぼうぎよも硬くなるという（北斗ばくれつ拳情報）

なるほどパワーアップわざみてトレーナーが焦ってしまい、出したポケモン落ち着いてないうちにあわわの指示でパニックに拍車などで悪循環というやりくちだな？

おれがあわてずリアメスが落ち着くのまってるのとタケノリは「よくみておる」と呟いてた。

コレくらいで慌てるトレーナーは対戦に余裕が無い証拠。

待っているとリアメスが落ち着いたので俺は「しっぽふりふり作戦2だべ！」と指示。リアメスはバルキーにお尻むけてしっぽふりふりするのだが、これはいつものしっぽふりふりより更にパワーアップした技

「むっ！　ただのしっぽをふるわざではない……っ！　これは『メロメロ』！」

流石はジムリーダーといったところか、アツサリ真実は見抜かれてしまったがバルキーのほうは作戦にハマってしまったようだな。

筋トレしてたバルキーはめろめろしてくるリアメスから目が離せなくなってるみたいだった。

ビルドアップは続ければ続けるほどどんどんパワーアップする技なのだがこうも誘いがあつては鍛える時間も作れない「やれ！」と指

示するとリアメスあまえた鳴き声あげるのでバルキーはドキツとして硬直してしまう。

これはポケモン大好きクラブで愛されキャラだったニドラン時代に培ったテクニツク

俺が教えたんじゃない環境がリアメスに自然にメロメロ⇒あまえるコンボを覚えてくれたというワケ

「巧みに補助技を使うな小僧！　バルキー！　かわらわりで攻めよ！」

するとサポート合戦では不利を悟ったのかタケノリはバルキーに攻めさせてくるがリアメスにやる気が無いのでこっちはひっつかき攻撃で応戦、泥仕合じみてたが途中バルキーが赤くなり、手ぬるくなつてスキが多かったので最終的には勝った。

「次だ！　ゆけいワンリキー！」

出てきたワンリキーはローキックでしつようにリアメスの足を狙う正統派であった。応戦させたがやはりやる気がなく、最後は強力な投げ技（地球攻撃）でトドメをさされるがやる気ないわりにはけっこうダメージ与えたとおもう

「おまえの出番だぞ！　リアオス！」おれはリアオスを繰り出し、ローキックで狙ってる足を活かして逆に顔面ニドキックさせてやるとワンリキーは倒された。

「では最後だ！　ゆけいエビワラー！」

繰り出されたエビワラーは……なんかぎちぎちした拘束アイテムを纏っていたのを見ておれはすかさず「作戦ターイム！」というところ「認めろ！」と返事なので一旦リアオスを招きよせた。

「ちよつと教えて欲しいんだけどエビワラーのそれなに？」

「これか？　これは『きょうせいギプス』！」

見ての通りポケモンを更に強力に鍛え上げるアイテムだ！

その代わりに、動きは鈍ってしまうがな！」

ポケモンの装備品アイテムの实在は知ってるがカントー地方では一般的じゃない

何故かというアイテムの有無でトレーナー格差が広がってしま

うからという大人の意見。

それでもプロリーガーとかになると第一線でどんどん他地方から輸入に取り入れてるケド、逆にいうとプロリーガークラスじゃないと入手も簡単じゃない

「うごきにぶるのつけてる、ということとはレベル調整のつもりかよ」「うむ。かつて育てておったワシのポケモンたちは、かくとうタイプ普及のために道場破りのトレーナーたちにどんどんひきとって貰ったからのう」

そのかいあってわしはたくさんのエスパークタイプ使いのトレーナーと戦えたがな、と続けた言葉は苦々しくもリアル経験値にうらうちされた自慢だった。

「さて、もう良いか？　あまり悠長に回復させておると、わしのエビワラーが勝手にビルドアップを始めてしまうぞ？」

という前座で受けたダメージにキズぐすり使ったのバレてたか。ま応急処置なので回復量はそれほどでもないが、とうそうしんみなぎつてるしイけるだろ「行くぞリアオス！」と声かけると気合の鳴き声で攻防地点までびよんぴよんしていった。

「うむ。ではオヌシが先に指示するが良い！」というタケノリの発言からおれの予想によるとカウンター狙いなのはバレバレなので角攻撃させるのをためらう「れいとうビーム！」「かわせ！」エビワラーは飛び道具なんてなれてるのか簡単に見切って回避していた。

さてどうするかと手を緩めると基本的にはパワーアップわざある相手有利「リアオス！　みだれ突き！」おれはカウンター対策に連続攻撃させるとすかさず「エビワラー！　れんぞくパンチ！」と応戦してきた。

角とパンチの弱こうげきが相殺しあう、おたがい大してダメージじゃなさそうなので次の指示が分かれ道「れいとうビーム！」「メガトンパンチ！」言葉は同時だったおれはカウンター読みだったが外れていた

エビワラーはれいとうビームもろに受けたが燃える闘魂なのかほとんど意に介さず逆にギブスものすごくギチギチいわせてとんでも

ないパワーのパンチを打ちはなってくる

顔面モロにくらったリアオスは盛大にぶつとばされあえなくダウン。

「これがメガトン属性のパンチ……」面と向かったのメガトン攻撃されるの始めてだったがこれはプレッシャー受けても当然ですな迫力がすごすぎる。

おれはボールにリアオス戻すとかくとうジムということでもボール待機させてたナイトを繰り出した

かくとうタイプっていわタイプのかたさも打ち破るパワーあるからよ

「ほう。このエビワラーの前にオムナイトを繰り出すとはな」

というタケノリは余裕の表情になるそれは油断というものではないか？

強いものが勝つとは限らないのがポケモンバトルだろ「ナイト！

ねっとう！」すかさずダブル属性のねっとうブレスを撃たせると「かわせ！」という指示で避けられた。絶体絶命か勝つのは俺だけど「ねっとう！」「かわせ！」「ねっとう！」「かわせ！」と応酬でエビワラーはインステップで右に左にどんどん間合いが詰められていく

「ねっとう！」「かみなりパンチ！」どうやらチャンスの距離らしくどうやら強力な威力のメガトンパンチよりスピード重視なのか使わなみたいだった

エビワラーがねっとう浴びると火傷っぽいのでたががかわすビリビリと構えながら更に近づいてきた。

思い出せ。タイミング合わせろ。エビワラーの攻撃には致命的な弱点があるんだが？

ナイトの目の前まで迫ったエビワラーはきようせいギブスすごくギチギチいわせて拳をふりあげた「今だ！　ころがれ！」ナイトはくるとエビワラーの股下転がるとパンチ攻撃は外れた「よくぞ見抜いた！」とタケノリ。

ナイトはそのまま転がってくで「ストップ！」というとしよくしゅブレーキに振り返り、再び遠距離の間合いにぬる

「エビワラー！　なんとしてもかみなりパンチを当てよ！」

エビワラーは歩きもパンチもギチギチで合図になつてゐるし、そこま
で敏捷じゃなくゆっくりなので落ち着いてタイミングあわせればな
んどでもなる……でも、だれだつて即ひん死に瞬殺されるだろう一撃
を待ち構えるのは怖いしナイトもそうだと思う。

でもナイトはおれを信頼して指示待ってくれてるように見える。
そして分かった。

この人ポケモンとトレーナーのキズナ試してるのか
人とポケモン、2りの絆コンビネーションがなければ勝てない難易
度でやってるに違いないまるで実家のオヤジのニドキングみたいな
オトコマエを感じた。

見学の時は分からなかったが良いジムリーダーではないか
俺は移動技とねつとうブレスと息切れとかしないようタイミング
よく指示しながら何往復かしているとエビワラーは倒された。

「みごとな　チームワークだ！」

わしも　くやしいが　まけは　まけ！

いさぎよく　みとめるぞ！

おぬし！　わしに　かった　あかしとして

だいじな　ゴールドバッジを　わたす！」

下馬評では強ジムだったが

終わってみれば今までのジムと比肩する

良ジムだと思つたよ

このヤマブキジムは普段のポケモンとの向き合いとか、
落ち着けばどうでもなる問題を挑戦者になげつけていた。
対策とかすこし頭を使えば解決できる問題を考えもせず
安易にタイプ相性とか定番に頼り切る

知識はあつても指示は半人前というトレーナー弾いてるんだらう
な。

そんなジムのある街にポケ塾なんだから

良い大人じゃなくて悪い大人の組織なんだろうなうん良く知ら
ないけど絶対にそう

べつに直接覗いたわけじゃないから印象論だけど関わらないほうがいいぞ

その後『かわらわりの技マシン』か『カウンターの技マシン』の二択がきた

「かわらわりは障壁技で身の守りを固める相手を打ち破るのに効果的！

！
逆にカウンターは攻めにくる相手を黙らせるのに効果的！

どちらか好きなほうをもってゆけい！」

というのでニドラン族と見事なカウンターという技は切つても切り崩せない間柄だからカウンターのほうもらつといた。俺の技教え能力じゃ手が届きにくい領域だし貰っても損はないはず

『……やっぱり、勝ったのね。

予感がしたのよ。

もし良かったら、ヤマブキジムの隣にある超能力開発センターに来てくれないかしら？』

意気高揚と帰ろうとしたらなんか直接脳内に会話がきた。

なんだこれは？

16. かなり人気だからさらに凄いことになる（リアル主義）

例えばだがゲームのRPGとかだと

ファンタジーからの勧誘の声で冒険とか普通だが

それがリアルに起きるということは

やはり俺は実は勇者の一味の子孫の末裔で

そのじつリーダー格だったか。

だってブロンテ家だもん

いつかこういうのに呼ばれると思ってた（究極）

でも今は普段はあまりまず読み負けることはない読みあいに後塵したバトル直後

信頼する仲間達は次々とひん死なってるナイトも内心ギリギリだろうので

リフレッシュこそ急務だろうおれは神秘の呼び声のことはあとまわしにポケセン行ってきた

「知らない人とかについて行く時は元気なポケモンを連れて行きましょう」という名台詞もあるしなちなみに行かないとう案是策はないぞ？ ちよつとでもヒドい思いをしたくないのならそもそも守られた環境から旅に出なければ良いからこれも冒険（度胸万点）

だが罪悪感に営まれた俺は心の中でワビ入れてその誘いに絶対乗ってやる事を約束することにしたがこっちから送信ほうほうがわからないのだった

ヒールマツシンでの回復後

ノコノコ呼ばれた場所に行ったところ

一週間くらい前はむ気力人だったサイキツカーがすっかり元気に立っていた

隣のヤドランの顔色も心なしか良好に見える

「来てやったぞ」

「おや、きみは？」

「なんか直接脳内にここ入ってこいって呼ばれた」

「ほう！ それじゃあきみが、この旧ヤマブキジム改築・超能力かいはつセンターのお客さま第一号だ！ はいってはいって！」

「おじゃまします」

中に入ると広々にひらかれた空間がニビかがくはくぶつかん系で、案内表示から色々なエスパータイプのわざ紹介してるらしい情報もたらされた稀にだが実演もするという

で入り口のまん前にあるのはテレポト体感コーナーだってよ。

ワープ床つての踏んだらワープできるらしい。

左右2つあるのでせっかくなので右のワープ床選んで乗ったらなんか回転しながら意識がそらとんだと思ったら違う場所にホントにワープしてた

これはすごいまさに超能力でしょう？ とでもいうと思っただか？

シルフカンパニーの最近の科学技術とかのアイテムなのは噂話でネタバレに知っている

そしたら正面のおとくな掲示板に「右の床を選んだアナタはくなんか占いの結果にありそうな文章」とか書いてあった。ために戻って左のほうのワープ床に行くとやはりおとくな掲示板があり「左の床を選んだアナタ系の情報」あるので初見者専用のオタノシミギミックといったところかな

『……来たわね。』

ま、テキストに楽しんだら三階に来て頂戴。

一階はサイコパワーの紹介で、二階はエスパポケモンの紹介だから』

すると再びエスパボーイスなのでこれ以上待たせるといのは良くないと思い、カカツと階段上がって3カイまで行ってやった。

するとイーブイ族の進化体の1びき、エーフィがフタマタのしっぽふるふるさせてるのがいたが

まさか野生なワケないだろうがリアオス出すとさつと逃げ出すの

で

歩いてついでくと所長室なる部屋に先導に誘導された

中では赤&黒カラーのふくの上に白衣はおったクールビューティのぎんぶちメガネ女史が椅子に座って待ち構えている様子

いつしゅん誰だか分からなかったがジム挑戦前に見かけたナツメか

プライベートのオシャレガンバリスト装備とはうって変わって今は博識のおねえさん「ようこそ。超能力開発センターへ」という口調は脳内に直接ボイスと同じだった

ナツメというエスパールレディーのウワサ話は色んな人が喋っていたのをまとめると負けるわけがないバトルに負けてスキヤンダルク拉斯の扱いが極一部にある。で傷心旅行にイツシユ地方行つてるという話だが今ここにいることを合わせると最近帰ってきたといったところか。

本人がポケウッドという単語つかってたの推理につけたすと将来的な特ダネ情報の可能性もある

「どうやらあなたは私の名前、知っているみたいだけど、礼儀として名乗らせてもらうわ。」

私、ナツメっていうの。よろしくね」

「俺はアイアンというお名前だけど何か用かな？」

というとなツメは俺が立ちっぱなしなのが気になるのか「まあまあ、椅子に座って」と足組み直したらオートでコロコロついたまんま椅子が寄ってきた。おれがそれ座るとリアオスは俺をチラ見してきたが大人しく座った

するとナツメから「単純な話。あなたの超能力を調べさせてほしいのよ」と言われたがどうやって俺が超能力者じゃだって証拠だよ？

「言つとくけど俺はエスパーマンじゃないから」

「そう？ 私には超能力者に見えるけど」

「どのへんなんだべ？」

「んー。ポケモンへの愛情？」

ポケモンへの愛情がエスパールとか意味分からん。

だったらポケモン大好きクラブ会員はゼいいんがサイキカーだろうが

するとナツメは首を振り、その愛情パワーをポケモンバトルに転用できるかどうかでここで言う超能力の分かれ目なんだと

「私がジムリーダーだったとき、たまにいたのよ。」

どうみてもひん死で、今にも倒れそうなのにグツとこらえるポケモンが。

サイケ光線で混乱したはずなのに、心に支えがあるからかすぐさま正気に戻るポケモンが。

おやを勝たせたいと、本来もつ実力以上の力を引き出すことポケモンが。

本当に強い絆で結ばれたポケモンとトレーナーは、いつだって私のみらいよちを打ち破るのよねー」

という声色はさつきからよくようない棒読み属性だが外の人におみやげ手渡しボイスは明るい声だったので今は仕事声である可能性があるがあるな。だからなんだという話だが

「私、そういう才能の片鱗が見えたトレーナーには、勝敗に関わらずバッジをあげてただけど……まあ、それは終わったことだから、もういいわ。ここでは、トレーナーとポケモンの間に突然おこる、超能力としか思えない不思議な現象について調べたり、調べて分かったことを教えてあげたりするところ……にする予定。将来的にね」

「おいイ？ いまの話で気付いたがじつはナツメは現状なんにも分かってない可能性がある」

「ええ。だからまずは調べるところから始めるの。というわけで手伝って頂戴」

「なんか調べるといふ言葉の響きがうさんくさいからヤダ」

「ふだんあなたがポケモンとどんな風に過ごしてるのか聞くだけなのに」

ほう？

普段どんな風にポケモンと過ごしてるか聞く？

ポケモン大好きクラブ会員に？

いいんだな？

「おまえは おれの ポケモン じまんを

きかせて ほしい のかね？」

「子供にしては中々のプレッシャーね。じゃあ、はい。聞かせて頂戴」
ナツメは組んだ足の上にレポートとペン浮かせると一言も聞き漏らさずメモ残す構えであったがメモ用紙の枚数は十分か？

「そうかではさっそくは始めるがあのなおれのお気に入りのニドラン族からなんだがな

おれんちニドラン一家だからそれはもう生活の中心がニドランと言ってもよい

ニドキングは第二のオヤジと言えるほどだしニドクインは第二のカーちゃんと言えるほど！

でさいしょにつかまえてもらったコドモニドランこいつの進化前なんだけど

それはもうかわいくてなどこにいくのも一緒だったのは言うまでもない

もちろん一段階目の進化を果たした今もたまらんのはここにいる

ニドリーノのリアオスを見れば分かってもらえるとおもうが

つれ歩いてると凄くうらやましがられるさらにニドリーナのリアメスという柔術した

ペアが並んで歩くと嫉妬がすごいことになった心無い悪口で「リア獣が」という連中に

「どうしました？ さわりたいですか？」というとムツとする表情が下から甘えられると陥落していたなあ……（ニドラン族はジョブを選ばない）

実はニドラン族にはさらにもういち段階の進化が残されてるといふ事実。

すすすぎて言葉を失いのもわかるが進化の条件が特別でな

知らないやつはつきのいしが必要そうだと考えたり思うか？

まあ気付かないやつは一生ニドリーノニドリーナの付き合ひも上等だろう一生の思い出になる

どうしてこんなにニドラン主義なのか疑問がくることもたまにあるが

ポケモンが好きなことに理由があるのかという意見で簡単に迎撃できる

すー！ はー！

実家にいた頃は朝昼晩と抱きしめて可愛がったし昼寝するときもだが

旅のみちのりではやりずらいし剥き出しのどくポケモンというのは警戒心を刺激させてしまう

それじゃろこつに常にボールから出して連れ歩くのは断頭の思いでこらえているが

おれの気持ちに共鳴してるのかたまに愛らしくさみしがりの鳴き声がすばらしい鳴き声だ素晴らしい！

ニドリーノはこの通りかつこよさとたくましさの両立生物なのだが

ニドリーナはかわいさとうつくしさの両立生物だからもしカントーにコンテストあつたらおれなら2ひきで4冠は確実なのに！

ここまででも十分紹介なのだがまだ自慢は続く最近入った新入りのオムナイト族だがナイトはスキルも性格もいいのでニドラン族からも一目おかれている

だがたよりにできるからナイトをレベル上げしてもダメだと言う事が最近わかった

ナイトを上げるのは真にナイトの人だからナイトを上げたくてあげるんじゃない上がってしまう者がナイト……………

…………… ありや！

もう こんな じかんか！

ポケギアの時間はなかなかの夜になっていた手短にぜんたいいきな話をしたけなのだが個別の思い出部門がまだまだ喋り足りない「いえ。もう結構」とナツメは鉄仮面が崩れそうになってるっぽい表情を浮かべていた。

「…………ポケモン好きに自由に喋らせると、胸焼けしそうな気分になる

のね。

聞きたいことを質問する形式にしたほうが良さそうね」

「ここまででナツメが知りたいことは知れましたか？」

「さっぱりね。まあ、これからも見込みのありそうな子を呼んで、話を聞こうと思うわ」

その情報出回ったらナツメはヤマブキでかなり人気だからさらに凄いいことになる（リアル主義）

それなりにうまったメモ用紙机に置いて代わりに引き出しからなんか出すナツメは「お礼にこれをあげましょう」と言つて『じてんしや引き換え券』を差し出してきたがオレはバイク乗ったことないぞ？

まあやったことないことやるのも冒険だしもらつといた明日はハナダの自転車屋さんにいこうと思った。

その後あとはポケセン宿屋で寝ようと思ったが次は実技希望なのか「普段どんな風に可愛がっているか見せて欲しい」と言われた。おれがもう出してるリアオスに対していつもどおり撫でたところ、ナツメはモノマネしてエーフィ撫でようとして避けられていた。

ナツメから深い悲しみに包まれてるっぽい雰囲気が漂ってきた

「なにやってるエーフィは体毛全身びんかんはただぞ？ いきなり触ろうとしたらビックリして逃げてしまふに決まってるだろうが」

おもわずおれはイーブイマニアから教わったエーフィの可愛がりがたのうんちく垂れてやるときっきの自慢話の時とはくらべものにならないほどとても真剣に聞いていた実践してナデナデしていくとそのうちエーフィが気持ち良さそうに鳴いた。

するとナツメが夢中になっていく……なんだ自分のポケモンと仲良ししたかっただけだったのか。ふつうなら育てていく過程で体感してオートで分かってくることだろうが分かってなかったということはもしかしたらふつうに育てたわけじゃないかもしれない（空想）

エスパーでテレパシーで何考えてるかわかるからこそそのトラブルとか遠慮もあるのかも俺はテレパシーじゃないから味わ無いでしょう

ミステリーは解けたのでおれはこれ以上いすわるのは無粋におも

い、黙ってポケセンに泊まりに部屋から出てったのだった

17. レポートにしつかり書き残した（レア情報）

朝のモーニングのテレビのニュースの内容なんだが

いつもなら毒の薬にのならないしようもない話題ばかりなところ
今日はポケモンのレア情報っぽかったので朝飯食い終わってから
レポート引っ張り出してログ残してやった

食堂のテレビニュースの右上画面端『ピッピ（カントーのすがた）ぜ
つめつ寸前!?』いま、おつきみやまで何が起こっているのか』だつて
よ

解説でペらペらめくるやつ横にキャスター、座ってる椅子エリア
にコメントター3り映ってる

「そのグラフですけれどもね、見たら分かるんですけどもね、ええ。
ほんの数十年前まで、おつきみやまにせいそくするピッピは皆、携帯
獣学分類上はノーマルタイプに属していたんですよ。それがですよ
？ どんどんフェアリータイプになってる。ノーマルタイプのピッ
ピなんてもうほとんどいませんよ。捕まえられてないんです。絶滅
危惧種といっても……いや、絶滅したといってもいい」

「でもお、ようせいポケモンってよばれるくらいなんですから、フェア
リータイプって分類されてるほうが分かりやすくないですかあ？」

「まあ言葉の響きはそうなんですけどね？」

「つていうか絶滅って言い方は違くないですか？ ポケモンって環境
への適応能力っていうか、適応速度がズバ抜けて高いでしょ？ 左の
……あーうん、それ、データでも紹介されてますけど、おつきみやま
からニビシテイ方面に生息するプリンも、どんどんフェアリータイプ
になってるでしょ？ こっちはノーマル／フェアリータイプなんで
すけど」

「不思議なんですけど、そんなふう生き物の分類が急に変わるなん
てありえることなんですか？」

「イーブイっていうポケモン、とても人気なご存知の方も多いと
思うのですがね、ええ、様々な環境に適応して進化するポケモンなん
ですけれども、イーブイのような事例を知っていますとですね、ポ

ケットモンスターなら何が起きてもおかしくない、って思っちゃいますね」

「別のポケモンで近年のうちに分類変わった例をあげるとコイルがいますよね。何年か前ポケモン人気投票で二位になったコイルが」

「ええ、そうですね。コイルは以前でんきタイプと分類されていましたが、ええ。現在では、はがねタイプも併せ持っているという認識が一般的ですね」

コイルというポケモンは俺はついこないだまで全く知らなかったんだがな……それが人気投票2位はない。どうせネット地方とかのローカル人気投票でしよう雑魚い鯖の情報は参考にならないので放置

「あれもやっぱり、環境にあわせて進化……えーっと、変化したって考えるのが自然ですよね」

「でも、ポケモンがそういう風になっちゃうってことは、なにか理由とかあるんじゃないですかあ？」

「まー具体的なデータ無いのでね。ええ。憶測になってしまいますがね、ええ、一番ありえそうなのは、カントー地方全体でドラゴンタイプのポケモンが増加傾向にあること、になるんですかねえ？」

「その点につきましては、VTRありますので、こちらごらんください」とかレポータが言うと画面きり変わるどっかの牧場っぽいエリアでハクリューのちっちゃいバージョンとか色々いた

『……ポケモンバトルの人气が世界規模で高まりつつある昨今、強大な力をもつドラゴンタイプのポケモンの養殖、育成を試みる人が増えています。ドラゴンタイプのポケモンはともプライドが高く、また、自身に相応しくない未熟なトレーナーの言うことを聞かないことで有名です』どっかの牧場っぽいエリアで専門のポケモンブリーダーだろう人にインタビュースタート

「ドラゴンタイプですか？ たしかに預けにくる人、増えてますね。ワタルさんみたいなカイリューとか、シロナさんみたいなガブリアス使いたい、ってね。で、きつちりこちらで育てたのがいくらかかって教えると「えーっ!？」って。「そんな高いの!？」って。プロリーガーが公

式戦でくりだせるように育てるアスリートポケモンが安いわけではないでしょ？ まあ、こちらとしてもホンキでワールドチャンプ……世界一目指してるなら出せる額のつもりなんですけれども。それでも構わないってことで、もう十件以上予約入ってますよ」またスタジオ画面にもどる

「やっぱリアルですよ。昨年のチャンピオンカップの決勝に登場したワタルさんのカイリユーとシロナさんのガブリアスの激闘の影響でしよコレ？ だってそれ以外考えられないじゃないですか」

「確かにですねえ。ええ。あれはエキサイティングでしたよ。ええ。手に汗握る一戦でした」

「えーつと、ちよつと分からないんですけど、それがおつきみやまのピッピちゃんどう繋がるんですかあ？」

「フェアリータイプはですね。ええ。ドラゴンタイプに無類の強さを誇ります」

「そーなんですよ。もうね。携帯獣学に関わるとね、純物理学とかやめたくりますよ。フェアリータイプのポケモンって、ドラゴンブレス浴びてもドラゴンクローされても無傷なんですもん。あーエネルギー保存の法則壊れるー」

「はっはっは。なにをいまさー。いまどきの純物理学なんてどこもかしこも『ただしポケモンに関する影響は考えないものとする』って書いてあるでしょう？」

「まーそうなんですけどねー。重力ヤバイ。電磁浮遊ヤバイ。気象操作ヤバイ」

「ワースゴーイ ナンカスゴーイ」

コメンテーターは1りがとんちんかん要因で2りの専門家かもの脇かためる構成か。

ともあれドラゴンタイプという世界有数だろう存在にもこおりタイプは知ってたがフェアリータイプという弱点があったことが新たに分かった。

これはおそらくの予想だがおつきみやまにドラゴンタイプのなんかがいるな。ピッピってタイプ変わるくらい対策しているというこ

とは外来種の強襲対策とかしてるに違いない。

まあ俺がわかったところでどうしようもないがなそれが自然の才キテ。

だが良い勉強になった今日のレポートはここまで。

おれは机にひろげたレポート片付けると今日でしばらくはオワカレだろうヤマブキポケセンのふれあい広場いって手持ちポケモンその他クラブ会員等々と交流後、自転車引換え券使いにハナダにめぎすのだった

五番道路は今日も今日とて爆走してる兄弟かどうか知らん2りの自転車乗りがスゴい勢いで往復していた。

おれは途中でわきみち入って育てやさんに行き、ニュース情報の裏取りにレポート片手にインタビューしてやると「勉強熱心だねえ。感心感心」とほめられた。

するとニュース情報は事実だがここではそういうの、やってないらしい「うちは預かったポケモンを伸び伸び過ごさせている程度だよ。それが功を奏してるのか、たまりにポケモンのタマゴが見つかるんだがね」

「競技用のアスリートポケモンは？」

「プロリーグで通用するくらい本格的に育てる専門家は……少なくとも地方のバッジ、8個コンプリートしてない人は相手にもしないんじゃないかな」

なるほどな俺はせっかくなのでとぼくじよう見学させてもらったところ知ってるポケモンじゃない知らない連中ばかりだがみんなノビノビしてるように見えた

「あの水辺にいるのがカメールのつがい。ハナダシティの依頼で預かって、もしタマゴが見つかったら届けることになってる。あっちでかけっこしてるのはヨーテリーにイワンコ、ロコンにフォッコ。同じひとから預かったポケモンじゃないけどあの4ひきは仲が良いね。で、あのガルーラはぼくのポケモン。きもったまお母さんってかんじで、すごく面倒見が良いんだ」

等等勉強させてもらったレポートにしつかり書き残したすると店

の外から「おーい。入るぞー」という呼び声に育てやさんともども小屋にもどると例の自転車乗りのうちの1りが「ロコンとフォッコを引き取りたい」という発生する金のやり取り横目におれはこのひとの背中にいるバタフリーより圧倒的に強く見える六枚羽に目を奪われていた。

「なんだ少年。おれの背中に何かついてるか」

「ポケモン」

「ああ、ウルガモスが珍しいのか。まあカントーちほうには生息していないポケモンだからな」

「おまえはそうとう強いようだな、一度おれとバトルするべき」

「……やる前に言っとくがおれはプロリーガーのサポーターだ。このウルガモスだって半端じゃないんだ。遊び半分ならやめとけ」

「おれはいつだって本気のゼンリヨク全開バトルだが？」

と挑発いうと「ならやるかア」と乗ってきた小屋の外でて対戦相手になってくれたがシャレンならないほど実力者でとても戦闘描写できなくらいぜいじんが超風の熱風3連打であっさり即ひん死に瞬殺されたたぶん太陽タイプ（陽術）

するとひょうしぬけの自称サポーターは言った。

「んー。コレオレが言っていることか分からんが、おまえの手持ちポケモン。じめんに一貫性あるどころかもろ刺さってるぞ。せめてひこうタイプかふゆうとくせい入れとけ」

「一貫性ってなに？」

「……あー、つと、少年にも分かるように言ってるやるとだな。みーんなおんなじ弱点持ってるってこった。ニドリーナもニドリーノもオムナイトも、みんなじめんタイプに弱いだろ？」

「そうなのかよ？」

「そうなんだよ。まだ習ってない？ じゃあひとつ勉強になったな。んで将来的にちよつとそれニュアンス違うな、って分かれ」

「貴重な意見の情報どうもありがとうというべきだろうな。ならばやみんなのジャンプ力あげる必要があるな」

いや、ナイトにジャンプはむつかしそうだな・おれがむむむと悩

んでいるとそいつ「っは！ いい心がけだ。まずはいまの自分の手持ちで何とかしようって意気込みは重要」という

更に「おまえもしかしたら将来強いトレーナーになれるかもな」とプロチームの後衛だという人はおれをほめるとジューズを奢ってくれたこんなにも強いひとがプロじゃないワールドの壁の格の高さにめまいがしそうになったが俺の目標はプロよりもバッチ集めなのでその更に先はその後に考えようと思った（将来設計）

その後ハナダ・シテイに行き折りたたむ自転車トレードにゲットしたこれがまた分かつていたことだが乗るのムツカシク、それほどあまり大きくないから倒れる前にあしつけばいいんだがせいぜい徒歩の二倍くらいの速度しかだせそうにない。なんならダツシユのが早いくらいだが慣れたらダツシユより速くなるかもナ慣れるのまで要練習

まあそれは良いんだが自転車って結構所持重量あつぱくしてくるなど感じになりつつポケセンにチェックインのため中入ったらニンがブルーゲイルさんに逮捕されてたおつと保護のいいまちがえだったな「てめー俺を売りやがったな」ナインは出会いガシラにケンカ販売なので「限られた情報の一部を事情聴取で答えただけ」と買言葉かえすとバトルの空気があった

いま俺には戦えるポケモンがないんだが？

ふと気付いたが背後の常識の人もいかついで拳を上げかけていた「落ち着きたまえ〜」となだめらるるとすごく落ち着いてくる不思議ナインも危険を悟ったのか矛を収めていく

「やあアイアン君。久しぶり。

君の情報から、いろいろなこと話繋がついていったね。

こうしてこの子に無事に会うことができたんだ。ありがとう」

謙虚に謙遜してそれほどでもないと言つといた

だっておれ発信の情報って結構日数たつたと思うんだがそれでも追いついてしまい捕まえられるのは国家戦力のワクを超えた国際警察のパワーなのだよな……保護したのは間違いなくブルーゲイルさんの実力

するとお礼のメシおごってくれることとなった
ヒーلمツシンが先だから飯は後にしてほしい（切実）

18. ……なんでお前泣いてんの？（名無しのナイン話）

遅めになる昼飯にはイツシユバーガーの量産店が選ばれた

サツと食べられるハンズバーガ系統はカントー展開した結果

人気は悪くなくまずまずといったところか都市に一つくらいある

ブルーゲイルさんはイツシユバーガーの真の味を知ってるらしいが

同じようできて各地方に合うよう工夫の心がなされたローカル味もおく深いという

セットのやつでドリンクとポテトなのでそれ頼んだところブルーゲイルさんはセットとは別にイツシユナゲット15個のやつも頼んでた

同伴のナインが注文のったトレイの1つ運ぶ係りに動いてたが逮捕じゃなく保護なので拘束とか、そういうのはされてない

でも席ついて自分のバーガーより先にナゲットに手出ししてる様子が意地汚いと思った

おれが奢ってもらったイツシユ地方の味のカントーアレンジを噛みしめているとブルーゲイルさんが繰り返し返しに「情報提供ありがとら」とまた言う感謝ループされるとこっちも謙虚ループするしかなかくおわりの見えにくい無限ループになってしまう、これ以上はやめてにして大人の仕事を遂行したブルーゲイルさんがすごいということが良いという

ブルーゲイルさんは「ありがとう」とめて納得にこのわだい終わった

次はナインの話なのだがどういう圧倒的問題児なのかはしんぴのベールに隠されたままそのカーテンの幕をわざわざおれから開けに行くことはなかったケド想像力の翼をそらをとぶさせたところ名前無いとか、

かなり強烈な背景でネガしか見えないだろうなのでムリに聞くの

はマナー違反と思ひ、まあ食後にタイマンしたらさよならバイバイの関係か、絶対に勝ち逃げさせねー俺が勝っておわらせるつもりでいたがそのへんの事情は予想と違った。

「ま、この子には色々事情があるのだが……カントー地方における10歳という年齢は自分の生き方を決める節目となる年齢。しばらくのあいだは私が保護観察することになるが、とくに問題はないと判断すれば、自由にさせてあげるつもりさ。

アイアン君も機会があれば、この子を気にかけてもらえると助かる」

というコイツ10歳だったのか……それであの動きさせられるのだから相当にポケモン強者

ブルーゲイルさんは俺に頭下げてくるが大のオトナが見ためまだガキに頭を下げるというのは簡単じゃない「もちろん将来的に食後のポケモンバトルで倒す手はず」というと「ははは。まあ、そういう関係でもいいさ」という返事。

するとナインは「上等じゃねーか」と結構交戦的でけんものまま食事タイムは終わったポケモンバトルのためにゴールデンブリッチわたった先の24番だか25番だか道路でタイマンすることとなった。

そう、おれはこの瞬間までは間違いなく正堂堂タイマンするつもりだった。

しかし次の瞬間にはとうとうしんが失われてしまった

「いけー ナイトー!」「いけD G 5 5 8 5」俺らはほぼ同時にポケモン繰り出したが聞こえた尋常じゃない言葉におれは「は? ちよつと待てよ」と即座に口に出ていた・・・

「……ニドランじゃねーな、まあ、関係ねえがな!」

「おい、やめろ馬鹿。この試合もう終了いまなんて言った?」

「あアン?」

「この試合は早くも終了ですねと言ってるのが聞こえませんか?」

いま『でいーじーごーはちごー』といったか?

そのふざけたニツクネームに寒気すらする始末」

「意味がわからねえ。なに言ってるんだお前？」

俺がこうしていつしゅんでバトルできない心になったのに
よくのうのうと戦おうとできるもんだな。おめでたいな。

初対戦時に今の言葉聞こえたかというところ聞こえてないが今回は聞こえたし確かに言った。

証拠のログは確保したからな言い逃れはできない。

お前は「恥」というものを全く知らないで生きているのか。

「俺はいま激しい怒りにおそわれてるぞ……」

そんなふうにな前されたら誰だつて激怒する

少なくとも今から対戦相手の俺がここまで思うんだから

本人の悲しみは計り知れないでしょう」

「……なんでお前泣いてんの？」

「泣いてねーつよ適当こくのやめろ」

そうやって嘘の情報流して人を陥れるのは犯罪だぞー！

おまえにおれの悲しみのなにかわかるってんだ？

顔とか結構ひややせかいてて拭いてもビショヌレ「それよりなんだそのニックネームは？ニックネームなのにニックネームじゃない別のなにかだと思った」と指摘すると「……呼びかた一つでなんでそんなキレてんのか知らねーが……こいつの型番に文句があるならムシヨにぶちこまれたクソどもに言ってくれ」ときた

かたばんというのはどこの方言か意味がわからない（理解拒否）

想像を絶する悲しみが俺を襲った。

普通に血の通った人間なら、大事に育てるポケモンのニックネームに愛情なのは当然だと思っただが特にナインの場合は、そこらの一般トレーナーの雑魚いヤツじゃなくてタイマンでおれに勝つほどのヤツ

おまえら残酷すぎる

おれは初手こうさんを宣言すると青い炎のしっぽポケモンリザーブに歩み寄ったら当然のように狂ったような鳴き声で威嚇してくる

が構わずナイトを抱き上げると、しゃがんで目線の高さ合わせてやり、さらに向きあわせてやると、抱える手の位置ずらしてしよくしゅのねっこにある胴体こしよぐるするとナイトは鳴き声あげて笑った。リザードはわけもわからず戸惑ってるのがアワレだった

「……………？　なに、やってんだ？」

「お前の勝ちでもういいよ」

バトルとかそれ以前の問題お前もそいつと戯れるべき」

「はあ？」

「お前もやれと言っているマンキー！」

タイムンよりも大切なことがあるこつちこい」

ナインは完全に意味不明状態になってるみたいだったがそれはこつちの状態異常だと言いたいぐらい！

するとへつぴり腰で近づいてきたので「触られたらいやがるところ知ってるのかよ？」と聞くとたぶん全身だという「じゃ寄り添ってるだけでもいい」といい俺とナイトが戯れるさまを見せつけてやった。

「わけわかんねえ。ポケモンバトルするんじゃねーのかよ」

「俺はおまえのことなんか良く知らないし興味もない。」

年下相手にタイムンで負けたのが悔しかった事実もないしな（リアル話）

だがかたばんという響きは圧倒的に負の属性だからお前にはそいつを青い炎よりあたたかな人肌で抱きしめてやる必要がある不可欠」

果たして言葉が不自由そうないつにおれが言いたいことが伝わったかどうか……ナインは沈黙状態だったがそのうちリザードに頭に手エ伸ばしたところビクつとステップして逃げられてた

逃げ方がナツメのエアフィミみたいに懐いてるけど急に触られるのはちよつと、というリアクションじゃない触られるのが怖くておくびようなんだなという動きに見える

「上からはダメということは目線の高さは合わせたほうが良い。

二本足で立ってるし、そいつ手始めに触るなら手とかウデとかにしない危険」

おれはいったんナイト降ろしてしよくしゅムニムニユ弄るアツ

めらるる

「ピツピの満月ダンスというのが見たいと思った」

「今月の満月は過ぎたからまた来月だね」

「おいイ？」

勘違いだったのか時既に時間切れらしかった

もしかしたら今日はダメの日なのかもな……稀にだがたまたまそういう日も偶然発生することがあるらしい

しゃくぜんとしなのまま、やまおとこととタイマンやって速攻で勝って終わらせてハナダ・シテイのポケセンにとぼとぼだった

「それでは、双方合意と見てよろしいですね？」

あ！ 食堂で完全オリジナルロボットのポケモンアニメ・ジョイメカロットの再放送やつてる！ わあい！

◆◆ここからナイン側の視点◆◆

(予告) ここから下はナインというなぞの少年の裏話なので

アイアン・ブロンテというオリキャラの視点ではないが

神の視点の描写でもブロント語なのはもはや決定している(以下省略)

ちなみにナインが魔改造Nとか、そういうBW系のオチはない(宣告)

◆◆いまからナイン側の視点◆◆

「なあ、オマワリさんよお……なんなんだアイツあ」

リザードと横並びにおいて繋いだまま取り残されたナインは「ニツクネーム一つで何時間もぶち切れやがって。しかもキレてんのにポケモンと遊んでやがったぞ」というと、ここまで二人のやりとりを一步引いた位置で見守っていたアンドリユーは「なんだかんだと言うこととはない。彼は本当に、心からポケモンが好きだという、ただそれだけのことなんだろう」と返事した。

ナインはリザートと手繋いだまま、離そうとせず動かない。
いまはこれが精一杯らしい。

「上から目線でアレコレ言いやがって……だが、まあ、こういうのも、悪くないがな」

「そうだね。私の立場からきみに言っても伝わらない言葉だった」

「あいつのポケモン、アンタとミカントンより仲良いのかもな」

「え？ いやそれはないよ？」

彼と彼のポケモンの絆は素晴らしいものだったが

私とMikanさんは相思相愛の間柄だからね？

ねー、Mikanさんwww

アンドリユーはおもむろにカイリユー繰り出して抱きついた。登場してからここまで一貫して築きあげてきた紳士のジェントルメンの態度がメロメロにとけていたが、腕に抱きつかれたMikanさんはというとあいてるほうの手でほったポリポリだった。

ちなみにここでいうMikanさんというのはジョート地方のジムリーダーとは一切関係なく、それにあやかっつけたニックネームでもないとあらかじめ言っとく（疑惑回避）

ナインは色々狙いがあったてイワヤマトンネル付近のポケモンセンターから無人発電所ふきの険しい山道をウロウロしていたところ、追跡調査を着実に進めてきたアンドリユーに追いつかれていた。

その後ナインの保護とともにその手持ちである『青い炎のリザード』を回収しようとしたところバトル勃発、アイアン視点ではポケモン強者と見られているナインと言えども、圧倒的なレベル差あるカイリユーのMikanさんパワーには敵わず、あえなく御用となった。そのバトルの最中に『この子とこのポケモンを引き離してしまえばどちらも暴走するだろう』と悟ったアンドリユーは、自身の懸念を上司に報告したところ、紆余曲折の末に被害者にして脱走者、重要参考人でもあるという立場も加味し、あわせわざで保護観察処分することとなった。

その後もよりの都市であるハナダシティで過ごしていたところ、主人公アイアンと出会ったというのがここまでの経緯。

「しかしシャバじや型番があることにキレるやつがいるんだな。『欠番』じゃねーだけ上等なんだが」

「あまり軽率にその話題を出さないほうが良い」

「分かっている。アンタ以外だれも聞いちやいねーよ」

「でも、きみは常識知らずなところがあるから」

「常識くらい知ってらア。なんなら今からタمامシ大学に飛び級で編入してきてやろうか」

「そういう意味じゃないよ」

「それも分かっている。だが、その、なんだ。あのバカのバカみたいなバカに免じて一つ教えてやる」

「なんだい？」

『DG1415』『DG6251』『DG7823』。ソイツらはDG5585と同じで『成功例』だ。保護してやってほしい……ほかの『なりそこない』はあの施設の隔離ボックスからひき出さねーほうが良いと忠告するぜ」

「……………」

アンドリユーは無言でライブキャスター起動。上司と現地で活動している同僚に繋いでいまのナインの言葉を伝えた。心の中で「アイアンくんにはまた感謝することが増えてしまったなあ」と思ったが心の中なので聞く相手はいなかった

「情報提供、感謝する」

「……ふん。勘違いするなよ？ おれはただ、もしかしたらアイツら

も寂しいかもしんねーなあ、って、キマグレで思っちゃっただけだ」

「ふっ。わかっているさ。」

さあ、僕らもハナダホテルに戻ろうか。夜風に浴び続ければ体が冷える」

「いや……もうすこし……もうすこしだけ、このままで」

ナインはリザードの手えきゅつと握ってそういった。

礼儀正しい大人の対応でアンドリユーは「もうすこしただだよ」と言って自分もカイリユーをぎゅつとします。

(ポリゴンという大々的な成功例から始まって……ミユウツ―計画に人口ミュウ計画、ポケモンクローン計画、融合ポケモン計画、ゲノセクト計画、タイプ：フル計画にDG計画か……)

まったく、近年の社会の闇に属する科学者・研究者はポケモンを作りたがりすぎる)

国際警察が大変危険な研究を繰り返す非合法施設を摘発し続ける中、きわめて断片的に、おぼろげながら浮かび上がるポケモン業界の闇から闇に伝わる情報にウンザリするアンドリユー。

既に過去のものとなっている計画から現在進行形で進んでいるかもしれない計画まで……情報の精査すらできていない段階であったが、露骨に天下泰平の世を乱さんとするいやらしい者たちは我々が許さんと、決意を新たにするのだった。

19. どちかというクチバ・シテイが良いという意見（リーダーシップ）

ら
ヤな感じの気持ちって、軽い症状だったならけつきよく寝て起きた

たいしてひきづらず回復するというのに今回そうでもない

ひづけまたいで昨日あったことレポートにまとめてたんだが

こうして書いているだけでも本当に気分が悪い。

しかし俺をこうさせたのは他の何者でもないナインだ。

このままでは俺の寿命がストレスでマツハなんだが・

型番という言葉のせいかくの意味をちゃんと公共のパソコンで調べてみたところ

『製品の型』とにつける記号・番号』とでた

ポケモンは数字だと断言するヤツは俺の人生で完全にシャツタアウトされているように記号とか番号扱いたしたナインも、もし全く反省してないなら血も涙もなくなんとも思っていないと言う事だからシャツタアウト対象になる

まあ昨日の様子の見立てによると改心してすぐわれるチャンスもあると思つた

だが結局きのうブルーゲイルさんもナインもポケセン内で見かけなかった今日もだが

すでにどこかヨソに行つてしまったのかも知らない。

別に会う約束はしてないが反省してるのか確認したかったのにできないうのかもな……

あまりこうして他人中心の考えになると固まって動けなくなる

おれにはおれの冒険のたびがあるからまずは自分の道を考えないで構うと危険（リアル主義）

おれはグレー・ブルー・ゴールドのバッチを入手したカントーポケ

モンリーグ公認ジムバッチ3こ所持者なんだが残り集めるのは5つ
つということになる

ポケモンリーグ公認ジムどこにあるかというところ、カントーの都市に
あるんだからまずはおれの地元の最強のトキワ・シティのグリーン
バッチ、

ヤマブキ南にあるクチバ・シティのオレンジバッチ、

ヤマブキ西にあるタمامシ・シティのグリーンバッチ……おいイ？

グリーンバッチが二つになってるんだが……じゃたぶんだがタマ
ムシのはタمامシイロバッチかもな

で忍者で有名なセキチク・シティのピンクバッチ

見事な記憶力だと関心はするがどこかおかしい

あといつこのカラー的にはレッドバッチが入る都市はどこだ？

はてなレッドバッチだったかも怪しくなってきた

まあ赤いバッチなのは間違いないと思うバッジの色くらいは学校で
習ったつもりだし、

もし化して、正しくはスカーレットバッチかもだが

そのバッチのジムは都市じゃない場所にある可能性がある。

カントー地方の都会じゃない町レベルの有名どころといえばトキ
ワ南にある、カントー史のすべてはここから始まったと噂に名高い始
まりの地のマッサラタウン。

他地方からのカントー開拓民が第一ベースキャンプといえはマサ
ラという逸話はブロンテ家に残された歴代ログにのってるたまに先
祖返りのスーパーマンも稀にだが誕生してるらしい

ノーマークだったのが実はこのマッサラタウンにジムある可能性高い
もしそうならバッチカラーがホワイトバッチになってそうだが、赤
いバッチというのは俺の覚え間違いなのかも（不安）

そのマッサラタウンの更に南におよぐと去年まであったがグレンと
うの噴火で失われてしまったグレンタウンというところがあったの
だが、ない町にジム出せと言っても出せるわけがないという理由でこ
こにジムがある可能性は始めから0%だろうな

あとはぼけもんタワーで有名なシオンタウン。

このまちはイワヤマ方面で都会に疲れたのんびりの人が多いとい
う

戦いのバトルのジムがあるとは一般的にかんがえられないでしよ
う？

とこうして候補地ならべるとやはりというかマサラタウンにジム
が隠されている確率が圧倒的に高いと見るほうが自然の意見

旅立つ前にちゃんと想像して計画してればじゅんばんからしてマ
サラジム攻略にマサラタウン行っただろうが

ジムⅡ都会と思ってた以上すぎさった時間は取り戻すことはでき
ないみたいだった

じゃ4つ目のバッチ狙いはどこにするかという

今いるハナダから近いのがクチバかタمامシだが

どちらかというとクチバ・シテイが良いという意見

だってポケモンだいきくらぶの本部があるし、知り合いも何人も
いて更にだが

クチバ北の6番どうろとクチバ東の11番どうろでポケモン自慢
が棲み分けに集まる名所なので良い腕比べになる手はず

その上デイグダのあなつていう、クチバ東に危険なダンジョンがあ
るんだがデイグダのじめん攻撃をサツと回避するとつくくんが今のお
れのぱーちーにとても有効である可能性もある。

今後の予定は決まったあとの問題は自転車スキルだが運転あるの
みなので

おれは早速フラフラダンスの自転車でハナダ・シテイを飛び出すの
だった

ハナダ・ヤマブキ間のゲート横にひっそりとたたずむ小部屋

ここに都会回避のハナダとクチバを繋ぐちかつうろ入り口がある
んだが

都会のドまんなかで動きがフラフラ自転車は危ないだろう

せつかくだから俺はこっちの道を守るべ

このつうろ構造欠陥でシオンとタمامシを繋ぐちかつうろと合体
して十字路じゃない

カントー地下通路構想がデイグダもんだいで頓挫が原因らしいが
その情報だけでもデイグダ族の地底の支配者っぷりは分かっても
らえると思う

おれは建物には入り階段おりてから折り畳む式自転車で走行、
ここあんまり人通りないからかもだが

切れかけた電灯パチパチで放置ゴミだしでロクでもないトコだな、
と思いつつ走っていたところ

やけに赤いワンピース少女がたたずんでいた

「おいイ？　こんなところでどうかしましたか？」

俺が自転車とめて問いかけると背中向けたままうつむいてたので
気分が悪いのかと思いい「大丈夫か？」と肩に手を伸ばしたすると少女
は「アナタジャナイ……」と言つて壁の中に消え去ってしまった……
……これは興味本位なんだが……ああいうのに狙われるヤツつて
どうなるんだろうな？

もちろん俺はビビってないしそもそも午前中のホラーとか怖くも
ないが、ああいうの募集してる人の前にだけ現れてほしい俺はそばや
く自転車のるとそのまま走り去った。

で地上あがったところにいた、いっづく休憩してたっぽい人にちか
つうろのこと聞いたところ

「赤いワンピースの女の子の幽霊？」

いや知らないな。そんなウワサ聞いたこともない」

と言われたじゃあ俺がみたアレはなんだったんですかねえ……？

するとその人は「どれ、ちよつと覗いてみるか」と地下通路の階段
を降りて行った

気になるからちよつと僅かにリアメスだして戯れていたところ
「う、うわあああああああ！」という悲鳴とともに戻ってきた「まさか
アレがあんなふうになるなんて!!　どうして教えてくれなかったん
だ!？」というリアメスはきよんとした

「どうした何があった？」

「だからあの子のアレが！」

「アレというのは意味がわからない」

「くそー！ わからん やつだな！

もういい！ きみには おしえて あーげない！」

とへそまげられてしまい何回か聞いてもなに起こったのかおんなじこと言われるおれはこのホラーミステリーの真実から遠ざけられてしまった。

畜生おまえは馬鹿だ。

俺はリアメスをボールに戻すと「じゃあ俺だってお前なんか知らない！」と地下通路小屋から出てってやった（軽率）

で6番道路なんだが結構なトレーナーがやせいのポケモン相手したりお互い対戦してたり対戦相手待ちなので空いてるのとバトルしながらクチバ・シテイ目指すこととなった。

こっちは低レベル体向けのエリアだからだろうな。ほとんど進化前っぽそうなポケモン使いが多く、リアオスやリアメスを繰り出すと圧倒してしまいお互いあまり経験にならないのでナイトで戦ってやった。

バトルの経験というのは一方的すぎるとあっさりなので身につけにくい

ところが同じくらいで互角とか、ちよつと強いかもの相手だとうやうや勝とうとか負けたくないとかで考えたり実践が経験になる。

弱いものイジメする気はなかったんだが結果的にそうなった形に近いことが申し訳なく賞金だが「良い経験になった」「そういう感じのやりかたがあったか」とおれが彼らに経験を与えられたようなのでひとまず安心した。

すると草むらで網ふつてたヤツが良くみたら知り合いのバタフリー使いで「お、アイアン。おひさー」ときた「おいノブ。リベンジしにきてやったぞ」と宣言おれは去年クチバに来た時、こいつのバタフリーに痛い目にあわされているのだ。

こいつポケモンだいきクラブにはレアな虫好きの青年ノブユキっていうヤツで

進化後のむしポケの良さを語り口は熱いねっけつタイプ

おれの誘いにノブは「受けて立つぜー」というのでさっそくバトル

「行け！ バタフリヤー！」「行け！ リアメス！」おれたちは同時にボールを繰り出す相手のせいべつ知ってるのでとうそうしんあふるるリアメスがバタフリー倒したいみたいに鳴いてた

「おっ！ ニドリーナに進化してるじゃん！ やったなアイアン！」
「見てわかる以上に前回よりかなり強くなってるので本気だしいぞ」

「オツケイ！」

バタフリーはひらひらしているのでそれだけでも攻撃が当たりにくい上にノブのバタフリーはねむりごなで昏睡させにくるので強い。まえばそっからついげきのサイケ光線でダメージは更に加速するハメになってしまったが同じオチにはやられないぞ？

しばらくにらみ合わせてたがノブが動いた「バタフリヤー！ ねむりごな！」というとはねパタパタツつとばしくる粉系のやつ

おれは「でんげきハア！」と迎撃させると相殺するんだが予想してたみたいで今度はねむりごなとは違うのを飛ばしてきた攻撃のペース早い「リアメス！ ガードしろ！」と防がせるとうまくいったみたいだった。

先手もつてかれるのは分かっていたこと逆転はパタパタするのに疲れてから「リアメス！ でんげきハア！」だがこっちも待ってる以外できないじゃないイキナリ攻撃させるとバタフリーは避けきれず結構ダメージ与えている様子

一気にいききたいが誘いに乗って調子にのる馬鹿には確実なねむりごなが待っていた。

こつそり撒いていたねむりごな攻撃をサツとよけさせ、それからつかず離れずにパタパタとぶバタフリー追いかけるリアメスは、いつでも爪の射程内で休もうとしたらいつでも倒せるぞとプレッシャー与えていく

たまにくる粉塵回避を優先に攻撃タイミングを計っていると「戻れバタフリヤー！ いけ！ デンチュル！」とノブはおれが見たことのないポケモンと交代させてきた、

きいろカラーでどこかアリアドスっぽく似てるが別物

「新手的虫ポケモンかよー！」そのとおり！ デンチュル！ いとをはいてやれ！」デンチュルとよばれたぽけもんは糸を吐いてリアメス拘束しようとするので

ステップで回避させると巣でも作るみたいに糸の結界構築しだした「リアメス！ みだれひつかき！」と妨害に攻撃させると前ジャンプく空中連続ひつかきが決まった。

「しまったー！ エレキネットが間にあわねえ！」飛びが通ったのもう避けようもない近距離戦、お互い前足でひつかきあう乱戦なのがデンチュルは斬れば斬るほどいりよくがあがるともいわれるれんぞくぎりを使っていた。

おれはリアメスに「どくづきー！」と大技使わせてトドメ。

「んー、思ったより噛み合わなかったな。うし、反省。お疲れデンチュル！」ノブは新戦力引つ込めて再びバタフリーが繰り出した

リアメスはさっきのひつかきあい制するのに疲れてしまい、ねむるこなの粉タイプ攻撃に逃げ切れず眠らされてしまったところをサイケ光線で倒された。

「よく頑張ったリアメス！ 行け！ リアオス！」

俺はリアメス引つ込めてリアオスだとバタフリーははねやすめに休憩中だったのですかさずダツシユ角攻撃させたが、リアオスにイマイチやる気がないので一撃で倒すことはできなかった。

だが再び舞い上がった直後にれいとうビームをうちこんだところ強力な追加効果が成功し、バタフリーがカチカチにひえきって動けなくおちてきたところを何回か角でつくとバタフリーは倒された

「うおお、凍るかー……よし、お疲れ様だバタフリーヤー！ 行け！ ランサー！」

ノブは強力に尖った針をもつランスス三刀流の強者スピアーを繰り出しこうそくいどうしながら繰り出されるヒット&アウエーにリアオスは角一本で対抗しなければならぬのだが

スピアーの突き属性攻撃に抗体なのかリアオスはたくさん突かれてもよく耐えていた。

おかえしのれいとうビーム攻撃はノブのてきかくな指示で結構か

わされていたがリアオスが力尽きる前に三回当てられてスピアーは倒された。

「おー。アイアンめっちゃ強くなってんじゃん。おれの負けー」

どうやら更なる新手はいま手持ちに持ってないみたいでノブは俺を褒めてしようきんを渡してくれた

こちも「れいとうビームが先発エースのバタフリヤーを凍らせなければ負けていた」と時の運の勝ちだったと返し、積もる話はポケセンでしようと会話しながらクチバ・シテイに入ることとなった。

20. 汚いな……これがポケモンジムでやることかよ……

ノブことノブユキのむかしじまん話によくいうものはというと
伝説の元祖レッドキャップ相手にそのころゆいいつの手持ちだった

バタフリーのふくがんねむりごな&こんらん付与のねんりきパワー全開に

ハメ負かしたこともあるらしいという内容だがたぶん誇張表現

ケド元祖の自家レッドキャップの彼は成長速度がこちらのトレーナーとは隔絶したかそく状態らしく、つぎの対戦時にはかんぺきに対応されたというこの手の話するヤツ少ない上にウソついてまでレッド系ニセ武勇伝語りたがってるほらふきやろうまでもが世の中にはいつてい数いるのだが、おれはノブの話しかたは真剣なのでおれは嘘じゃないと思うな

そんなノブとポケセンでヒールマツシンにてもち回復させてるあいだに飯食ってだべだべと駄弁に会話してたが

今はノブはふなのり見習いなのでもう行かなくちやらしい「バッジ集め頑張れよー」と応援のエールくれて港に向かって行った

おしごとの休憩にポケモンするくらいなんだからアイツもたいがいポケモン大好きなんだなとあらたまて悟ったよ（賢者）

おれもメシ食い終わったあと預けてたポケモン回収したあと
予定どおりポケモンだいすきクラブの本部行くと

ニヤース派閥とピカチュウ派閥が自慢バトル中のひととか
その他何人かいて会長はというと誰かとしやべってた

おれ平日にここ来るの初めてなんだが普段はこんななのかと感心が鬼なったクチバ来るのってポケモンだいすきクラブのイベントあるときくらいだからなー。自慢バトル待ちのピツピ派閥の知り合いが「あらブロンテさんとこの長男くんじゃない。いらっしやい」と挨拶

撈きたので返したが自慢バトルは先に会長に挨拶したので辞退

さて会長にこんにちわと思っただら机のかけからイワンコが飛び出してきた「わんわんこ！わんわんこ！」思わず声かけるとイワンコ鳴くながら体当たりしてきた

俺は元気いっぱいにくるそいつをキャッチしたが勢い押し倒されてしまうだがイシツブテの半分ていどの重さなので先祖返りマサラ人タイプでなくともたいしたことない

イワンコのしたでなめる愛情表現が顔に来るのでお返しにナデやったらこのさわりごこちはズツ友イワンコだべな、おやがだれだかしく分かった尻尾ふりふりブンブン丸で気持ち良さそうにしてたお前の弱点はもう知ってるぞ

「おまえククイのイワンコだろ？」

というとわんわん鳴いたそしたらイワンコ後ろから持ち上げられてしまうんだが「こらー！ ぼく以外の人にたいあたりしちゃいけないぜ！」としかる声にあてずっぽうでアローラ言ってやったらびっくりしたみたいだった。

「やあ、アローラ！」

っと、よく見たらきみはアイアンくんじゃないか！

大丈夫かい？ 久しぶりだね！」

やはりというかそのひとミナミのシマのアローラ地方のわざ博士のククイさんっていう地元に新しくポケモンリーグつくろうと頑張ってる人だった

俺はこの人からいろんなポケモンのわざ情報教えてもらった実績があるだよ（リアル話）

イーブイマニアの人も自分にポケモンのわざ使わせるといふのをこの人から啓蒙らしいわざを体感する実践派の尊敬できるスゴイ人だ

手エ借りて助け起こされた俺は「いまのイワンコ悪くない友だちだから」といったら笑顔が印象的だったな・ククイさんのイワンコとはねーちゃんにニドラン捕まえてもらう前からのフレなのだよ

「アイアンくん、ここまで一人でできたのかい？」

「そうだぞ。おれいまバッチ集めてる冒険ちゅうの旅人」

と言うおれの言葉に「すつかり一人前の男の子だね！」ときたニドランたちのことも聞かれたので、進化に成長した2ひきくりだすとイワンコとじゃれあいだす様子が良い。

「バッジ集めの試練の調子はどうだい？」

「もちろん順調そのものに決まってる。

そういうククイはスポンサー集め試練どうですかよ？

タライまわしに足踏みばかりとおれは聞いた」

またぎき話で知ってるさいごの情報だとアローラ地方にリーグ級の実力が疑問なので、とオアズケ状態だったその後どうなったか気にならないわけがない

ククイさんは前からスポンサーというのを集めるためカントーに訪問者でポケモンだいきクラブにもイベの時とかときどきいた

ここバトル中心の集まりじゃないから全面的バックアツポはないもものポケモンラブの熱意の波動に共鳴した一部メンバーからカントーの有名人紹介とか、てだすけ活動してもらってるらしい大組織だからな

かくゆう俺のオヤジも支援者の1り

「いやー、正直言っておいかわらずキビシイね！

でも！ きしかいせいの一手をくりだせそうな状況になってきたんだよ！」

「ほうっ？」

おれが詳しく聞きたがるとヒミツといわれたがここだけの話、

バッチ集めじゃないエキビツションでジムリーダーとか、それに現役のプロリーグに四天王さらにカントーチャンプのワタルとも戦ってアローラがポケモンリーグ保持に圧倒的に相応しい実力行使の機会がもらえるかもしれない情報もたらされた

今回そのチャンスなのでだすけになった会長にお礼に来たらしい流星は我々の会長といったところかな

テレビ番組で特番組まれるのかも

放送されるなら絶対見ようと思った

どうやらククイさんは忙しいらしい次の予定があるというので本部から出てったイワンコは名残惜しそうにボールに戻された

その後おれは会長にこんにはに行つてリアメス、リアオス見せびらかしこんなにかわいくかっこよくなつたと散々教えてやったら会長は相変わらずギャロップ推しでくる

さらに他のクラブ会員の乱入でポケモン自慢バトルロワイヤルになり、そうこうしてるうちにいつの間にも夜なつた。

やはり会長のギャロップ語りが強すぎるな

この俺をして思わずトキメいてしまうほどの破壊力バツ牛ンのアツピール技のかずかずに勿論みんなじぶんのポケモンが一番だけど二番目に会長のギャロップがスゴいとえらぶので総合優勝は会長なのだった

よいこは寝る時間なのでポケセン宿にしゆくはくに戻つてつぎの日。

昨日の調子ではおれが本部に入りびたるとあつという間に一日なので自転車のちやりんこトレーニングに11番道路をフラフラダッシュ

たまにくるポケモンバトルもこだわりのラッタ3匹使いとか、おれほどではないがニドリーノの使い手とかその他いろいろとやりあつたが一方的にやられることはまずなく、善戦に勝つたり回復してないから負けたりと良い訓練になった昼すぎにジム行った。

「おつすー 未来のチャンピオンー！」

ちよつと僅かによそとテンション違う実況属性のおつさん情報、こは雷属性のジムらしいレクレーションなのかバリア解除のナゾ解きしないとリーダーと戦えないだつてよ

「ところでイナズマアメリカンのアメリカかってなに？」

「……おつと、それは俺の口からは言えないかなー」

思わせぶりだつたが言いたくないなら別にいいです（余裕）

でナゾときとか言つてたが回答は速攻で特定されていた答えは俺よりさき来てたやつがゴミ箱中ぽちつとしてバリア解除してたし

ゴミ箱探索ジャマするジムトレーナーとバトルはリアオス、リアメ

ス中心メンバーで戦うんだが、ムキズとはいかないワケだが勝てるレベルだった

しかしでんきのタイプ中心ではナイトの出番がムツカシイ

で後はトラップ解除なのだが、ここでこのジムの不具合が発覚。

「畜生。どうなってるんだ開かねー。」

おいイ？ アタリが出ない不具合があるんだがどういことですか？」

「へやが あかないのか？」

マチス しようさの ようじん ぶかさは

ぐんたいでも ゆうめい だったぜ！」

おれは第一スイッチ押した後の第二スイッチでハズレという連敗を繰り返していた

その日おれ以外に三人くらい挑戦者いたんだがそいつら簡単に開けてしまうというのに俺はというと何十連敗したか数えてない

でんきやのオヤジっぽい人がかわいそうな目を向けてきたのがミジメだった

「ちくしょー……こんなの絶対おかしい

さては俺の強さに恐れをなして不正行為しているな？

ボタン押そうとしたときにひみつのボタンとかでアタリ操作してるんだろ」

とでんきやのオヤジっぽい人にいちやもんつけたが

手伝いにメンテしたこともあるらしいそのひとの情報によると

完全ランダムという俺が引きが悪いとでも言いたいのかよ？

よんぶんのいちのとき偶然にも外れるのはまあいい(あまり良くない)

確率2分の1でミス連発するのは納得できない(つまり不正)

するとジムトレーナーの一人が「ハードラックとダンスしちまつてる少年！逆に考えるんだ！はずれちやつてもいいさと考えるんだ！」と漫画の名台詞で応援してくれたが今の状況ではほとんど意味がない(空虚)

そのままジム閉まるまで粘ってやったが最後まで開かなかつた

汚いな……これがポケモンジムでやることかよ……ゴミ箱カラにしとけよ……がさごそしてもゴミばかりだろうが

「ちくしょう

わけわかんねえよ

俺が間違った事してるのかよ

ヒキョウわざも大概にしろ！

覚えてろよ、ばーか！」

すてぜりふにジムから出てくるとちゅう応援してくれた一人が追いかけてきてこう言われた。

「あの仕掛けは単純な運試し……トレーナーの運を試すものだ。

ポケモンバトルは、そりゃ基本はポケモンとトレーナーのチームワーク、ポケモン自体のパワーやテクニクで戦うだけどき、時には運が戦況を左右する局面もある。

……俺も一時期はプロの世界にいたが、怖いのはとにかく運があるやつなんだ。

そういうやつはどんな大きな実力差だつてひっくり返す可能性があるあるからな。

ま、今日のきみはたまたま運が悪かつただけさ。

こういう日もあるってこと。くじけずにまた挑戦しに来てくれよ」
………畜生。

どう見ても俺の負けだな……

あれはインチキでは無いという証拠にポケモンに必要な要素を論理的に説明されていた

俺も言い返そうと必死に回転させたが言い返す言葉が出なかった

これが完敗ってヤツだろうなそんな言われたらいちやもんつけて俺が馬鹿みたいなる

やつとでてきた言葉が「もちろん明日には攻略する手はず」と負け惜しみでよわよわしい言葉

ラックなんてレポートにまとめてもどうこうできるワケがない

おれはモヤモヤした気持ちのままポケモンセンターに撤退するし

かな
かつ
た

21. ピツキーン！ 閃き発動（期待）

運わるい扱いされるとなによってもダメな気になる。やってる本人が言うんだからこれは仕方のない真実を受けとめて認めるべきだろ、ダメだネガの意見しか浮かばないのはよくないシャワーでもスツキリできないみたいなのでさっさとベッドイン。

別方向のこととか考えてみるかと

意見の視点を変えるところでもないことに気付く

俺としたことが港まちで海なのに

川タイプというよりかいようタイプっぽい

ナイトのこと海にくり出してなかった事実（痛恨）

反省したからまたひとつ強くなつてしまった

これからどこまで強くなるのか楽しみで仕方がない（極楽）

ベッドの中で反省のつぎのひ、おれはクチバの棧橋に急いだ出ようとしての船とか戻ってくるも無いのでナイトを繰り出すとそれはもうゴキゲンに泳ぎはじめる

しよくしゅで向きコントロールして自由自在の進行方向決めらるる動きで遊んでたところがそのうち水辺ならどこにでもいるコイキングに寄せられたみたいなので絡みつかせてやった。

俺はリアオス・リアメスもくりだして並んで座り、海の雄大さとナイトを眺めているとたまにだが背ビレにとがった部分の多い海のポケモンが海面はねたりしていた。

俺はサカナタイプの博士ではないので彼らの名前を知ることが無かった。

サカナのタイプといえば水中とかどこか関係ないネット空間なら強力なポケモンもいるようだがリアルで育てるのは専門家じゃないと簡単じゃない

陸上だとピチピチはねるくらいしかできない奴多いでしょう？

水中戦系の大会だと良いのだが、どちかというと陸上競技が多いトレーナーのポケモンバトルでは活かしにくいのがあった

水中戦大会といえればカントー地方だとナナシマトーナメントやふ

たごじま杯が勇名だろう

海中フィールドで戦う大会でトリプルバトル並みのマイナー競技だケド

公認大会だからRBP・リーグバトルポイントももらえるらしいしな。

おれは海の専門家ではないが競技人口拡大のためいちぢき四天王にもランクインしてたカンナっていう有名トレーナーがポスターになって勧誘活動始めてから人気が上がったらしい

コイキングやつつけた後もサカナタイプにからまれてたりもあつたが勝ったナイトはすっかり海の満喫したっぽいのでおれは出してたポケモンたちボールに戻すと昨日の不幸にもめげずクチバジムに再挑戦することとなった

ジムは午前中だからと行ってきのうと何が変わった様子も無いゴミ箱ジム

攻略にゴミ箱がさごそとあちこち漁るとそのうち第一スイッチを発見

コレぽちつとなするとボタン押したゴミ箱の十字の位置に第二のボタンがpop

ふたつめも当たりだとリーダーのへやにロック解除という仕掛け。

おさらいに確認したがこの方法にまちがいはないでしょうおれは誤解してない

それなのにまた今日もハズレばかり「正解が外れた事によって運がキャリーオーバーに溜まっているから次の正解は当る確立が大幅に上がっているはずなのに当たらないのはおかしい」俺は理論的にイカサマを指摘したがやはり運が悪いだけという返事しかないヒト睨みするといったたまれないのかおれから視線をはずした

このジムはもうだめかな中心人物でヌードメーカーが不在では持つわけもないが

ジムリーダーは開業中は奥でひきこもりらしいマジでかなぐり捨てンぞ？

目に見えない運命ポケモンがおれにまだジム攻略するなど囁いて

いるとでも言いたいのかよ

そんな超常現象されとも困る運命ポケモンはゴースト&エスパータイプかも知れないな……

考え事しながらボタン探してるとピツキーン！ 閃き発動（期待）

「昼前だからはらへったから帰るけど」

おれは不敗に負けてないと言うことは証明（了承要求）

あくまで空腹（三大欲求）

運命は切り開くものという名台詞を知らないのかよ？

俺は力カツつと自転車ダツシユすると六番道路超えてヤマブキ・シティにゲート入場

いきおいそのまま超能力かいはつセンターに向かうと扉の横に立ちふさがってるサイキツカー気にせず自転車降りて中入ろうとする
と「まだ準備中だよ！」と止めらるる「ナツメに用があるだよ」というと「おや君は……また呼ばれたのかな？ ならいいよ、入って入って」と招かれた。

あの様子じゃまだ正式オープンしてなさそうな感じかもな

中に入ると三階にいるだろうナツメにじか談判しにいったところ、かいだんのぼったトコにいた黄色カラーのひげポケモンとナツメがサイキツク・インファイト中だったパントマイムに見えない壁が見えそうになってる「大人しくなさい。すぐすむから」という声にふしゆるしゆるの鳴き声で気が逸れたのかナツメがこっち向くとひげポケモンはテレポートで逃げだしていた

「あらこんにちわ。ちょうどいいところに」ときたのでこんにちわ返し「おまえ俺を超能力開発しろ」と頼んだところ「その前にちよつと教えて頂戴」ときた

「私のフリーデインが『今更からだを撫でるような仲でもあるまい』って撫でせてくれないの。」

どうしたらいいと思う？」

「フリーデインというぽけもんつかいのクラブ会員いないから知りません」

「あらそう。残念ね」

するとさつきひげポケモンが通路の影からこっち見てるのを発見。

ふしゆるふしゆる鳴きながらおれ見てるが隣のナツメになんかしたら酷いぞというガーディアンズの眼差しにみえる

「あいつがフリーデイン？」

「そうよ。ふじろーくん、こっち来なさい」

ナツメが手招きするとのしのし歩み寄ってくる〽ひげポケモン

そしたらスプーン握るトコ向けられたサイコパワーでオートに持たされたうえに追加でスプーン曲がつて手が上下なのでこれがフリーデイン流の握手なのかもな

「別にフツーに良く懐いてるようだが？」

「だから不思議なのよねえ」

じゃどんな風に撫でようとしてるか見せてもらうことにしたらナツメいきなりフリーデイン抱きついて濃厚なボディタッチ始めたビクツとしたフリーデインはテレポートで逃げ出した。

「ちよつと撫でただけなのにテレポートで逃げちゃうのよ」

「逃げ方が反撃じゃないから懐いてないポケモンにトレーナーのだいき攻撃という様子じゃないな。見た感じイキナリすぎではないのか？ だんかい踏んでないからエーフィの時みたいに逃げられてしまう」

二足歩行タイプにみえるのでイキナリのボディタッチじゃない握手からで良いというと

ナツメは額にゆびあててテレパシーなのかまた戻ってきたフリーデインはおとなしく手が握られていた

「なんだ、こんなことでよかったのね。」

「ありがとう。頼りになるわー。」

「また何かあったらとぎのために電話番号交換しない？」

「別にいいけどそれよりおれのミラクルアイを開発することを要求」

おれがポケギアの番号教えるとナツメも教えてくれたのでお気に入り登録。

すると立ち話もなんだしとしよう室に招かれたのでそこで詳

しい事情の説明

狙いは正解リーディング的な超能力がほしいここが開発センターと言うからには俺に隠された潜在能力の潜在在外しもできるはず
そしたらナツメは呆れが鬼なつてこう言った。

「……それは単純に、あなたの運が悪いだけなんじゃないの？」
「そんなことない大きな勘違い。むしろ俺は運が良いほうだぞ？」

ビンゴ大会でも9位入賞したこともあるし、最近のだとナイトが封印されていたカイの化石も実力でゲット（リアル話）

俺の過去ログで高ラックを証明したが信用してないのか「ふーん。なら試してみましょう」とナツメは机の引き出しからトランプ取り出すとエース一枚、2を三枚だけ手に持った。

で俺から見えないよう並び替えておれがエース当てるというマインド・シーカー・ゲームをしたところ二十回くらいしたうちの七回正解という結果に「じゃあ、次からトリックを使うわね」といってまた二十回くらいやったが今度はまったく当たらなかった。

「あなたの運が特別悪いってことはないみたいね。」

じゃ、クチバジムのほうも調べてみましょうか」

ナツメはフリーデインをボールに戻すと俺の手握るんだがそしたらなんか意識が空をとぶ……

気付いたらクチバ・シティのポケセン前にワープしていた

これがリアルエスパーのテレポートって奴か……（驚愕）

そのまま手え握られたままジムまで連行に進むことになり入場

「おーす。未来のチャンピオ……ん？」

げえっ！ な、ナツメ・さん!？」

「ちよつとマチスに会いに来たわ。入らせてもらうわね」

ナツメはジムをぐるりと見回すとおもむろに人差し指突き出すとカチツと音あつさり第一ロック解除。

もひとつゴミ箱に人差し指で第二ロック解除していた

エスパーのちからってすげー

俺は手繋がれたままそう思うしかなかった

そのまま奥のエリア行こうとするナツメだがジムトレーナーの1

りが保護者の人がしかけ解除するのは規則的にやめてほしいらしくおれはゴミ箱の片隅で大人しく待つこととなった

別にナツメはおれの保護者じゃないんだがな……このジムの不具合を調べに来てくれた超能力探偵というだけ

ちよつとしてからナツメと多分このジムのリーダーだろうマチスつてゴツイひと出てきたそのひとジムトレーナーの1りに歩み寄り、色々言うとうと自白に犯人らしい

おれが理解不能状態のまま展開は進むマチスはピカチュウの進化系ライチュウを繰り出すのだが、ものすごい電気パワーでゴミ箱ばちばちするとゴミ箱のひとつからロトムが飛び出してきた

こつちに歩み寄ってきたナツメはいった

「最近、かどうかはともかく、あのポケモンと会ったことはあるかしら？」

「あるぞ。ヤマブキで洗濯物のときに出会った」

「そう。なにか酷いことした？」

「してない」

「そのときのことを思い出してみて」

おれは言われるまま過去ログだがもし仮にひどいことしたと言えることがあるとするなら後ろから注意に驚かした結果となったことくらいか「それであなを困らせようとしてたのかもね」という

どういうことかと聞くとあのロトムは放浪のロトムでクチバにきたとき電気屋に捕まったらしいメンテに手伝わせたならそのままジムのロックシステムにとりついて離れなくなったんだと

「それどこ情報？ 一つの間にか知ったのか意味不明」

「テレパシーで読んだのよ」

マチスのライチュウは凄まじい雷属性のパワーでロトム懲らしめてたもちぬしはカントーでは激レアなロトムを虐めないでと嘆いていたがマチスからしつけはちゃんとしろという見事なカウンターで返されていた

その後「おまえはクビだ！」という怒鳴り声にでんきやのオヤジは泣きながらひん死のロトムボールに戻して出て行ったのだった

せこいトレーナーをリーダーは誘うな相手にはだめジムのランクが下がってしまう

まあ今回のことでその問題は回避したジムリーダーのマチスは言った。

「ヘーイ！ アンラッキーボーイ！ うちのジムトレーナーがソーリーネ！

もうマイフェイバリットポケモンがトラブル解決しタカラ問題ナツシン！

でもロック機能はシステムエラーしてしまったネ！

リペアするまでノーロックじゃユーのラックは試せません！

それでもジムはいつでもウエルカム！ ミーはチャレンジャー待ってるヨ！」

と謝ってきた許してやろう俺は優しいからなこちも「H a i！」と返事したけど、おひるごはんまだでハラペコだから対戦はメシ食ってからだな、と思ってる。「じゃあ行きましようか」とナツメがまた手握ってきてクチバの飯屋まで連行された

そこシーフードサラダっていう海の野菜盛りがメインらしくドレッシングと味の融合が美味かったナツメは「ともだちとご飯食べるなんて久しぶりだわー」というおれナツメと友達になってたのか．．．まあ電話番号交換したし友達かもな、声のトーンも仕事モードじゃなくなってた

気になってたので「ポケモン懐いてるけど仲良くないってどういう育て方したの？」という長い話が始まった

「なにげに スプーンを なげたら まがつて いらい……

エスパー しようじよ なの！

なーんて感じでね。それまで私って、本当に普通の小学三年生だったのだけれど、サイコパワーのことがテレビで取り上げられて一躍有名人になっちゃったのよねー。

ユンゲラーとのスプーン曲げ対決とか、ルージュラとのヨガのポーズ対決とか、エーフィとのみらいよち対決とか、当時は色々やったけど、いまの私の手持ちのポケモンたちって、テレビ番組の共演者だっ

たつてこと。

それで10歳のときにバトル初心者エスパー少女VS熟練のベテラン格闘ジムリーダーなんていう企画が立ち上がった、共演者達は私の手持ちつて扱いでレンタルさせてもらって……

あんまりにもボコボコに圧勝しちゃったせいなのか『道場破りに敗れたのならば認めざるを得まい！ 今日からヤマブキのジムリーダーはオヌシだ！』って名指しされたのよ。

それで戦うのは好きじゃないのにホントにジムリーダーになっちゃって、みんなが私のポケモンとしてプレゼントされてから長い付き合いだけど、仲間ではあっても仲良しじゃないっていうのは、それが理由かな」

手持ちが実はテレビ番組の対戦相手ポケモンだったという驚きの事実だった

我が家ではテレビはバラエティはノーでナツシングだから初耳情報

家でチャンネルつてアニメかニュースかリーグ戦か、映画のビデオだからな

それならびや同レベル体の実力者として一定の尊敬はあってもナデナデの仲じやないのも分かる

「なにげにそのときの対戦映像のせいでクールなイメージ根付いちやっただしね」

「確かにエーファイへのナデナデシーン見たら誰もクールとは思わないでしょう」

「でしょ？ 今回の映画でも……あつ、ネタバレ厳禁だから今のなし」

とひみつと約束言われたから受け入れてやったその後明るく楽しく会話しながら食事だがナツメは昼飯代奢ってくれたうえに「新たな力を望まずとも、あなたはもう超能力に目覚めているはず。その力を信じなさい」というアドバイスを残してテレポートしていった。

ナツメのいう超能力はポケモンへの愛情をパワーに変換だったかな・言われるまでもない情報

おれは3匹のボール机に並べて「今日も勝ちに行くぞ」と声かけし

てからセットしなおしサラダ屋さんを出てクチバジムリーダーに挑
戦行くのだった

2.2. イツシユ語で指示出すのはズルイ意味がわからない

前から気になってたことを一つ

クチバジムというところはゴミ箱だらけで戦いにくいわけだが

これに対して、ジムトレーナーは慣れたものだったが

しかしこっちは慣れてないのでヒキョウのかたちになる

たぶん戦ってみて汚かったと感想を言ってる奴はたくさんいるはず

これはだれもが思うようにあくひゆうが大量に出回ってると思っただがそうでもない不思議

果たしてジムリーダー戦の戦場がどうなってるかと思うと気がひゅんひゅんいく

疑いに電気バリアーにふさがれてた廊下の通路の順路の奥のびた道さきに進んでねり歩くと

公式戦でしぐさま使えそうな、でも電気タイプ優遇っぽいバトルコートだった(予想外)

マチスはおくに陣取ってで立ちはだかっていた

「ウエルカム トウ クチバジム！」

さつそく チャレンジに きましたね ボーイ！」

というマチスの肩になんでだか乗ってるピカチュウの姿は

それほど似合っているとは全く思わなかったな・・

だがこいつはピカチュウ族が好きだ絶対に

おれが一目にわかるくらいなんだから間違いない(断言)

ピカチュウはマチスに負け劣らずの鋭い目線にヒト睨みしてくる例えばだがポケモンだいきくらぶにあまえていられるようなプリチー路線じゃないとつくんに鍛えたバトルタイプのけわしいまなざしであった

するとマチスはうおっほん咳払いして喋り始めた

「ヘーイ！ プア リトル キッド！」

ユーの ハンパな パワーでは
せんじょうじゃ いき のこれないネ
ミーは せんそうで エレクトリック ポケモン
つかって いき のびたネ！」

「リアルファイトで雷属性使うと足プルプル震えさせて倒れるということか」

「イグザクトリー！」

みんな ビリビリ シビレて うごけナイー！

ユーも おなじ みち たどる ちがいに ナーイ！」

「ほう、試してみるか？ 俺が戦闘をシミュレーションしてみたところ

100%の確率でナイトが勝つと勝率が出たんだがな

ピカチュウは防御力が低いからナイトのねつとうブレスには耐えられんよ」

「バトルはシミュレーションのようにはいかないネ！」

さつそくクチバジムリーダー、マチスが勝負を挑んできた！

「行け！ ナイト！」 「レッツゴー！ ピカチュー！」

俺は予告の宣言どおりナイト繰り出してやった

今日はゴキゲンでコンディション絶好調みただから

でんきタイプにも互角以上の動きで勝てるはず

相手は肩にいたピカチュウの様子ジャンプでバトルコートに躍り出ると軽快なステップで距離を詰めてきた「クイックアタック！」するとライトニングスピードに加速したタックルがナイトを襲う

いきおいつけてきても石のように硬いかいがらでくいとめてしまうナイトの防御力はすごい「からみつけ！」おれは自慢のスピード捕らえてやろうとさせたら「Nuzzle！」とワケワカラんこといわれた

そしたらしよくしゅ届きにくい貝殻ぶんに抱きついてほっぺすりすりしだした〽ピカチュウ

イツシュ語で指示出すのはズルイ意味がわからない

わかるのはピカチュウのほっぺはでんきぶくろなのでナイトはび

りびり痺れてしまうことだけ届きかけてたしよくしゆがビクつとして止まった「アイアンテール！」マチスの攻撃的な指示はつづく

ピカチュウがバツと空中にジャンプするとなんか回転しながらしっぽ叩きつけようとしてきた「みずでっぼう！」ナイトはにゆるんと上向いてみずのブレス

ピカチュウは体重が軽いのでねっとうよりいきよいがよく遠くまで届く水属性のてっぼうに押されて結果、強力そうなしっぽ攻撃は失敗していた。

それどころかバランスが崩して頭から落ちる始末ピカピカ痛がつて鳴いてた

「アーハーン。このジムにアクアタイプで挑むとはいい度胸ネ」

「別に俺は度胸をアツピルなどしてはいない。ナイト！ 続けていくぞ！」

おれはねっとうブレス指示すると出してるブレスの温度がみるみるあがつていくすぐく湯気がでるくらい！

ピカチュウはステップで回避したが墓を掘ったな、みずびたしなってるコートに滑って転んだところをナイトは見逃さなかった

キツチリねっとう当てにいくとあちゃーと鳴きだすピカチュウに「ノンエスケープ！ ファイト！ スパークで攻めなサーイ！」とマチスが指示。そしたらピカチュウ開き直って結構攻撃的になるんだけど

でんきが伝わりやすい水はあちこち散らばったので効果はいまひとつのようだな。もちろん水源になったナイトにも伝わってしまうんだがビリビリのまひにしびれるのは気合で克服したのかねっとう出すのやめなかった（ガッツ）

そっから意地の張り合いだったが流石にでんきとみずの相性、電気エネルギーに正面からでは勝ちにくい現実についてに限界なのかナイトはねっとうできなくなって鳴き声あげて倒れた

「ナイト、よく頑張った！」俺は健闘したナイトをボールに戻して労ってやった

ピカチュウはというと勝った余韻にやけどで痛いなのか、一息つい

た後ダウンしてた「ピカチュウ！ ナイスファイト！」マチスもピカチュウねぎらつてボール戻してた

するとマチスはアゴに手で考える者のポーズ「リアリイにいい度胸ネ。フーム……ソウ……タイムアウトねー」悩ましいのかジムリダーなのに先に長考のタイムとつてた（意外）

おれはポケモン繰り出す前なので出そうとしたリアメス出さずに待機

そしたらブツブツ眩いたり三回連続で見つめてきたりだが居心地が悪いとか、そういうことはちつとも思わず、むしろジムリダーに予想以上の強さにプレッシャーあたえているかと思うと気分がよい（カタルシス）

どうやら頭の整理してるみたいだがナイトが根こそぎ勢い持っていったのでなにもゆるぎない強さを証明

「オーケー！ ユーに必要なレクチャーは決まったネー」といってボールを手に取った。

再会やるかよ？

こつちのが先にダウンしてたと思うからおれからポケモン繰り出す礼儀のルールにリアメス繰り出すとボールからちやんと出てくる前にマチスも投げていた

「エレクトロロード！ 『テストしてあげなサーイ！』」

マチスが投げたボールから出てきたのはマルマインイレブンのアニメで知名度全国区になったと噂に名高いマルマインであった。

でかい（驚き）

アニメだといふちつきい足元サイズなのにリアメスよりデカイどうなってる？

それともデフォルメなしがこのサイズなのかよ？

するとリアメスはすぐキックしたそうに鳴き声あげたりリアルでマルマイン蹴れる興奮にうち震えているらしい

だがダメだそいつはばくはつする「待て！」という声にリアメスは不満げだが大人しくだった

するとマルマインは悠々とひかりのかべ張ってたがそんな挑発に

軽々と乗っていく馬鹿には確実な死が待っているでしょう

ジムリーダーともあるうが大事に育てた自慢のポケモンばかりはつさせるワケないっておもって近づかせたらボカンのつもりだろ？

ふつうならそんなことしないだろうがポケモンは色んなことできるから

色んな人間がなんかしてきてもおかしくないでしょう。

マルマインはちようはつ的にニヤリ笑ってあまり動かない

リアメスはその顔面蹴りたさそうにしてるがイライラしだしたがダメ

しばらくチャンスうかがっていると「カモンボーイ！ かかっつきなサーイ！」とマチスまでもが挑発行為しだした最悪だな……負けが恐ろしくて微塵にばくはつで真面目にやってる奴を笑うつもりかよ

「そんなオクテじゃこの先生きのこれないネー！」

「うるさいよ馬鹿。ヨミヨミですよ？ お前の動きは」

するとマチスはなに狙いか当ててみると聞いてくるのでばくはつ狙いだと答えると「オーケイ！ テストは合格ネー！」といいつつマルマイン引つ込めた。

おいイ？ おまえそれでいいのか？

俺の真の狙いはでんきタイプなのにしびれを切らしたでんき攻撃よんでの大ダメージコンボだったんだがな……するとマチスは「ファーストチャレンジでテストに合格したのはユーが始めてね！」という

どういうことかと聞くとマチスのマルマインはエキスプロージョンなる超強力なほぼ一撃必殺わざを覚えているらしい

まあ分かってたが明瞭に明白だよな。

それでも引つかかってしまう者もいるのがポケモンバトル。

あのマルマインはひかりのかべの他にリフレクター展開も可能らしく、防御的にされていかついたトレーナーが自慢のほけもんに近接高火力攻撃させたところをみちずれにだいはくはつする手はずだったらしい

いきなりだいはくはつされたら途惑って動揺なのでそこからメン

タル建て直しどうするかみるそれがマチスのいうテストの意味だ

仮にだがおれがマルマインがばくはつすること知らなくてそれされたらマジギレしてただったろうな・・まだ体できあがってないのにリアオスに怒りのパワー全開にして角ドリルさせたりした結果後遺症の末路にさせたかも知らないリアルに想像して恐怖してしまう

助かったよサンキューマルマインイレブン（名作アニメ）

「ウォーターポケモンでエレクトリックポケモンにチャレンジする度胸！」

エクスプロージョンを知り、トラップをアヴオイドする判断力！

イマジネーションしたビジョンを実行する行動力！

ユーの、そしてユーのポケモンのメンタルのつよきはトゥルース！

オレンジバツジやるヨ！」

とマチスはジムリーダーのいさぎよさ見せてきたがまだ見てないものもあるんだが？

俺はさつきロトム懲らしめてたライチュウとのタイマン希望に頼んだがアイツはエースで上級者向けの切り札だからダメらしい

グリーンなら相手してくれたのにな、だけどトラップに引っかかった馬鹿相手に繰り出すつもりだったらしい別のライチュウならこのタイマンの延長だから良いらしい

マチスはマルマイン作戦は失敗したということにして残りライチュウだけという扱いに対戦のリスタートだがエースでもないにも関わらずかなり強かった

ふまんのキックをライチュウにぶつけてたリアメスはパワフルなでんきわざで最終的にやられてしまったんだが次に出したりアオスのふいうちニドキックの前にライチュウは倒された

その後マチスはオレンジバツチくれたおまけに『10万ボルトのわざマシン』までもくれた

10万ボルトといえばリアメスってでんげきはにも慣れてきてるしカラダも成長なので上級技にパワーアップさしてもいいころだべな

そいえばヤマブキ・シティでもらったカウンターのわざマシン使っ

てないし、それを言うならリアオスも角わざの新技に目覚めさせても
いいのかも

残念ながらナイトの内部器官には詳しくないのでなにを教えてや
れることもないがクチバわんの海は気にいってるみたいなので遊べ
る場所は確保

い
考えれば考えるほどクチバという場所はおれの手持ちに都合が良
い

意気高揚の気分でポケセン戻ったおれは計画のレポートしつかり
書き残すとしばらくのあいだクチバでアレコレすることに決めた

23. おめでとう！ オムナイトはゴルナイトに進化した！（勘違い）

おれは並大抵じゃない速度でバッチ集めてる自他共に認める熟練者なのだが

あとは寝るだけとなった夜の時間プルールとポケギアに電話かかってきたんで誰かと思っただらねーちゃんが急にポケモン捕まえてくれと言ってきた

どうやらかーちゃんから俺が旅しだしたの聞いたらしく便利使いしようという魂胆なのはミエミエで、どうせ研究目当てだと踏んでいたんだがどうやらその通りみたいで学校の携帯獣学関係で何を思っただグトリオいるらしい

そういうの嫌いだから俺は「いや、そういうので頼んでほしくないから」といったら「ピカチュウは捕まえてくれるって言ったのにダグトリオは嫌なんだ？」という

「アレはねーちゃんがすごく欲しそうにしてたから言っただけ。ちよつとわずかに言い方が多様だっただけで揚げ足取りかよ・・・」
「あんたサンダースとか、ああいうトゲトゲしたポケモン好きでしょ？ イーブイフリークのおっさんがつれてるサンダースのことやたら気にいつてたし」

なんだ急に話題変換してきた〜姉

それとイーブイマニアの人をおっさん呼ばわりしないように

あのひとは繊細なのでおっさん呼ばわりはとても心が苦しいらしい（要注意）

「事実だがいまの話題に関係ないでしょう？」

「色々あって、いまこっちにあんた好みそうなポケモンがいるのよ。」

バツジ集めるなら色んなポケモンいたほうがいいでしょ？

交換してあげるから二週間以内にダグトリオ捕まえときなさいよ」

ねーちゃんはいいたいことだけ言って電話切った唐突すぎるだ

ろ・・・

おれに頼むくらいならクラウドとエアリスおともに自分で捕まえばいいのにねーちゃんという権力の強権なのでやれやれだべな、仕方がないので捕まえてやることとなった。

それと俺は俺はねーちゃんオススメのポケモン欲しい訳じゃないから勘違いしないように

ちなみにクラウドというのはねーちゃんのニドリーノでエアリスというのがねーちゃんのニドクイン。

こいつらにも久しぶりに会いたいとも思うチャチャツつと捕まえてタمامシ・シテイに行つてやろうと思つたがいま夜だから寝る時間だからやるのは明日からにしてタコ部屋戻つて寝た

次の日から予定してた計画は早くも破じようですね、と崩したくない両対応におれはまだ13日の余裕を思いじゅんばんの最後尾にしてやった

朝にやること済まして計画のスタートだが昨日は何人が使いたがつて列だつたから触らなかつたこうきようパソコン使用

てもちポケモンみんな預けるとジムリーダーからもらつたわざマシンを起動にリアオス・リアメスの2ひきにカウンターを覚えさせ、さらにリアメスには10万ボルトを覚えさせてやった。

がんせき封じのわざマシンもまだ覚えないうが試しに起動さしたらなんとナイトが覚えられるという予想外の事実があつたので覚えさせることとなった

ねつとうのとき試しとけばよかつたかな、次から気をつける手はず今日はこのへんのわざの練習でつぶれるかな・・・

すぐにボックスからぜいん引き出し
さつそくだが6番道路を練り歩く

まずはリアメスの10万ボルトから。

最初の犠牲者となつたのはピジョンであつたポツポ相手にしてるトレーナーもいたがピジョンに手出しするやつあまりいなかったからだが「リアメス！ 10万ボルト！」と指示するとでんげきハア！

よりつおやいパワーのイナズマ放出したピジョンは倒された
するといままでと違つた感触なのかコテンと首かしげてた∩リア

メス

しかしその後何回か使わせるとすぐ慣れてた「ほう。経験が生きたな」と褒めるとγろこびの鳴き声

そのまま電気パワーのポイントが切れるまで練習させ次はリアオスの番なのだが

見事なカウンターというのは指示のタイミングもキモで一步間違えるとカウンター失敗で大ダメージを受ける上級者むけのわざ

しかしリアオスにはオヤジのニドキングという芸達者な先達の先輩がいた

それはおれにもいえることだがな

常に偶然通りかかっってはたいあたりとか、ひっさつのまえばで齧りついてくるコラツタ相手に何回も失敗しながら繰り返し返すとだんだんタイミングあつてきて、お昼になるころには三回に一回は成功するようになる超パワー！

素晴らしいニドリーノだすばらしい（絶賛）

ニドラン族界のイチローですねと呼ばれる日も近い（成長）

リアオスにはカウンター慣れたら更につの使った大技教えてやるつもりなので楽しみにしていると良い。

今日もいい天気だから皆とおそとでランチタイム。

ぜいいんをボールから出してやりポケモンフード振舞っていると途中でいちぶ品切れなつたまた買い足さないと・・・と思いつつもいまある分はぜんぶあげるとおいしそうな匂いに野生のポケモンが何ぴきかすりよつてきた

しかしニラミを効かせたりリアオスの眼光にたじろぐ。

ここは普段はお前らのナワバリかもだが今はリアオス支配の環境だべな、すこしは実力をわきまえるべき（警告）

ご馳走を前にしてうらやましそうなポケモンだがやせいの掟でいうと食べられないものを前にいるストレスらしい諦めて去つていった

その後ナデナデしたりと可愛がったのちクチバ・シテイに戻り、フレンドリー・ショップでフード買い足したり多めにボール買つてると

金欠の気配が漂っていた

パシリにしてきたねーちゃんに捕獲代行料金を請求することが決定した

ポケセンにもよってお昼休みさせ、午後杉からはオムナイトの新技の岩石ふうじを試してもらうこととなった

どうやらこのわざは岩属性の貝殻からパワー引き出して対空に発射、この世界に満ち溢れる引力という不思議なパワーに地面へ引き寄せられて落ちてくる、というものらしい岩石はポケモンのパワーの産物なのでそのうちスーツと消えていく・タケシのイワーク使ったのしかかるタイプのがんせきふうじとは違うやりかたであった。

対空攻撃を地上タイプのポケモンに当てるのは難しいんだろうな、なかなか当てられてなかったので使いどころが違うのかもしれない
正面にはブレス、上空には岩石の対空という遠距離攻撃が柔術ということになるから飛んでるポケモンに当てる練習したほうがいいかも

そらをとぶポケモンの回避力はすさまじいから難しいかもだがナイトならきつと使いこなしてくれるでしょうさつきから入りたそうにしていた道路に突出してきてる湾岸に行かせてやった

次はリアメスの午後の部だが10万ボルトうちきつた後のカウンター練習これがまたむつかしく、リアオスとはすばやさが違うのでどうもかみ合いにくい。

もちろんトレーナーのほうから合わせてやるのが一般的に言う常識なので

リアメスがカウンターしやすいタイミングを探っていく・
もちろん簡単ではないのだがちゃんとリアメスのことを注意深く見守ってれば

だんだんベストなのがわかっていくことでしょう(当然)

この積み重ねの結果ばたんきゅーとなったコラッタその他が量産されていくが倒れたポケモンたちは光のつぶになって消えていくこれは生存本能にミニマムな回復モードに入ったということ。

ひん死に絶命しそうになったらすぐちつちやくなつて巣に帰る

というのがポケモン共通のせいでボールに入る理屈の原理らしいが大学レベルの話だから細かいところはぜんえんわわからない

リアメスが疲れてきたらリアオスに交代でやはりカウンターがこの2ひきの素早さのズレに俺がカンペキに合わせられるようになったら実践のバトルで使えるかもな今はまだやめてにしたほうが賢明（賢者）

しばらくそうやって訓練に練習

太陽みてそろそろポケセン戻って休憩かと思い、ナイトをボールに戻そうとわんがん見たときその瞬間は見逃してしまつたみたいだがナイトがいつのまにやら進化していた。

やはり予想通りといったところかナイトから水色の胴体生えて、今まで口はそう簡単に見せてなかったが黄色いクチバシが伸びていた手には水かきでアタマの貝殻とか、がんばって引っ張つてた

今まであつたしよくしゅはというとクチバシの上の頭っぽい部分にぐるぐる絡み付いている

おめでどう！ オムナイトはゴルナイトに進化した！

・・おいイ？

ゴルダック部分がオムナイト部分をひっしに引き剥がそうとしてるようにも見えるんだが？

そしたらナイトはからみつくパワーが限界なのかゴルダックに引き剥がされてポイっと道路に投げられた俺はナイトをボールに戻してやった。

ナイトを投げ捨てたゴルダックはというとわんがんの中に沈んでいく・・どうやら今のはナイトの進化じゃなかったみたい（残念）

ポケモンがいつどうやって進化なのかは未解明なヤツラが数多い例をあげるとゴリーキーがとてつもない修行の末カイリキーというかくとう&多腕タイプに進化するかと思われていたが、実は通信交換するとそれだけで簡単に進化するという現象が学会で発表されたというのをねーちゃんから聞いたことある

いままで進化しないと思ってたのが進化前いたり更なる進化がいたりだが、今みたいな合体タイプの進化としか思えないやつもいると

いうそいつの名前は覚えてないがな

だから学者ハダのやつらがいろんな方向性からポケモン調べてるんだな、それだけポケモンという生態が不思議だということ

現在判明してるポケモンのしゅるいは何百匹いるか覚えてないがかなりの数

いちぢきカントー地方にせいそくするポケモンは150匹くらいという発表とともに今では高額ながら一般販売もされてるポケモン凶鑑シリーズの第一弾が出たときは、わりとすぐ訂正のバージョンアップ連発だったという

そのなかにはまだ進化がどうなってるかわからないやつもいるでしょう俺はニドラン族の進化方法知ってるからそれで十分だけどナイトはからだの成長じゃないキミヨウの進化するかもしれない

気になったのでマチスに相談したところ、

ジムリーダー経由で電話にタケシに質問聞いてくれた。

どうやら特別に変わったことはする必要はなく

からだを鍛えてればスクスク成長に進化するという

やはり頼るべきはやはりジムリーダーだな・

今回のことでそれが良くわかったよ〽️ジムリーダー感謝

ともあれこんな感じの日程でカウンター・10万ボルト・がんせき封じの練習を四日くらいかな・一日は本部に寄って戯れていたがやりきった

だががんせきふうじの練習でリアオスの角系のわざ教えるタイミングは逸してしまったがな

約束の残り日数は9日で良い

おれはいよいよダグトリオもせいそくしていると情報でまわってるデイグダの穴ダンジョンに挑戦しに行ったところ中入ってすぐのところに忍者のシヘイがいた「あつ」「あつ」

おれはそばやくトレーナー手帳見せ付けた「バッチ4つだ。もうすぐ追いつく」というとシヘイは心が醜く顔にまででてきた苦々しい表情

「……へ、へー」。

け、けっこうやるじゃねーか。

じゃあ、オレは行くぜ」

と目と目が合ってるのに背中見せようとしてきたそれがヒキョウ者の解かよ

おれは「待てよ。どんだけ追いついてきたか試してやるつもりはなのか」というとしどろもどろ情けないな……それでもポケモントレーナーか？

「おまえ集めはじめて何年でバッチ6個なワケ？

こないだ調子乗って実力さとか言ってた気がするけど大した実力差じゃなさそうだな・・・」

と挑発してやったが振り向かない「かかってこいよバトル前口上だぞコノヤロウ」更なる追い討ちの追加攻撃したらようやく足が止まった「うるせえな。オレはとつくん中なんだ。また今度にしてくれ」ただけ言ったそのまま逃げていった

汚いな忍者……流石忍者きたない

だがとつくん中ということは心折れて諦めたということはなさそうだな

逃げられてしまったのではどれだけ追いついたか試すことはできないが

いつかボコボコにしてやる心積もりおまえ覚えてろよ？

追いかけるつもりなくても進行方向が同じなのでおれも地下洞窟に入ったがもう見えないところまで進んでいったようだった

ここ整備された順路なら電灯が点在に光ってトキワの森のはずれに繋がってるがライトのところから外れる封印されたワキ道に入ってしまうとデイグダ族がすきかって掘り進めたり埋めたりの入るたび地形変わってるかもと恐れられるダンジョンにつながってる（立入禁止）

ブロンテ家の伝承によると最深部にはかつてカントー地方を支配してたという伝説のドラゴンのうちの1匹が長い眠っているらしい

なんでだか社会の授業の歴史ヴァナシには出てこないしポケモン図鑑にも登録してもらえなかったみたいだがな（意味不明）

正直いって昔からおれがいつか攻略してやると思っているが流石に準備もなしに出られそうになくなる迷宮をさまようつもりはない

まさかとは思うが入ってきた道がとつぜん埋め立てられてしまつては穴抜けのヒモなんか何の役にもたないしな

最低でもテレポトに脱出手段確保するのは必須でしょう明かりなんかないからフラッシュも必須その他必要だろうモノは数多いと予想

ムチャするつもりはないのでおれはおとなしくどこからともなくpopしてくるディグダ族の地面こうげきサツと避ける訓練かねてダグトリオ捕獲のためまずはリアオス繰り出すのだった

24. リアルに目撃したという意味があつた（有意）

ところでデイグダというぽけもんは

おれの地元のトキワとか隣町のマサラの農家のひとにもつてる人多い

マサラタウンとトキワ・シティの間にどうろのわきに畑エリアとかだが

むくむくとじめん耕すジョブのおてつだいやつてた偉いやつだ
つまりデイグダは職人タイプということなるな。

職人タイプということはバトルタイプではないハズだがほかの俺の知ってるポケモンと比べて生産という社会的地位とステータスがあるから並大抵じゃない

そいつらがグループ結成に集まったらダグトリオというポケモンだべな。バトルするところ見る機会はなかったが都会とかのアスファイルトに不遇そうなやつらなのだった

でそいつらの一大生息地、デイグダの穴でさっそくエンカウントした野良バトル、

まずは様子見ということでリアオスにはガード行動優先させてるとひっかくわぎがきた。

どうやってひっかギヅメ出したって証拠だよ？

だがガードしたリアオスの体表の表面にツメアト残ったから間違いない（高速）

更に鳴き声あげての砂かけにドロかけと色々してきた

そういつた攻撃は最初からガードの心でいさせた結果、本能的に長寿タイプなニドラン族にはほとんどノーダメージに近い状態

しかしやはり限りなく完全無敵に近いまもりの構えを維持続けるのはむずかしいんだろうな、じわじわと削られていた

理想は当たらなければ意味がないので避けてしまうことだが

トレーナーのおれこそが後ろから観察に見切るのが仕事

しばらく様子見に徹してその後「そろそろかな・・・」とスキをみて攻撃させると倒すだけならリアオスなられいとうビームでやつつけ

られるようだった

一匹倒してぐにやぐにやの一本道ウロウロするとまた次のデイグダ

れいとうパワー使いすぎるとだいたいじな時にエネルギー切れかもだから角物理攻撃も活用させていったでえくるデイグダもピンキリなんだろうな、たまにだが一発だけなら耐えるやついた

ツメ攻撃がきそうだな、と読んだらカウンターで倍返しにも挑戦こうやってデイグダのナワバリでデイグダたくさん倒せばボス格のダグトリオもでてござるを得ないだろう

トキワの森でもキヤタピー倒しまくっているとボス格のバタフリーがでてきて

ちやんとひこうタイプの怖さ分かってなかったあのときは大変な目にあつた

あいつらパタパタしてるだけに見えるのに実は攻撃だからな・・粉が見切れるまで辛い戦いだった……おつといまはデイグダに集中

「よし、一旦戻れリアオス。行けリアメス」

ずっと出ずっぱりだと疲れてしまうのでこうたいでバトルさせてやるリアメスにはまず覚えたての10万ボルトを一発打たせてみた
(検証)

しかし本家でんきポケモンでも限りなく無意味に近いという話なのに効くわけがないのだがおれ自身がその意味がないしゆんかんをリアルに目撃したという意味があつた(有意)

するとデイグダは鳴きながら上下ガタガタ揺れだしたと同時に地面ガタガタ揺れだす

ついにじめんわざきたか「飛べっ！」指示に合わせてジャンプしたリアメスは

しかしガタガタ揺れが収まるまで宙にいられなかつたみたいで着地すると内臓シエイクで気分悪そうになつてる

揺れは着地後少ししたら収まったので一息ついて落ち着いた直後みだれひつかきアンドどくずきの、れんけつの強コンボさせてやつつけてやった。

地面こうげきってジャンプ力で完全回避は不可能なのかよ？

いやそんなことないハズ（希望）

ここは地下だから最大ジャンプができなかったというだけだろ？

天井って俺の身長の二倍ちよつとくらいありそうだケドきつと『ほんきだせ』と指示すればもつと高く跳べると思うし

まあ本気を出すということは反動ダメージが返ってくるかもくらいの全力全壊ということだからマルマインの自爆技ほどではないがオススメしない

おれは『ほんきだせ』の指示にはどちらかという大反対だな

リアメスはいまの一戦だけで一旦引つ込めると次はナイトの番

あらたにpopにわいて出てきたデイグダに速攻でナイトのねつとうブレスさせたら結構有効らしく一息でKOの様子

どうやらデイグダはブレスとかビーム属性に弱いのもかもしれない
（観察結果）

何戦かしたうちの最後で一足はやく穴掘られてしまふと避けられてしまい、更に下からズドンされるとこれが中々強烈みたいナイトの防御りよくでも痛そうだったが耐えらるる範囲らしいおかえしのねつとうブレスで倒していった

「まだ行けるはもう危ない」という名台詞はあもりにも有名。

おれはもうちよつと奥に進めるかもなと思つた段階で引き返してやつた（英断）

こうして一日に午前中、お昼すぎ、夕方前までの三回アタックにチャレンジおさえとくことでムチャより充実した探索生活が認可されたかにみえたが初日にダグトリオは出なかった

そうやって探索のレポートの証拠のログを確保した翌日

あさのデイグダのあなにアタックしにいったらまたシヘイがいた

「おいイ？ また会つたのにまた逃げるのか忍者は逃げるジョブなのか？」

「うっせーな。やーつと修行の意味が、わかりかけてきたんだ、お前の相手してるヒマはねえ」

とまたしても逃げ腰だった今回は目エ伏せてこつちすら見てない

ので

目と目が合っていないということだから対戦する気持ちともノーでナツシングということ

っーかこいつクチバ・シテイのポケセンに居なかったなワザワザベつで泊まつてるのか？

理解不能状態なのだが問いただす前に行ってしまったのでミステリーだった

仕方がないのでそのまま俺も地下洞窟にはいる。

すると最初に繰り出したナイトのブレスの調子おかしい

なんでだかブレスが濁ったドロのようになってしまい

ヤバイ病気かと思っておれはすぐさま探索中止、

ポケセンでヒールマシン利用じゃないちやんと診察してもらおうが異常はないという

別ルートで岩タイプの特攻家のタケシからもたらされた情報はこうだった

『それはマッドショットというわざだよ』

オムナイトの体内に秘めたげんしのちからの一部が発現したもの、なんて推察もされてるね。

僕は学者が本業ってわけじゃないからその手の考察は専門外だけど……これだけは言えるよ

アイアンくんのオムナイトは順調に成長してることさ』

リアルに見たわけじゃないのにこれだけの意見出せるのはすごい。

俺の中でタケシのリーダーランクが上昇した瞬間であった

新技というのであればビビル必要は全くないが

ねんのため地上の6番どうろでコラッタとかに試し打ちしたところ

ドロのブレスはネットネットしてて敵の動きを鈍くするという追加効果あるのがわかった

しかしポッポとか鳥タイプには直感でばさばさと羽ばたき簡単に避けられてしまう

その後浮いたところをがんせきふうじで倒したがオムナイト族と

いうのは実は多彩だな、

色んなタイプのわざ使えてしまう覚えたいじゃない覚えてしまうものがナイト

そしたら急に腰のボールベルトで暴れてきた∟ボール内リアメスなんだと思つて振り向くと、ちよつと離れてる先にくさむらに、ながねぎ持った鳥ポケモンのカモネギの姿

アレ『ホウエンわざわい浪漫るろうにアブソル』で出てきた突き攻撃の達人ポケモンだべ？

この辺じやレアで見かけないはずなんだがな・

どうやら俺より年下トレーナーの手持ちらしく

やせいのポケモンにネギっぽいブレードでズバズバしていた

リアメスはあのカモネギとすぐく対戦したがつてる様子

クチバ来てから対戦したことにいトレーナーだべな、

目と目があったので早速挑戦おれはそいつに歩み寄ると

「トレーナーは目と目が合ったらポケモンバトル！」と言うと

対戦始めてなのか「よろしくお願いします」ときた

「よし、行け！ リアメス！」おれがボール繰り出すとそいつはカモネギに「おしよう！ かまいたちだ！」と腰ダメにながねぎ構えさせた

前回マルマイン相手にがまんにこらえるしてたのはフラストレーションだったでしょう俺は「前回あきらめさせたし今回は好きにして良いぞ」というとリアメスはダツシユ速度落ちるといふのに二本足と尻尾で立ち上がりどくづきの構え。

その後ぽてぽて走りだしたタイミングでかまいたちの力を溜めた強エアカッターがきた

リアメスはジャンプしてサツと避けての空中突き攻撃したかったみたいだが前足の踏ん張りがないからだろうな、後ろ足だけで跳ぼうとしたらズベツと転んだうえ飛燕のかまいたちにも当たって散々の結果だった

こんなはずじゃなかったみたいなき声があつた。アワレだったまだ動けそうだが俺はリアメス引つ込てやった

今はまだカンペキじゃないがああやって積極的に二本足したがっ

てるということは進化後の意識なのでしょう将来を見据えてて賢いという証明になる(慰め)

「よしよし、やるならちゃんと練習しような。行くぞー! リアオスー!」
おれはリアメスあやしなながらもつづけてリアオス繰り出すと

あまりやる気がないのか前足で顔とかポリポリしてた

「いいぞおしよう! すごいぞー! かっこいいぞー!」

年下トレーナーはカモネギを褒めたたえると自慢げだったな・・俺はリアオスにカウンターさせる気で待っていると「よーし! 次はいあいぎりだ!」ときた再び腰溜めにネギブレードだがススツつと踏み込む足運びに熟練の気配「カウンター!」だがおれはたぶん攻撃してくるだろう直前に指示すると同時にズバっときたリアオスはきゆうしよに痛そうにしなながらも見事なカウンターで返すことに成功した試してみるモンだな。カモネギはというと凄まじい倍返しこうげきに倒された

「あーっ! じーちゃんのおしようがーっ!」

こいつもし化して、じぶんのポケモンひんしたとこミルン始めてなんですか?

ボールに引っ込んでいったカモネギ片手に悲しんでおろおろしてたそいつに俺は「そういうときはポケモンセンターに頼ると良い」と教えてやると「ありがとう!」といって走っていった

「賞金・」と言いかけたがトレーナーの常識も忘れるくらい必死だったのでしょう

おれは焦らずゆっくりクチバシティに戻り、ポケセンにいた少年に賞金を請求しにいくのだった

ポケセンついた直後ごめんなきいしてきた初心者トレーナーから60円もらった後くらいにポケギアに電話かかってきたねーちゃんからだ何のようだ?

「ダグトリオ捕まえた?」

「捕まえてない」

「もう一週間たつただけだ」

「ふつうに考えたら捕まえたら電話するでしょう? 電話しなかった

ということとは捕まえてないということになる」

「むー。じゃムリだって思ったときも電話しなさいよね」

「わかった」

つまり捕まえるまで電話しなくていいという意味だなこっちはいくらでも無限コンテニュー可能だし諦める必要もない（約束）

「よろしくー」という言葉を最後にブツツと電話きれたが直後にまた電話かかってきたナツメからだった

「大変なことになったの。助けて頂戴」

「どうした?」

「私のバリアードだったら、握手しようとしたらものすごく嫌がってヘソ曲げちゃったの。どうしたらいいかしら?」

「さっさとごめんなさいしろ握手以外すればいい」

という「やってみる」というしぐさま電話切れた

俺はバリアードというポケモンの名前にピンとこなかったが

たまたま握手されるのが嫌いなタイプだったということでしょう。

さて、とねーちゃんの約束とナツメの問題をてんびんしたところ

優先度＋1はナツメのが緊急事態に思える

普通に血の通った人間なら誰だって仲良くしたいポケモンに嫌われるのは辛いつて分かると思うんだがな

ねーちゃんとの約束のほうはというとまだ一週間残ってるということだから余裕あるってことで簡単に論破可能おれは少しだが慣れしてきた自転車でヤマブキ・シテイにかつとばすのだった

25. なんだ急に拗ねてきた〜 ナツメ

○月X日 今日もいい天気

実はおれは頼りにされていたナツメのポケリフレ中

おれは自分のクエスト進行中で関係なかったんだがちようどトラブったみたいでteeheeかかってきたなんとか耐えてるみたいだった

おれはクチバにいたので急いだところがアワレにも関係が崩れそうになってるっぽいのがテレパシー会話で叫んでいた

「どうやら本格的にへソ曲げたらしく『はやくきて〜はやくきて〜』と泣き叫んでいるナツメのために俺は自転車を使ってカカツッとダッシュしてははまだつかない時間できょうきよ乱入すると

「もうついたのか!」「はやい!」「来た!フレ来た!」「メインフレ来た!」「これで勝つる!」と大歓迎状態だったアワレにもナツメはおやの役目を果たせず嫌われていた近くですばやくなだめるパワー使い橋渡した

テレパシーで『助かった、終わったと思ったわ』ときたがこのバリヤードがだれの手持ちだかは一瞬わすれてるみたいでかわいそうだった

おれはよrこびほめられたかったので――

「とても個人的かつ独創的なレポートね。

でも、すつごく読みづらいわー

その調子で今日までの旅の記録を残しているのかしら?」

「なにイキナリ覗きこんできてるわけ?」

おれがさつきまでの出来事レポートにしているとポケリフレという俺が日常的にやってる好意おわらせたナツメが後ろから不意だまにレポート見てきた

画面閉じたらそれ以上見る気は無いみたいでコロコロ椅子に座って足組んでいたお肌つやつやかかもしれない

「それにしたって、嘘ばかり書くのは感心しないわね」

「嘘じゃないおれはナツメからの救援要請たしかに受け取ったしな」
「まあ、確かに相談はさせてもらったけれど。」

私、絶対『これで勝つる』なんて言っていないわよ」

「ナツメがエスパー能力で喋っていないところの声が聞こえるように俺には喋ってないナツメからこういう台詞が聞こえてきたということだ」

というとなツメは呆れが鬼になっていたおれは借りてたメイン機のポジションから座ったままの姿勢で床キックにコロコロ椅子移動すると

ナツメもだがサイコパワーがあるのでキックせずともオートでホームポジションに帰っていった。

「それにしても助かったわー。」

まさか『いやよいやよも好きのうち』じゃなくて『とにかくイヤだ』のほうだったのね」

「普通なら態度で分かりそうなものだが特にナツメはテレパシーなんだし」

「エスパーになってから普通の意見ってよくわからなくなっちゃって。」

それに、心が読めることと心が分かることは別よ」

「お前学校行って国語の勉強しろ」

するとナツメはシニカル表情になってこう言った「あなたは心は読めなくても心が分かるタイプね」

残念だったなおれはクールタイプだから冷静に大人の考えだし

たとい分かるとしても0か100かかというのならニドラン族以外は全部0%なのにニドラン族は100%という程度だぞ？

『どちらかというとなツメは熱血タイプだと思っけど』

「目の前にいるのに直接脳内に話さなくてもいいと思っただ」

「あら、ホントだわー」

ところでおれは現在地は超能力開発センター三階でなんでレポートしてたかというところ

やること終わった後しく帰ろうとしたところ

ナツメがさつきみたくシャレンならんくらいこじれたら助けて欲しいと希望されてしまい

対応に困ったんだが二回も三回も「まただよ(苦笑)」となりたくないから

仕方ないから帰らず居残りしてレポート書いてたという状況

つまりもう居残りの理由なくなったも同然だからもう行かなくちやと

立ち上がったら「まあ、まちなさい。お礼くらいさせて頂戴」といううがキツチリ断つといた

「おれはこないだ助けてもらったのにお礼してないから実はお恩を貸していたということになる。お恩を返したというだけのことだからお礼なんかいらなと思うけど?」と理論的に礼儀正しい大人の対応なのだが「まあそう言わずに」とグイグイくるので押しが強い

こんな押されてしまっってはナツメの手ぽちポケモンがビツクリして困ってしまったじたじするの納得

もし化して、ジムリーダーの重圧から開放された反動かも知らないし他の理由があるかも知らない

「ちよつとくらい困ってることあるでしょう。どれどれ……

ん? いまあまりお金が無いの? スポンサーしてあげよつか?

それともダグトリオ捕まえてほしい?」

するとナツメはテレパシーで読み取って意見なのでスポンサーは俺よりククイさんだしダグトリオは自分で捕まえなきゃなので折角ですが遠慮します

『……ふーん。まあ、いらぬなら、いいですけど』

「なんだ急に拗ねてきた」ナツメ

じゃなんかくれ俺がほしいのじゃない自転車のチケットのときみたくナツメがあげたいと思ったのがほしい」

という黙ったおれは「思いついたときでいい。じゃあな」と部屋から出たが自動ドア出てから振り返るともう笑ってないむ表情のナ

ツメ

その目はサイコパワーなミラクルアイであったオートで自動ドア閉まった。

……何か言いたそうだったことくらい分かるが言い返す言葉が無かったのかもな、

だが貰ってばかりで何も返さないヤツは本能的に寄生タイプだからやめといて正解のはず

その後おれはクチバに戻りポケセン休憩後ダグトリオ探検隊やりについてが見つけることはできなかった。

だがチャンスは翌日だったその日は洞窟入ってすぐに忍者いなかったんだがおれはデイグダの地下に穴に行きずんと進んでいくと何回かデイグダ倒してるとダグトリオがついに現れた！

「チャンスだリアオス！ どくばり！」 さっそくリアオス繰り出して毒針でよわらせる作戦にでたところリアオスはとまどった「どくばりってなにするんだっけ」みたいな鬼なつてこっち振り向いた

しまった長いこと指示してないからポカンと忘れてるダグトリオは穴掘って潜った「今のなし！ 下から来るぞ気をつけろ！」すかさず指示キャンセルに落ちつかせると

下からくるのはタイミングよくジャンプ回避「ひかえめにれいとうビーム！」ドカンと飛び出たところへ弱めのビームで削らせたおれはリュックの中からモンスターボールだして構える

するとダグトリオはドロかけてきた俺に「ウオアー！」俺のダメージにリアオスはモノスゴい鳴き声あげた「みだれづき！」俺はとっさに指示した結果がどうなったかわからない

トレーナーにダイレクトアタックしてくるのは野生とのタイマンならではの出来事。

顔面コースだから目え痛いおれは腰のボールからナイト出して今更ながら盾の仕事任せたスキに腕でこすって視界確保したいが見えにくい！

「リアオス！ ひきつけろ！」

おれはリュックから水系のドリンクだして自分の顔にかけたところ

る多少マシになった感さらにごしごしするとようやくが見えるようになった

戦況がどうかというとりアオスは鳴き声あげつつ角の先つちよから氷出してた注目はダグトリオの四つの目を集めていたナイトはというと攻撃はせずにぼうぎよ中心の構え

そしたらダグトリオは上下にガタガタゆれだす地面がグラグラした

ヤバイ、地ならし攻撃（アースクエイク）だ！

「飛べー」リアオスはジャンプで逃げたがナイトはジャンプできないので逃げられないグラグラに内臓シェイクされたのか気持ち悪そうだった。

リアオスは手加減してやりあえる相手じゃないと思っただろうな、空中でビームうつてた今度はかげんじやない本気の冷凍ビーム「しぬ＼＼」おれはとっさにモンスターボール投げたところ

ビーム浴びてる中のダグトリオはぼふんと収まってひん死になるぴんちから脱却

ボールは床に転がったガタガタ暴れてる

あれだけ暴れるということは捕まりたくないみたいに見えた

おれはこのボールにはおさまるぬだろうと逃げ出してくる予想で第二の空ボール用意するとやはりというかカチツと収まる前にダグトリオはぼふんと逃げ出した

「入ってるー」おれはすかさず出していた二個目のボール投げつけた

ダグトリオはまたぼふんとボールin

あとは逃げる気なくすまでMB投げて当て続けるだけ

一回二百円の捕獲ガタガタに勝つまでだがダグトリオは脱出からボールいれらえるまでの間隔が長いから遠くまで届くドロかけ俺を狙ってきた

しかしここで頼りになるナイトであった。

なんとプレスで打ち落としてくれたのだ「よくやったナイト！」口を動かしつつ手を出すのをやめない（平行作業）

おれは捕獲しては逃げられの繰り返し14個目にしてようやく捕

まった

「買い足してなかったら足りなかったな……いまはもう大人しいキズだらけのダグトリオのボール見るとぼってんぎみにジト目の6つから見つめ返された」

「これが高レベル体のじめんタイプか……偶然にもおれの手持ちたちがニガテの大地属性だけあってそれなりになかなかかなり強力だったおれも不用意だったがな」

「さつきおれがトドメさすように言わなかったがリアオスがトドメしにいったということはそれくらいニガテタイプはやる気や気合いだけじゃ厳しいということか」

「お前つよいな」と素直な言葉が出たのはおもわずいさぎよい武の心がでてしまった結果だったのだろう

「ま、倒す気で戦うのと捕まえる気で戦うという差が大きかったのも認める」

「おれはダグトリオ入ったボールをベルトにセットした3つ目のときは特にだが4箇所めのボールベルト埋まるのが変な感じだった。洞窟から脱出してクチバのポケセン。」

「がんばってくれたみんな回復させてやったら昼前だった」

「昼飯食う前にポケギアでねーちゃんに電話」

「ダグトリオ捕まえたぞ」

「でかした流石我が弟」

「とりあえず今からタママシ行きだケドどこ行けばいい?」

「タマ大どこか知ってる?」

「ぜんえズんしらない」

「あんた今たぶんクチバでしょ?」

「クチバからヤマブキ入って、西ゲートから出て、タママシ入って直進したら右手側にポケモンセンターあるからそこで待ち合わせね。」

「おねーちゃん夕方過ぎに迎えに行くから」

「わかったそこついたら電話する手はず」

「よろしくー」

「後はねーちゃんがどんなポケモンはべらせてるか期待だな、」

なにはともあれメシ食ってから待ち合わせ場所行くためにポケセンから出ると

空とんで逃げてる洗濯機とひっしに追いかけてるオッサンの姿「誰かロトムを止めてくれー！」という姿はアワレだった

普通ならこないだのことで無視する人がぜいんだろうがおれは無視できなかった走って近づくのとロトムは前にイタズラしてたのと同じく個体なんだろうな、鳴き声あげて襲い掛かってきた！

「もういい加減粘着やめておけよやめておかないとこっちも考えがあるから

そろそろ反撃するかもしれない

仏の顔を三度までという名セリフを知らないのかよー！」

おれはリアメス繰り出しニドキックで撃退させた街中では危ないポケモンバトルが始まってしまった

2.6. 前門のニドラン族前門のオムナイト族状態 なす術なし

ロトムなるポケモンが電気製品にはいれてイタズラできるのは見たことがあったが自由自在にふゆうするほほのポケモンパワーということはかなりの潜在能力

おやを言うこと聞かずに動き回ってる迷惑行為中のロトム戦、先制パンチのニドキック決めたおれはまずとは6番道路方面にダッシュ

街中でバトルするとかいう危険行為は中立的な第三者的な立場からの視点が無いと犯罪行為なのでその射程外に行こうという考えだがまんまとふよふよ追いかけてきた〜ロトム

ロトムのおやはというボールに戻したそうに赤いビーム向けようとしてるがサツと避けられていたクセが見抜かれてるぞお前が何とかできるなら何とかするべき

機体してなかったが後ろちらちらみると洗濯機パカツと開き水のブレスうってきたリアメスが体張って食い止め周辺被害は回避。

すると持ち主はロトムに「やめてくれえ！」というがアワレにもムシされていた。

お前は保健所が怖くないのか？

まロトムは器物破損か傷害罪で逮捕される前におれがひん死にしてやるから逮捕されない

そろりと走りつつけると街の外出れたので反撃開始

おれはさっそうと振り返ると「リアメス！ どくづき！」と指示リアメスは反転にカカツと四つ足ダッシュ

ふわふわついてきてたロトムは飛行タイプに見えるがどちかというふうとふゆうタイプなので大してあまり素早くなかったから簡単に捉えられた毒属性の右が洗濯機に食い込む。

おれはついさっきの出来事の対策に「ナイト！頼んだ！」と守りのカナメにしとくと予想に想定した通りロトムはリアメスのことス

ルーして俺めがけて結構な速度で電気タツクルにきただがナイトが岩石封じに打ち落とすと簡単にはのげられなくなっていた。

「リアオスも行け！」

恐らくだがこっちのニドラン族とサシで比較の時点ではまあ互角だろうが

3対1という匹数差が決定打となり総合的におれたちの圧勝となる

もはやすでにふくろだたきの射程内

ロトムはとつでんの急展開に逃げ出したそうにしてるが後ろがないので前門のニドラン族前門のオムナイト族状態でなす術なしだな

その後ボコボコに圧勝してやった後にはボコボコに故障した洗濯機が残された

一足先にモンスターボールへと脱出したっぽいロトムはヒキョウにも籠城を決め込んでいた洗濯機の持ち主のおやがかわいそうだった。

「参ったなあ」というおやに話を聞くと今度は勝手に店売りの洗濯機に入り込んで脱走したらしい

俺が思うにここの彼では躰けられないんじゃないかな？

捕まえられたポケモンがそのしゅんかんなんでも言うこと聞くと思う浅はかさは愚かしい。

人が腰にセットのポケモン選ぶようにポケモンも人を選んでるということ。

どうやらこの人はロトムを捕まえればしたももの従うにあたいする選ばれた人間ではないようで「マチスさんに預けようかな」と言いだした。

そんなだから反抗されると思うぞ？

キッチンと向き合わないと懐かないことくらい分かりそうなモノなんだがな

変な空間になったので俺は「じゃ、家族の予定があるのでこれで」といって先を急いだちなみに警察はだいぶ後に来たらしい（後日談）

おれは折り畳んでた自転車の封印を解き、ちやりんちやりん走って
ヤマブキ南ゲート▽ヤマブキ・シティ▽ヤマブキ西ゲート▽タمامシ・
シティと移動したがさすがは自転車といったところか、まだ夕方とい
うには時間に余裕のようだった。

とりあえずポケセンでヒールマツシンにポケモン預ける。

今電話しても迷惑かもな、回復後手持ちぶたさになり何をすることも
迷うハンパの時間だった

俺の頭ン中の想定ではこういった空白の時間にリアオスの角の次
なるパワーを引き出す技を伝授だった

最近とつくんばかりでポケモンのみんなと戯れる時間がふそくし
ていると思う（リアル話）

とりあえず近場のポケモン出しているエリア聞いてまわると街か
ら出るかタمامシ公園だという俺はタمامシ公園に行くことにした

公園はタمامシの南にあるそうだが行ってみると公園というより
散歩コースであって遊び場というふいんきじゃない様子。

それほどあまり広くない道の左右に木とか花壇のエリアなのだが
おやつの時間すぎの散歩タイムみたいでそこその人がポケモン引
き連れて歩いていた。

もちろんだがここはバトルの場ではないのでタイマン禁止

出入り口近くの掲示板にはマトモに躡けられないヤツは出禁にな
ると書いてあった。

そこでおれの目に付いたのはガーデイの進化ポケモンのウイン
デイの姿

おやこ連れに先頭を正堂堂と歩くさまはなかなかの風格その周
りをガーデイ二匹がちよろちよろしてたが周りの迷惑にならないよ
うにさせていた

どうやら複数出しても良いらしいことがわかり俺も三匹とも出し
てのんびり散歩

当然だがゆっくりして行くとナイトのペースに合わせることもな
る

そうなるとりアオスとりアメスは先行に前に並んで歩いてくこと

となり、ケド遅れてるこつちに振り返ると座って待ったりする

そのうち座る気分じゃないのかこつち戻ってきたりまた行ったりと落ち着かない様子に最近はバトル中心に行っていた影響だろうな、おれは二匹の近くにしゃがみこんでなでてやり「今はのんびりタイムだぞ」と言つといたナイトも仲間になりたそうな目で歩んでいたのでナイトもヨシヨシしてやった

おれは散歩コースから芝生とか木のエリアに移り、花壇には近づかず木を背中に座るとポケモンフードを振舞う道行く人はそういうことやる感じは全くなかったがどうせ自宅でやってるのでしよう

何匹かからフードに興味がある目がきたが、おやにたしなまられるとおとなしくだった

おれは皆に振舞ったフードからチョコチョコ出し、こつちは食わないように3匹に言い含めると腰の中身のあるボールを手に取り中を覗く。

捕まえてからまだ一回も出してないダグトリオがこつち見つめ返してた。

「いまからごはんだからよ。大人しくだぞ」

と声かけしてからカチつとロック解除にボールから出してやった。

だぐだぐいう鳴き声とともに出てきたダグトリオはさつと木陰に移動ダグトリオの弱点は日光なのだ（生態）

ちゃんと日陰に出したつもりだが眩しい位置だったみたいおれはしゃがみ状態で試食に小分けしたフード近づけてやり「好きな味だけ食っていいぞ」というとくんくんしだした

そのうちダグトリオがもしやもしやしたのはリアオスと同じメニューであった追加でフード施してやるとよろこびの鳴き声っぽいのと共に食べ始めた。

リアオスはダグトリオの身分わきまえてるみたいで特に文句の鳴き声はないみたいだった俺はダグトリオに言う

「おまえ、俺のねーちゃんところ行きだから」

しかしダグトリオはというともらったフードに夢中みたいで聞いているかどうかは残念がはつきり言ってぜんえんわわからない。

あまり感心を持ってたわむれるとねーちゃんに差し出すのを躊躇うからだかもしコイツが俺相手にだから捕まってやったという心意気だとしたら申し訳ないと思う

まかなりの勢いでレジストだったから俺は「私利私欲とみとめているが「俺が望んだ事ではない」という意見

ねーちゃんのもとでたくましく過ごしてほしいと思った。

食後みんなナイトのペースに合わせてのんびり歩いていこうとしたが、ダグトリオはき陰からでたくない様子なのでボールに戻してやった

気になったのでダグトリオいた芝生見てみたが穴一つない不思議仕様

これがポケモンパワーってやつか・俺はダグトリオではないがこれは明らかに超常現象しすぎているだろ（苦笑）

でもコンクリの上に繰り出してはいけないというお達はトキワにあるのでわけがわからねえだよ

さて気を取り直して散歩道だがしばらく歩いてると途中で分かれ道になってほとんどぜいいんの人がそこでボールにポケモン戻して街に戻っていく

近くの案内板みるとやじるしマークで三方向のうち、この道の奥がタمامシジムという単語が示されていたが

さすがにジム戦する時間ないだろう時間は夕方の方の5じ前くらいだったおれはポケモンセンターに戻ってねーちゃんに電話したが出なかつた授業中かよ？

電話鳴らすのやめてトイレにしよんべん行くと手洗い中に折り返しっぽい電話

手え洗つてる最中に電話鳴らすのはしないふえ下さい（約束）
すぐさまハンカチで手え拭いてから通話

「ついたー？」

「ついたぞ」

「はーい。今から行くから表に出てて」

「良いぞ」

まってるということなので外でて待っているとそのうちねーちゃんが来た。

布装備はミニスカート時代とは違って大学生といった風格だが一目でわかった家族だからかな。髪は一族の遺伝的にもとの銀髪に染め戻してみたみたいで安心だが前は茶色く染めてたからなー長さはセミロングにしてるようだった

ねーちゃんは目ざとく俺の背中の自転車に目が行ったみたいで「おー。折り畳み自転車じゃん」と久しぶりという言葉より先に言ってきた

「どうせクチバで会長さんにおねだりして引き換え券貰ったんでしよう？ 意地汚いわね」

「そんなわけないだろケンカうってるのか？ 引き換え券はナツメからもらった」

「え？ ナツメさん、って、元ジムリーダーのナツメさん？」

「おれは他のナツメという人物に記憶がないが」

「なんで？ どういう経緯？」

隠すほどの事でもない部分の超能力かいはつセンターに協力してると言う事実だけ説明すると感心が鬼なつてたが人に触れ回ることじゃない仲良し行為の失敗学についてはないしよ。

立ち話もそこそこにおれはねーちゃんにタマ大に連れてかれることとなった

さて移動中にねーちゃんの身内話

昔は家族で暮らしてたが10歳から出てた旅でいろいろ触発あったんだろうな、

数あるポケモン博士の1りめざして学業にはげみ、見事タمامシ大に合格した高INTの持ち主

今はタمامシのどつかアパート借りて1り暮らししつつ勉強の日々らしい内容は言うまでもないが携帯獣学系で、

ポケモンどうしの相性について研究してるらしいここでいう相性はタイプでも性格でもなく種族単位で仲良しになりやすいか興味ないねか、それとも絶対許さない敵対関係かという研究

ねーちゃんが例にあげる有名どころではザングースというポケモンとハブネークというポケモンだがコイツらお互い殺意の波動に目覚めてる仲。

だがねーちゃんに言わせると「実に建設的な関係」であるらしい。たまに帰ってきたときとかにちよくちよく聞かされてるがそういったポケモン相性はおれは知りたくないしおれの人生で知る必要もないと思う。

ねーちゃんと旅の話題とか雑談だべりながら歩いて回想してみるとそのうちタマ大ついた入り口警備室でやりとりし、関係者のカードついたヒモ首にかけられてそのまま入場だが

話題はボール代の請求の話になっていた

「モンスターボール買って金欠が近いから金くれ」

「あ？ アンタおねーちゃんからカツアゲしよっての？」

「違うぞコレは捕獲代行料だから公平な請求。」

ねーちゃんは俺にクエスト依頼したんだから報酬あるのは当たり前でしよう

これは対等な誓いなので守られなければならない

わかったな」

「そう、残念ね。おねーちゃんもお金に余裕があるわけじゃないの」

「おい！ 俺は飢えないが俺のポケモンが美味に飢えるだろうがポケセン食堂のタダ飯食わせろってのかよ！」

「アンタわざわざフード買ってんの？ いーじゃんポケモンセンターのタダ飯で」

「みんなのモチベーション下がるからダメ」

その後かかく交渉が始まったゼミという場所につくまでやってたが終わってみれば『きんのたま』なる5000円で売れるらしいウソくさいアイテム1つだけという約束で終了

畜生ねーちゃんは馬鹿だ。

後で覚えてろよ

でゼミの部屋という室内に入ったが中には3りいて机にノートのばそこんに向かってなんかやってた。

汚い部屋だな。ピカピカに掃除してやろうか

おれがもじもじしているとねーちゃんは同志と会話しだしたこつちにも「かわいいー」とか来たがおれはかわいいがられるために来たわけではない

さつそくダグトリオ入ったボール見せるとねーちゃんは確認済みだがほかの3りが群がってきたねーちゃんは数ある棚の1つに行つてなんか取り出すときんのたまが差し出された。

更にねーちゃんは誰も座ってないボス格のヤツが座りそうな机のよこにヒールマツシンに似てるけどどこかおかしい未知の装置に指差す。

「そこに3つのモンスターボールがあるでしょ？」

1つだけ、ダグトリオと入れ替わりに好きな子選んで持ってっついていよ

27. 鎧が盾なら盾は剣の地位にあるだろ？

どれを選ぶというとは同時に選ばれない存在がでるといふ名セリフが浮かんだが元ネタはというと

必死に頭を回転させたが何も出なかった

おれは3匹から1匹選ぶという決断突きつけられビックリしたてつきりだが1―1の交換だと思っていたから多勢に風情でどれ

を選ぶか迷う

そういうときは好みで決めると良い

つまり背中に尖った部分が多いやつが圧倒的に誘われやすいですが

偶然にもひらめきに輝くこと思いついた

「ダグトリオはディグダ3匹ぶんになんかどうするユニットの集まりだからこれじゃ3対1交換

これは対等ではないので3―3の交換することが世界のバランスが取れるというもの」

「そういうのいいから」

わかっていたことだがダメらしい俺も3匹も渡されては世話に困ってしまう思いついたから言ってみただけ

とりあえず3つ並びのボールに歩み寄って覗き込んだところ、普通なら赤白の透けてる赤が透けなくなってる

「おいイ？」

中が見えない不具合があるんだが……」

「不具合じゃなくて仕様ね。

ボールの台座の下に四色のボタンがあるでしょう？」

青か緑のボタンを押してごらんさい」

というので手始めにいちばん左あった緑ボタン選んでポチツツとすると装置の背後に佇んでいたモニタ光って喋った

——サンドパン。ねずみポケモン。

——縄張り意識が強く、事あるごとに周囲と張り合います

——なついていないときはツンケンしてきますが、懐くとベツタリくつついてくれたりします

——メロメロしてる姿も良いですが、バトルのときに見せる凜凜しい姿にきゅんときますね？

——あと、けつこう爪研ぎするのが好きみたいです。しやきんしやきんとし始めたら構うのをやめ、見守ってあげましょう

——アローラ地方、ラナキラマウンテンの環境に適応したサンドパンである彼は、カントー地方に見られる同種とは異なり、丸まって転がりはせずに雪の斜面を腹這いに滑ります

——また、雪にまぎれこむ特性を持つようで、野性でお目にかかることは極めて稀でしょう

——アローラ携帯獣学会の調査により、サンドからこおりの石で進化するポケモンであることが確認されています。

どうやらモニタには中に入ってるポケモンPVっぽい

どうやって撮影したって方法だよ？

多方面から雪山暮らしのサンドパンなるポケモンの特徴と生態が映されていた

どちらかという中にいるだろう個体の個人情報が多かったがな
アテレコと思わる声は知らないボイスだがたぶんだがゼミの誰かの声なんでしょう

サンドパンがどんなヤツかというのがよくわかるだった

ねーちゃんが予告した通り頭から背中まで尖った部分が多く、青系カラーにクリスタルなトゲが素晴らしい
どうやら進化後のぽけものようだが

進化前のヤツの姿がリアメスが蹴りたがってて

更に仲間に入れて欲しそうにしてたヤツの色違いだった
なるほどな、進化前は丸いポケモンでも進化したら尖った部分の多いポケモンになるやつもいるんだな

勉強になるがレポート書くふいんきじゃないから後にしとく

関心が鬼なり見てたらそのうちPV終わりらしく

またさいしよからやりなおしてた

次は青ボタンの番なのだ

ポチツつとしたらバトルビデオはじな

相手は2pカラーっぽい茶色のサンドパンのようだが場所が雪山のままなのでバトルフィールドのステージの点で青のほうが圧倒的有利。

けしきに紛れて見えにくい氷ミサイルを自在に操り鋭いステイール属性のメタルクロススイフトで勝ってた茶色のも頑張ってたが雪山に馴染めてないみたいで圧倒されていた

素晴らしい動画だすばらしい

どうやら緑ボタンが一般的に生態PVで青ボタンがバトルビデオらしい事が判明

背後からは次に研究したいポケモン捕まえてきてくれた上テスターまでしてもらえたというような会話だがあまり聞いてなかったそんなことよりも次が気になるので真ん中ポケモンの紹介見に緑ボタンポチツつとな

真ん中は紹介はイワンコだった動画では、どっかのはらっぱエリアで他のいぬタイプポケモン複数たちと戯れていた

紹介ボイスも聞こえるが黙って欲しいそんなのよりみんなの息遣いとか鳴き声とかだがもつとログに残すべき重要こうもくが分からない馬鹿ですか？

俺のそつちよくな感想に誰か1りがパソコン作業に戻ったんだろ
うな、なんかカタカタしだした興味ない

ところでイワンコのことだがコイツ分類がこいぬポケモン
そのままでは背中はそのなになに尖ってないが

おれはククイの先発エースで進化形態のルガルガンっていう
もふもふとトゲトゲが両立に両刀する

サンダース系の触りごこちに進化することは知ってるぞ？

バトルビデオ切り替えたらさっきまで一緒に戯れてたデルビル相手だったな。

たいあたりしあったりかみつきたりしたあとに出してた岩っぽい技で勝っていた。

ナイトの岩石封じと似てるたぶん同じ技

サンドパンのかっこよさと比べて愛らしさ重視の動画なのか明瞭に明白であった

最後に右ボタン今度は立派な盾動画が……違った背中だった

どうやら背中に盾を持つポケモンの背中アップからスタートしたPVらしい

背中にトゲトゲと尖った部分が多く敵に致命的な致命傷を与えられるかもしれない結構攻撃的な甲羅の盾に見える

——バクガメス。ばくはつがめポケモン。

——この子はのんきなんびりやさん。あまり動き回らずにここと決めた場所でふせ、そのままよく寝てます。

——寝そべっているときに構ってもあんまり遊んでくれません。

——背中を揺さぶって起こしたいところですが、触ってはいけませんよ？

——でもこのように、興味がわいたものにはのそのそ歩み寄り、前足でつついたり、持てるものなら抱えたり、あるいは吸い付いたりします。

——今はピッピ人形がお気に入りみたいですネ？

——アローラ地方、ホテリ山に生息している彼は、ふだんあまり動きません。岩に擬態し、近づくものに攻撃するため、激しく動きまわる必要が無いのです。

——外見からコータス種との関連性が注目されており、コータスとは別進化の関係にあるのではないかと見られています。残念ながら進化前のポケモンは見つかっていません

そこで動画終わったバトルビデオに切り替えると相手はスピアー三匹がかりという危険な状況から始まるのだが、バクガメスは一歩も動かず余裕に全滅させていたすごい

稀にだがスピアーって雑魚ポケモンとか言ってる馬鹿がいるが一度でもスピアーの群れに襲われたことがあるなら絶対そんな台詞でない

あまりしつこいと囲んでみだれ突きされる痛さと怖さを教えてやろうか？

偶然にも俺の地元には絶好のポイントがある（教育的指導）

内容だがバクガメスは巧妙にバレバレな擬態で岩になってるところをスピアーたちはスリーマンセル行動してたのだが気付かず飛び回っていると次を次のしゅんかん 大爆発 くらっていた

一回目では理解不能状態だったが三回連続で繰り返し見ると

バクガメスはぜいじん射程内にとらえた瞬間しつぽで盾の背中叩いて爆発させる事によって

手を出していないのにもかかわらず「お前そこにいたのか・・・」と歩み寄るさまは

敵に恐怖を与えひん死なったスピアーは光の粒になって消えていった

そのうえ大爆発したにも関わらずバクガメスは全くノーダメージみたいで

いわゆる点でノーリスクのノーリスクハイリターンポケモンであつた！

ということは普通の大爆発じゃない別の炎の爆発なのかもなー

バクガメスはというとスピアー消したらまたもとの場所戻って寝てた（貫禄）

こいつからは大物感ただようオーラが見えそうになってる
繰り返し何度も見つめていたのでねーちゃんピンときたのか横並

んできて話かけてきた。

「バクガメスが気に入ったのかしら？」

「俺が思うに3匹ともいわずれ劣らぬ尖った背中ばかり

この3匹から1匹選ばせようとするねーちゃんが憎い

あと2匹ねーちゃんがほしいポケモン捕まえてくるからぜいじんキープを要求」

「ダメよ」

「何故？」

「3種類の異なるタイプから1匹だけ選ぶということが重要なのよ。けつだんは おとなへの だいいつぽー！

あのレッドも オーキドはかせから おなじこと したらしいわよ！

あんたも 12さいの おとこのこ なんだから

しのごの ぬかしてないで ビシツと えらびなさい！」

ちくしょうただの伝説の最年少チャンピオンのリスペクトじゃねーか

よのなかの博士タイプはきつとだが二匹目のドジョツコ狙いでみんな同じようなことしてるんだろうな

オーキドのパクリのニセモノ行為それが今回の目的かよ俺はぜい
いんほしいぞ？

……

……

……

おれはもつかい3匹の動画見直したりして必死に頭を回転させた
やはりいづれも偶然だが俺が手持ちに迷うやつらばかりだった

だがあえていうならイワンコは完全にペットの為の生贄だから簡
単仕様で

バツチ集めてないときのトキワの森生活ならともかく、今から連れ
歩くのはイバラだろうな

残るはサンドパンとバクガメスだが

サンドパンのが一番トゲトゲに見えたのは事実。

だがバクガメスには及ばないな。

あんな氷でできたカラダで炎の爆発に勝てるわけがない

しかも腕力もみた感じバクガメスが圧倒的に上で詩かも炎だから
2匹が向き合ったら負ける要素がない

なにより盾といえはぼうぎよの基本であって鎧が盾なら盾は剣の
地位にあるだろ？

俺は赤系トゲ甲羅の爆発盾ポケモン、バクガメス選ぶことにした
「じゃあ一番右のAボタン・・じゃなくって、赤いボタンを押してね」
別に言いなおさなくていいぞスーフアミと同じボタン配色と並び
なのは気付いてた

俺は言われたとおり一番右にある赤いボタン押すとモニター切り
替わる

『バクガメス を えらびますか？』

A/B

新たにモニタに表示みた俺は赤ボタンもつかい押すとぴーぴーい
う音とともに右のボールだけ赤い部分透けだした。

ねーちゃんに確認するともう触っていいらしいおれはボールを手
に取った

中には背中に向けて顔だけぐるんどこっちみてるバクガメスの姿。

動画的にかなりの大サイズみたいだから今ここで出してやれない
「よろしくな」とだけ声かけしとく

とりあげた位置にダグトリオ置いて欲しいそうなのでカチャツと
セツトしてやった

その後遠隔でなんかやったのかこっちのボタン触ってないがマッ
シーンがぴーぴー鳴って

赤色がひ透明になっていく、かがくのちからってスゲー

それにしてもだがPVはどいつもやたらとアローラのアツピル
だったのが気になったから

聞いてみるにどうやらポケモン大好きくらぶ経由でクワイ博士に
コネあるねーちゃんが

普通なら手続きで大変なことになるというアローラのポケモン
ゲツトのため

交渉結果みんなでアローラポケモン紹介PV作ったらしい

クワイはアローラ地方のポケモンが世間に広めらるるチャンスの
広告が作ってもらえて情報勝利

ねーちゃんたちはカントーに持ち帰るのムツカシイ、地方限定ポケ
モン手に入り更にゼミ仲間と研究できるので研究勝利

相互に限られたコネでおたがい勝利条件が満たされただけという
WIN―WINの関係になるな

ちなみにPVの撮影方法聞いたがスーパーコンビゅーたのパワー
で再現されたシュミレーション空間で撮影したんだと。

さてニツクネーム考えて決める時間だべな、

あるのとないとじゃ今後の仲良し度が段違いだし

やいばのたて……はニツクネームって感じじゃないな

バクゴ……はアニメのキャラネームだろ

バクメス……リアメスとメス部分被ってるからダメ

スパイク……リアクト……アカメックス……カッパ……カッパ

寿司……よし、決めたぞ

「お前は今日からブレスパと呼ばれる存在になった覚えとくと良い」

その後おれはねーちゃん家いってメシ食わしてもらってお互いの
ニドラン族戯れさせたり風呂入ったりして寝た

ブレスパとは明日から交流する手はず

27. トゲ甲羅の炎熱ブレスパ

朝起きたらソファなんだか背中じゅう痛い、

カラダ起こしたらバキバキで疲労の証拠に苦笑がでてしまう

おれはねーちゃん家のマンションで一泊なんだが

借り主たるねーちゃんはまだ寝てるらしいもう太陽はおはようなの
に遅すぎる、

それとも大学生だからこの時間はまだおねむか？

とりあえず顔洗ったりストレッチしてでスツキリ目覚めると

昨日のうちに夜干しきしてもらった洗濯物ベランダから回収、

その後冷蔵庫行ってありあわせの料理やろうとしたら残念がはつきり
いって大したモン入ってない

ま調理は可能だがな

完全オリジナル食ぱんトーストとほうれん草炒めにしてやろうか

まずはテーブルにあった食パンに丸いハムのつけて更にマヨネー
ズコーティングするとレンジにいれてやった

ぽちぽち設定してスタートすると次はフライパンの番なのだがオ
イル引いて加熱に準備の構え

そのスキに冷蔵庫から出してたベーコンとほうれんそう包丁でズ
タズタに引き裂いてやったら

フライパンに熱が十分なので、すかさず切ったやつらを投下に投入
ついでぎのバター投入で炒めが更に加速した

ああ文明開化の匂いがあるな食事は良い匂いからという言葉が染
み渡る（至福）

そのうちレンジがチンなので完成という合図1分ってところか、

じゅうぶんに炒めたら二皿に分ける

更に朝メシ高品質にするなら非ポケモン存在ニワトリのエッグと
いうものがオススメなのだ

レアアイテムの高級品で冷蔵庫にないのでは作れと言われても無
いという理由で始めから調理成功率は0%だった

レンジから食パンだとほかほかマヨねんズの匂いがただようこ

ちらもうまそうのかおり

包丁の切断属性で耳の半分に残った二つしたら皿に乗せて完成

おれは一晩泊めてくれたねーちゃんのために2枚目のトースト準備してると

ねーちゃんの部屋からがさごそなので「朝メシ作ってるぞ」と声かけしてやった

するとパジャマねーちゃんがウインディのサーティーン横につれて出てきた

実は俺がねーちゃん部屋に侵入してたらオートで撃退のつもりだったらしい余りにも牙を剥きすぎているだろ

こいつと会ったの昨日初めてなんだがおれに牙向くのもねーちゃんが大事という意味だから信用の証明になる

別に俺はお礼を言えと言ったわけではないが通りすがりに「おはよ。用意ありがと」ときた「おはよう男ならこれくらチョロいこと」

ねーちゃんはというとそのまま洗面台に行った
すると二枚目のトーストできたので皿に盛ってやり

最後にモーモーミルクグラスに注いで箸も用意したら人間の朝メシ準備は完了に完結した

次はポケモン飯の準備

3枚の皿にリアオス用、リアメス用、ナイト用だがいつもと違い今日はねーちゃんが購入してるポケマメがあるのでそっちくれてやる。

どうやらデパートで特売に売ってるらしいがぜんぶの味のセットしか売ってくれないらしく、あまりがまわってきたというワケ

これもククイ博士のアローラアツピール戦略だか便乗した第三者の手口かは分からないが美味いやりかただと思うぞ？

バクガメスのブレスパ用の皿はまだ買ってないが今日買いに行く手はず。

代替にねーちゃんが来客者よりのポケモンに用意してある皿借りてポケマメセット。

おれはまずはじゅんばんにリアオス出しとくと

自分用の皿みてがつつこうとするのを「待て」といつて待機させ

おれもだが席について待っているとそのうちねーちゃんが洗面所から出てきた

横にはニドクインのエアリスの姿

ウインディはボールに戻されたみたい

ねーちゃんまだ眠いのけ目えこすつてたが戸棚の下段から皿だしてエアリス用のメシ準備しだす

エアリスはというとテーブル横のちゃぶだいにマイ皿の前で合図も必要とせず待機、リアオスになんか鳴き声かけてたたぶんだが「おやしよう」とかそういう挨拶でしようリアオスもどりの鳴いて返してた

ねーちゃんは冷蔵庫からラップされた大豆系サラダ出して座った

「いただきます」

「まーす」

俺らが片手にトースト、片手に箸でほうれんそうとか食い始めても2匹はまだ食わない「よし」俺とねーちゃんが偶然にもハモツてそういつたと同時に食い始める

我ながら朝メシは美味くお手軽食なのに感動だった

それにしても食い歩きできるくらい金欲しい（要望）

「ほりや、大豆食え大豆。大豆食べないと大きくなれないよー」

「もちろん食べる手はず」

箸で大豆だと苦戦だがサラダの葉っぱに包むと簡単に捕まええられる

すると俺らより圧倒的に早く食い終わった2匹は鳴き声で合図なのでボールに戻し、次のポケモンを繰り出すと止めてないのですぐメシに食いついた「テレビつけるよー」ねーちゃんは一声かけた後りもこんでTV操作した

チャンネル操作後番組は朝のモーニングショーなるニュース

どうやらいまの話題はクイ博士らしく、バカンス系地方にポケモンリーグはいかがなものかという内容。

2りくらのコメントーターが賛成と反対のポジションに分かれ、「観光に来たのにバトルに挑まれる機会が増えるのでは?」「いや実力

さえあればポケモンリーグ本部はどの地方でもウエルカムでしょ」みたいな議論やってた

議論はたいして続かず話題はアローラ特有のポケモンになったところ顔色が黒いニヤース達が戯れていた「自慢じゃないけどあのPV私らが作ったの」とジマンしてきた昨日みしてもらったのは別に5匹か10匹分のくらい作ってたらしいすごい

「や、作った甲斐あったわ。

マッキーの音声編集で消されてるのが残念だけど」

「それでもカントー中に情報発信されるムービー作れるのはすごいと思う」

「それほどでもないわ」

その後もポケモン入れ替えつつ朝メシ食わせ、こちも食べ終わるとねーちゃん歯磨きに行ったのでおれが皿洗う

最後に出したブレスパは出しっぱなしにしてたが特に動き回らずおとなしくだった。

「ポケマメ美味かったかよブレスパ？」

と声かけすると鳴き声が返された美味いという意味なら良いのだが。

皿洗い終わってかんそうきに並べ、やること終わると

座ってるブレスパと向き合う

昨日も思ってたことだがやはりというかサイズでかく、立ってる俺と同じくらいに位置に顔面の高さ

PVによ通りののんびりさんらしくぼけーつとしたか鬼なつてたヤドン族と通じるところがあるかも

当然こいつのほうが表情豊かだろうがな

俺はリュックからやわらかボール差し出すと興味深そうに受け取ってむにむにしますので

スキについてウデとか熱であったかいとこ触りコミュニケーションしてると

そのうちねーちゃん歯磨き終わったみたいでそのまま部屋に戻りたぶんだが着替えに行つた

俺はブレスパをボールに戻し、マイ歯ブラシで歯磨きに掃除。

朝の準備終わったので俺は扉越しに「泊めてくれてありがとう」とねーちゃんに言つといた「ま、やれるとこまで頑張りな」とエール返された

ニドリーノのクラウドだろう激励の鳴き声にパワー100倍の1.5倍くらいあがる気分

もういかなくちやなので俺は意気揚々とねーちゃん家から出た

エレベーター内でエンカウントしたマンションの住民っぽいしゅふ層の人から誰の若いスバメか聞かれたが

噂に踊らされてるアワレな一般人だと思ったそれは偽情報だぞ

そもそも俺はスバメではない姉の家に泊まっただけと見事なカウンターで返した

とりあえずタمامシとヤマブキの間にある7番道路でみんなの顔合わせさせにいった

デパートまだ開いてないので後回し

朝だけあってサラリーマンらしいジョブの人たちがヤマブキ目指していたヤマブキに家が手に入らないんだろうな、タمامシから通いらしい

隅っこの方にある草むらじやない原っぱに4匹とも出すと注目の的だったが

学校生活では日常の出来事だったから放置にして「こいつ新入りのブレスパだぞ。仲良くしろよ」とみんなに言つてやる

昨日はねーちゃんちはぜいいん同時は出せなかったから顔合わせは今日がはじめてということになる

リアオスはしっぽと後ろ足で立ちあがり背比べしてたが高さ足りないみたいで悔しそうだったな……

リアメスもおんなじように立って挨拶っぽい鳴き声だがブレスパはというとナイトが気になるらしく抱き抱えていた。

ナイトは触手でブレスパの腕にからみついていたが気にならないのかブレスパはのんきに鳴き声だった

シカトされたリアメスはいつもと違う唸りの鳴き声

「やめとけ」おれが止めるとどりーな鳴き声たぶんだが「なんなのアイツ」とかそういう意味でしょう

これは良くないチームがバラバラになってしまう予兆の兆候
放置してるといつまでも後に響く感

おれはブレスパに「仲良くといってるのが分かりませんか？」と言
うと聞いているんだか無いんだかナイトと戯れてる

まずはリーダーシップに今のおやをわからせる必要性を感じるな

……

俺はナイトとリアメスをボールに戻し、近くの草むらずんずん歩み
寄った

リアオスにはデイグダの穴で目覚めてたっぽい支援効果のあるポ
ケモン・パワーでブレスパのてだすけさせ、ブレスパに何するか見定
める構え

何できるかくらいは昨日のうちにねーちゃんから聞いているがやは
り今やりたいことさせるべきだからな

そのうちやせいのシマ荒らされてと思っただらうな、ニヤースと
かマダツボミとか出てきた

ブレスパは敵に背中を見せると戦闘モードみたいで横顔の表情が
変わった

さてなにをするのか「やりたいようにやっていいぞ」とだけの指示
で見守ると

ブレスパの動きはにぶくニヤースに先制攻撃されてたが

背中ので防いでまるで効いてないに見えるしかし盾爆発はしな
かった。

お返しにニョキツつと尖った口からファイアーブレス吐いて一蹴
していた

かなりの高火力で目を見張るほどの威力のあまり草村にも燃えう
つったのだが

ポケモンパワーの神秘だからかそのうち自然に消えていく……

ブレスパは支援効果の火力あることに気づいたんだらうな、ようや
くリアオスに視線やると鳴き声交わしていた

その後何回かバトルするのだが使うのはかえんほうしゃばかり「かえんほうしゃ以外に何かできるかよ?」と聞くと

次のやせいポケモンには貧弱なじたばた攻撃したり鉄壁のまもりを見せてくれた。

終いにはそのゆつくりの動きからは信じられないほど飛び上がり、のしかかりプレスまでする始末

動画で見せてくれた盾の爆発わざは使わなかった切り札はとつとくタイプか?

リアオスも支援の援護パワー付与ばかりではストレスなんだろうな、俺にも一撃入れさせろというような鳴き声しだした

おれはどうせなら切り札も出させたかったが今日のところはここらへんにしといてやる

リアオスにも攻撃させると冷凍ビーム出したときにブレスパの表情が変わったのを俺は見逃さなかった

ねーちゃん情報によるとブレスパはほのおタイプとは別にドラゴンのタイプで、

ドラゴンタイプ最大に有名な弱点である氷タイプにも並のドラゴンより強い

だがドラゴンいんしとでも言うべきか多分だがそういうのに氷の恐怖が刷り込まれてるのかビビっていた

ということは昨日みたサンドパンがわは実は互角にやりあえた可能性あるな

そのときはドラゴンタイプだなんて知らなかったから思いつかなかったがな

俺の狙いは得意わざ出させるだけださせて力量をはかれたらそこから反転パターン

リアオスに本気出させず溜めていた攻撃で信頼ゲットだしそうしたら当然流れはこつちになるしな

そのうちブレスパはリアオスに一定の実力を認めたらしいのが見てわかるだった。

すると立場逆転なのか攻撃はリアオス、防御はブレスパという役割

分担で

戦い始めたブレスパのぼうぎよは固く隙を見せなかった

リアオスはカカツつとダツシュしブレスパの陰に隠れたり出てきて攻撃したりすると早くも呼吸の合致だが

もつと仲良くなつたらもつと良くなる手はず

しばらく戦わせたのち2匹を褒めるとブレスパはまんざらでもなさそうな様子に

おれは狙いの成功を核心したがそろそろポケセンか、といったところでタイマン挑まれた。

「やあー、ダブルバトルの練習かい！ 相手しようか？」

相手は見るからに塾通いといった風貌で

こつちが弱るまで待機してたのかと思うと神経逆なでだが

バトル挑まれたらトレーナーは背を見せにくい（お約束）

すると「行け！ スターミー！ ゴローン！」といまだしてるブレスパとリアオスに強そうなポケモンだしてきた

汚いな流石塾通いきたないあもりにもヒキョウすぎるでしょう？

おれダブルバトルのタイマンするの初めてなんだが相手は慣れてるらしく「スターミー！ ハイドロポンプ！ ゴローン！ いわおとしー！」ときた

どうやら狙いはブレスパのようなのですかさずボールに戻すとリアオスには冷凍ビーム撃たせ、ダブルするならばびやと信頼のリアメス繰り出した「行けリアメス！ 十万ボルト！」と不意だま攻撃返してやった

もちろんハイドロポンプともいわおとしともぜんえん関係ない位置に出すので無効に効果がないのだが

するとなんか物言いズルいとか来たが、本当にズルいのはどっちだかいつしゅんでは分からないみたいだった

ゴローンとか呼ばれたヤツはビームで半分氷漬けになりスターミーもボルトで弱った

ケドそんなことよりいちやもん優先の態度のトレーナーだがお前のいちやもんはポケモンには効きにくい（無視）

おやに助けてほしそうにしてる2匹にもう一撃つつ同じ技きめると2匹とも倒された。

どうやら手持ちはあと1匹だけみたいで「頼む！レアコイル！」とだけ言つて二匹目は出さなかったダブルニドキツクの四回連続攻撃で倒された

さすがニドラン族といったところか見事な連携だと関心はするがどこもおかしくはない

「対戦の結果がこれ一足先に言うべきだったな。お前調子ぶっこきすぎてた結果だよ？」といってやると賞金払つてヤマブキ西ゲートに逃げていったアワレでしかたなかった。

おれはタمامシ側に用なので反対方向だがまずはポケセンで回復休憩、

そのあと徒歩でたどりつける位置にあるデパートで

皿とかフードその他補充していると金欠の状態異状に陥った

しょうがない切り札を出すきんのため差し出すと

マジで5000円で買ってくれたのには嘘じゃない現実にビビつたが

そのおかげで金足りたのは助かった〜姉感謝

ブレスパはピッピ人形好きらしいがもつと懐いてきたら金あったら買つてあげるつもり

フレンドリイ・ショップコーナーの他にもデパートは色々なのでウロウロしていると

そのうち特売コーナーについたポケマメは海外の天然ポケモン食だけあつて値段が桁違いに高く、とても手が出なかった

ねーちゃん金無いとかなつてたけど絶対ウソだろ……

特売コーナーがポケマメなので進化系の石は売つてなかったつきのいしも当然だがなかった

アレは並の石よりさらにレアリティ高いからな

とりあえず各階ウロウロしてウインドウズショップピングだが

ドーピングアイテムは高すぎるし、わざマシンもだがどうやら使い捨ての旧式タイプは安いのなら買えるかもしれない値段。

当たり前だが使えるかどうかも知らないのを買うはずがない

下から順に見てつたので最後に屋上だがヒーローショーの準備が
されていた

仮面戦隊ライダージャーやるんだってよ

気になるものそっちより新入りのブレスパとみんなの仲良しが
先なので断頭の思いで戻りエレベータで一階に移動

そのままデパートでてタムシ公園行って交流の散歩に行くの
だった